

入門 シャレミア語

Zipil Shaleiras

初めに

本書『入門 シャレイア語』は、初学者がシャレイア語を一から学ぶための初めての入門書です。

シャレイア語の公式サイトには文法をまとめたページがありますが、初学者が文法を学ぶためのものというよりも、すでに文法をある程度知っている人が改めて文法を確認するためのものという側面が強いです。そのため、必ずしも難易度順に項目が並んでいるわけではなく、説明も初めて学ぶ人にとっては少し不親切な点が多く見られます。本書は、サイトで公開されている文法書の内容を網羅しつつも、初学者にとっての分かりやすさを重視して書きました。

シャレイア語とは、私が2012年より創作している人工言語です。人工言語というのは、日本語や英語のような人間が意思疎通のために自然と作り上げてきた言語に対して、特定の人間が意図的に創作した言語のことを指します。人工言語を作る目的は様々ありますが、私がシャレイア語を作っている目的は、私自身の世界の捉え方を言語を媒介として表現するためです。この本は、そんなシャレイア語の文法を一通り知ることができる本になっています。

もちろん、言語は文法だけではありません。個々の単語の使われ方や微妙なニュアンスの違いなども、言語の重要な要素の1つです。このような本書で扱いきれなかった部分は、以下のシャレイア語の公式サイトで全て見ることができます。シャレイア語の辞書もこのサイトから閲覧およびダウンロードすることができます。

シャレイア語公式サイト『Avenida』

<http://ziphil.com>

本書は、計32課から構成されています。各課の冒頭には、その課で学ぶ構文を用いた代表的な例文を抜粋してあります。また、およそ4課ごとに演習問題を収録してあるので、学んだ内容の確認として利用してください。

最後に、本書を読んでシャレイア語の世界に興味をもってくださったのなら、大変嬉しく思います。

2018年11月

Ziphil Shaleiras

目次

初めに	1
目次	2

第 1 部

1 ▶ 文字と発音	8
シャレイア文字と転写	約物
シャレイア文字	アクセント
補助符号	旧シャレイア文字について
数字	
2 ▶ 動詞と助詞句	16
注意	助詞の使用例
動詞が必要	i
助詞句	
3 ▶ 形容詞と副詞	20
形容詞	動詞を修飾する副詞
形容詞を修飾する副詞	語順のまとめ
名詞を修飾する副詞	
4 ▶ 語彙的品詞と文法的品詞	24
語彙的品詞と文法的品詞	動詞型不定詞の文法的品詞の意味
2つの品詞の関係	文法的品詞と活用
文法的品詞と意味の違い	
5 ▶ 不定詞の活用 I	28
活用の形態	相
動詞型不定詞の動詞の活用	経過相と継続相
時制	自他
6 ▶ 不定詞の活用 II	34
動詞型不定詞の動詞以外の活用	名詞型不定詞の活用
副詞型不定詞の活用	副詞の種類
◆ 演習問題 1	36
7 ▶ 特殊な動詞	38
sal	kav と qet
形容詞をとる助詞	

8 ▶ 否定表現	40
動詞の否定形	名詞の否定形
形容詞と副詞の否定形	否定相当語
9 ▶ 疑問表現	44
諾否疑問文	助詞と作る疑問句
諾否疑問文への答え方	疑問詞疑問文への答え方
疑問詞疑問文	
10 ▶ 助詞句の順序	48
話題と新情報	助詞句の省略
文章の流れ	日本語と対応しない助詞
11 ▶ 受動相当表現	52
受動相当表現	感情動詞
主語がない受動相当表現	
◆ 演習問題 2	54

第 2 部

12 ▶ 連結詞	58
語句の接続	á による選択疑問文
連結詞	á と é の違い
文の接続	
13 ▶ 接続詞としての助接詞	62
接続詞としての助接詞	接続詞節を修飾する語句の位置
接続詞としての助接詞の用法	接続詞の副詞的用法
接続詞節の位置	
14 ▶ kin 節	66
kin 節	kin 節を修飾する語句の位置
kin 節とよく使われる動詞	kin 節の時制
kin 節句の位置	
15 ▶ 動詞の助動詞的用法	70
動詞の助動詞的用法 (その 1)	助動詞的用法の例 (その 2)
助動詞的用法の例 (その 1)	kil と qif
動詞の助動詞的用法 (その 2)	
16 ▶ 反復表現	74
反復表現	反復と相
◆ 演習問題 3	76

17 ▶ 命令表現	78
命令表現	dit のない命令表現
18 ▶ 縮約	80
名詞の縮約形	ditat の縮約形
kin の縮約形	
19 ▶ 繰り返しの回避	82
met	l
20 ▶ 限定節	84
限定節	限定節の時制
限定節の例	
◆ 演習問題 4	88
21 ▶ 助接詞の非動詞修飾形	90
助接詞の種類	限定節の省略で現れる非動詞修飾形
非動詞修飾形をとる名詞や形容詞	動名詞を修飾する非動詞修飾形
22 ▶ 特殊助接詞	94
特殊助接詞の用法	特殊助接詞の言い換え
ke	feli と tace
ti	
23 ▶ 比較表現 I	98
優劣表現の作り方 (対名詞)	ni がない優劣表現
優劣表現の作り方 (対節)	形容詞句としての優劣表現
名詞との比較で表せない優劣表現	
24 ▶ 比較表現 II	102
同等表現	形容詞句としての最上表現
最上表現	dès と doqhiv
ve がない最上表現	
◆ 演習問題 5	106

第 3 部

25 ▶ 否定表現発展	110
二重否定	les による部分否定
全部否定と部分否定	
26 ▶ 疑問表現発展	114
ve による選択疑問文	諾否疑問文による間接疑問節
間接疑問節	付加疑問

27 ▶ 数の表記と読み	118
数の表記	小数の読み
整数の読み	動詞型不定詞と名詞型不定詞の数詞
28 ▶ 数詞の用法	122
基数と序数	日付と時刻の表現
回数の表現	名詞型不定詞の数詞の用法
le	
◆ 演習問題 6	126
29 ▶ 比較表現発展	128
差異の数値による明示	順位
倍数	「以上」と「以下」
30 ▶ 間投詞	132
間投詞	yo
主な間投詞	間投詞として用いられる助詞句
助詞句をとる間投詞	
31 ▶ 直接話法と間接話法	136
直接話法と間接話法	文から独立した発話部
時制と時間表現に関する注意点	叙述の現在時制
句読点の使い方	
32 ▶ 修辭的な表現	140
強調	反語
挿入	遊離助詞句
◆ 演習問題 7	144
演習問題解答	146
新出単語一覧	152

第 1 部



第1部では、シャレイア語の文を作るにあたって必要な最も基本的な文法を学びます。シャレイア語のどんな文を作るときも、ここで学ぶ内容は不可欠です。逆に言えば、この内容をきちんと理解していれば、それ以降に学ぶ複雑な構文もすんなりと理解できるようになるはずです。しっかりおさえるようにしましょう。

1 シャレイア文字と転写

シャレイア語には「シャレイア文字」と呼ばれる独自の文字があり、シャレイア語を表記する際は基本的にシャレイア文字を用いることになっています。しかし、シャレイア文字は Unicode などの文字コード規格には収録されていないため、コンピュータ上でシャレイア文字を扱うのは困難です。また、新しい文字を覚えてそれに慣れ親しむには時間がかかり、初学者が文法を学ぶにあたって障害となり得ます。

これらの理由から、シャレイア文字の各文字に対してラテン文字を対応させ、シャレイア文字の代わりにラテン文字で表記することも多いです。このラテン文字による表記を「転写」と呼びます。この本では、シャレイア文字の紹介もしますが、本文は全てラテン文字による転写で表記しています。なお、シャレイア語の転写部分はサンセリフ体(ゴシック体)で表記してあります。

2 シャレイア文字

シャレイア文字のうち、数字や記号などを除く単語を綴るための文字は、全部で以下に示す 25 個あります。基本的に 1 つの文字にそれぞれ 1 つの発音が割り当てられているので、その発音について説明します。



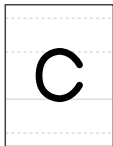
s /s/

日本語のサ行の子音と同じです。ただし、si の発音は「スイ」に近く、「シ」とは異なるので注意してください。



z /z/

日本語のザ行の子音と同じです。ただし、zi の発音は「ズイ」に近く、「ジ」とは異なるので注意してください。



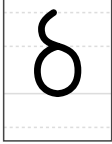
t /t/

日本語のタ行の子音と同じです。ti と tu の発音は順に「ティ」と「トゥ」のようになります。



d /d/

日本語のダ行の子音と同じです。di と du の発音は順に「ディ」と「ドゥ」のようになります。



k /k/

日本語のカ行の子音と同じです。



g /g/

日本語のガ行の子音と同じです。



f /f/

日本語のファ行の子音とほぼ同じですが、上の歯と下の唇の間に息を吹き込んで発音します。



v /v/

日本語のヴァ行の子音とほぼ同じですが、上の歯と下の唇の間に息を吹き込んで発音します。



p /p/

日本語のパ行の子音と同じです。



b /b/

日本語のバ行の子音と同じです。



c /θ/

英語の think や south に含まれる th と同じです。上の歯と舌の間に息を吹き込んで発音します。



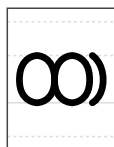
q /ɔ̃/

英語の **this** や **with** に含まれる **th** と同じです。上の歯と舌の間に息を吹き込んで発音します。



x /ʃ/

英語の **she** に含まれる **sh** と同じです。日本語のシャ行の子音とほぼ同じですが、厳密には日本語のシャ行より舌の位置が若干前になります。



j /ʒ/

英語の **usual** の **s** に現れる音で、日本語のジャ行の子音とほぼ同じです。舌を口の中の上部に接触させないで発音することに注意してください。



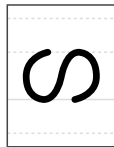
l /l/, /r/

/l/ と /r/ の2種類の発音があります。前者は英語の **l** と同じ音で、後者は日本語のラ行の子音と同じ音です。使い分けについては後述します。



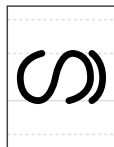
r /r/

英語の **r** と同じで、日本語のラ行の子音とは異なります。舌を口の中のどこにも接触させずに発音します。



n /n/

日本語のナ行の子音と同じです。後ろに母音を伴わなくても、しっかりとナ行の音を出します。例えば、**sen** は「セン」よりも「セヌ」に近い発音になります。



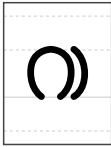
m /m/

日本語のマ行の子音と同じです。



y /j/

日本語のヤ行の子音と同じです。



h /h/,∅

日本語のハ行の子音と同じです。詳しくは後述しますが、全く発音されない場合もあります。



a /a/

日本語のアの音と同じです。



e /e/

日本語のエの音とイの音の間くらい音です。英語の end などの e と同じ音です。



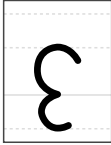
i /i/

日本語のイの音と同じです。



o /o/

日本語のオの音とほぼ同じですが、少しアの音に近い発音になります。英語の all などに出てくる a と同じ音です。



u /u/

日本語のウ行の音を口をすぼめて発音します。英語の blue などに出てくる u と同じ音です。

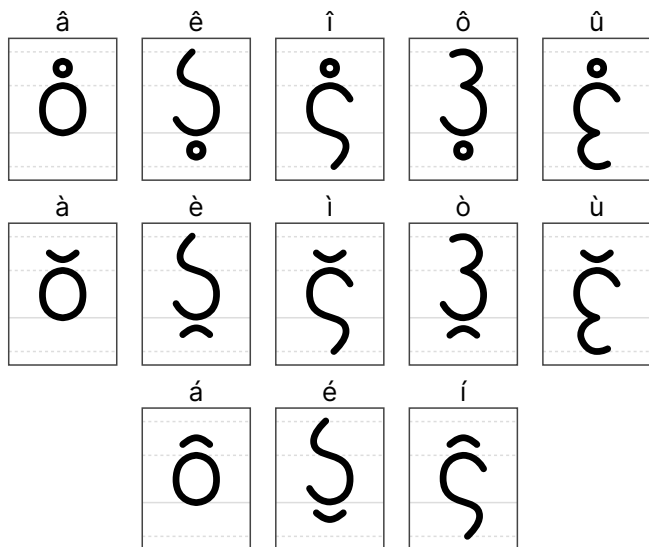
l の発音には /l/ と /r/ がありますが、後ろに母音 (a, e, i, o, u のいずれか) がある場合は /l/ で発音し、そうでない場合は /r/ で発音します。また、h の発音は基本的に /h/ ですが、後ろに母音がないときは全く発音されません。

第 14 課で出てくる kin とその縮約形の 'n に含まれる n のみ、例外的に /n/ で発音されます。これは日本語の「ン」に近い音です。それ以外は、上で説明した文字と発音の対応に従って、規則的に発音されます。

シャレイア文字の順番は上に示した通りで、ラテン文字の順番とは異なります。シャレイア語の辞書では、シャレイア文字順で単語が並べられます。

3 補助符号

母音字には上下に補助符号(ダイアクリティカルマーク)が付けられることがあります。以下に、補助符号が付けられた母音字の形と転写を示します。文字によって符号の位置や向きが変わるので注意してください。



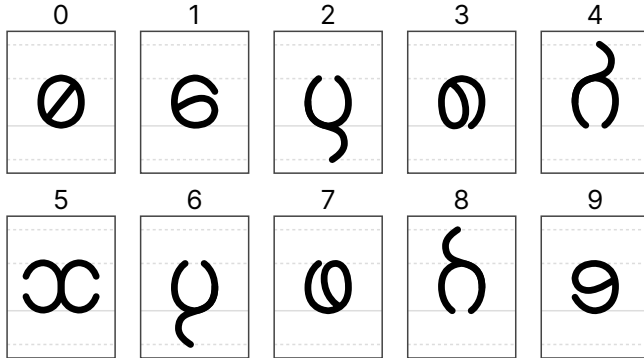
補助符号の有無に関わらず、母音の発音は一定です。例えば、a, â, à, á は全て /a/ と発音されます。ただし、第12課で扱う連結詞に含まれる補助符号付きの文字に限り、以下の表に示すように例外的に発音されます。

単語	発音	単語	発音
é	/ei/	lé	/lei/
à	/aʊ/	dà	/daʊ/
á	/ai/	lá	/lai/
ò	/ɔɐ/		

/ei/, /aʊ/, /ai/, /ɔɐ/ の発音は、それぞれ「エイ」、「アウ」、「アイ」、「オア」のようになります。ただし、これらは単独の母音が2つあるわけではなく1つの二重母音なので、1つ目の母音を強く発音し、2つ目の母音は弱めに発音します。例えば、/ei/ を発音するときには、「エ」と「イ」を両方はっきり発音するのではなく、「エ」の方を強く発音して「イ」は弱く発音します。

4 数字

シャレイア文字には数字もあります。シャレイア語では数を10進法で数えるので、数字は0から9までの10種類です。



数の表記法や読みについては、第27課で扱います。

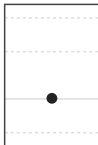
5 約物

コンマやピリオドなどの約物も、シャレイア文字特有のものがあります。以下に、代表的なシャレイア文字の約物を挙げます。文字の右側の説明文の1行目は、その記号の転写と名称を表します。



・ デック

ピリオドに相当する記号で、文末に置きます。転写の際はピリオドを使いますが、シャレイア文字としての字形は点2つなので注意してください。



、 タデック

コンマに相当する記号です。日本語の読点のように自由に置けるわけではなく、置ける場所は決まっています。



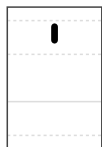
? パデック

疑問符です。疑問文で、デックの代わりに文末に置きます。疑問文についてはなどで学びます。



！ バデック

感嘆符です。大きな声で発話された文や強調したい文に対して、デックの代わりに文末に置きます。



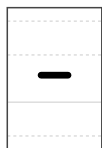
' ノーク

何らかの縮約形であることを表します。縮約形についてはで学びます。



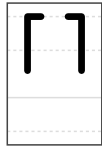
' ディカック

単語の前に置いて、その単語が固有名詞であることを表します。転写にはハワイ語のオキナ (U+02BB) を用います。詳しい用法は後述します。



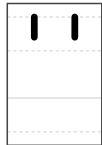
- フェーク

複数の単語を繋げて合成語を作ります。



« » ラクット

この記号で囲まれた部分が実際に発話された内容であることを表します。詳しい用法はで扱います。



“ ” ヴァクット

この記号で囲まれた部分が強調や引用であることを表します。

英語では、人名や地名などの固有名詞は語頭を大文字にして表記するのが普通です。シャレイア文字には大文字と小文字の区別はないので、代わりに固有名詞の前にはディカックを置いて、それが固有名詞であることを明示します。このディカックは基本的に任意で、置いても置かなくても構いません。ただし、人名の前には置かれることがほとんどです。

日本語では、会話文に対しても強調や引用に対しても鉤括弧を使います。シャレイア語ではこの2つの括弧を区別し、会話文に対してはラクットを用いて、強調や引用に対してはヴァクットを用います。

6 アクセント

シャレイア語では、不定詞の語幹の最後の母音に常にアクセントが置かれます。アクセントが置かれる母音は、他の母音と比べて音量が大きく少し長めに発音されます。補助符号の有無はアクセントの位置と全く関係なく、補助符号があるからと言ってアクセントが置かれるわけではありません。

不定詞とは、「私」や「本」や「食べる」のように、文法的な役割をもたず、物や概念や性質などの何らかの意味をもつ単語のことです。動詞として用いられている不定詞は、語幹の後ろに1音節の活用接尾辞が付けられるので、語幹の最後の母音というのは、活用形の最後から2番目の母音になります。例えば、*kotikes* は「見つけた」を意味する動詞ですが、*es* の部分は活用接尾辞で *kotik* が語幹なので、アクセントは *i* に置かれます。それ以外の品詞で用いられている場合は、語幹そのものか活用接頭辞が付いた形で現れるので、語幹の最後の母音というのは、文中で現れる形の最後の母音と一致します。

不定詞については、詳しくは第5課で扱います。

7 旧シャレイア文字について

シャレイア文字は2017年11月に一度変更されていて、上に示した文字の形は変更後のものです。変更前の文字を「旧シャレイア文字」と呼び、変更後の文字を「新シャレイア文字」と呼んで、両者を区別することもあります。

2017年11月以前に作成された資料には、シャレイア語が旧シャレイア文字で書かれている場合があるので注意してください。変更で変わったのは文字の形のみで、転写と発音の対応などは全く変わっていないので、転写が使われている分には混乱の恐れはありません。

hâres a tel.

▶ 私は笑った。

sôdes a ces e sakil.

▶ 彼はリンゴを食べた。

qoletes a tel e xoq i ces.

▶ 私は彼の本を売った。

1 注意

シャレイア語では、多くの単語が辞書に載っている形から変化して文中に現れます。

したがって、最初にその変化の仕方について学んだ後に、語順や構文などの文法に触れるのが良いのかもしれません。しかし、何も言語について知らない状態で単語の変化だけ学んでも、無味乾燥でおもしろくないでしょう。そこでこの本では、まずはシャレイア語の雰囲気を感じてもらうため、最も根本となる文の構造について最初に触れていきたいと思います。

単語の活用は第5課、第6課、第21課で扱います。少なくとも第6課が終わるまでは、活用についてあまり深く考えず、どのような種類の単語がどのような位置に置かれるのかに注目するようにしてください。

2 動詞が必要

シャレイア語では、少数の例外を除いて全ての文に動詞が必要です。動詞は文頭に置かれます。

hâres.

▶ 笑った。

この文の **hâres** は「笑った」という意味の動詞です。**hâres** は **hâr** という単語が活用した形ですが、活用については今後扱いますので、まずは **hâres** で1つの動詞だと考えてください。

3 助詞句

動詞の「笑った」だけでは誰が笑ったか分かりません。「私が」のような主語を明示したくなります。

「私が」や「リンゴを」のような動詞の内容や時刻などを説明する句は、助詞と名詞の組み合わせによって作られます。助詞は、日本語の「～が」や「～を」と同じく文中での名詞の意味的な役割を表し、名詞の前に置かれます。

以下に基本的な助詞を示します。助詞はこれ以外にもありますが、最低限これだけはおさえておきましょう。

助詞	意味	
a	～が, ～は	主語
e	～を	目的語
ca	～に, ～へ	到達点, 相手
zi	～から	起点
te	～に	時刻
vo	～で	場所

例えば、主語を表す助詞 a を「私」を表す名詞 tel の前に置いて a tel とすることで、「私が」という語句を作ることができます。このような助詞と名詞の塊を「助詞句」と呼びます。もしくは、使われている助詞の名前を明示して、「a 句」のように呼ぶことも多いです。

なお、上の表には対応する日本語の助詞を載せましたが、多くの場合でこの通りの対応になるものの、必ずしもぴったり一致するわけではありません。日本語の助詞と一致しない例は第 10 課で扱います。

助詞句は動詞の後に置かれます。

hâres **a tel**.

▶ 私が笑った。

助詞句が 2 つ以上ある場合は、動詞の後にそれらを並べます。

sôdes **a ces** **e sakil**.

▶ 彼はリンゴを食べた。

助詞句を並べる順番に文法上の制約はないので、話者が自由に並べることができます。しかし実際には、助詞句の順番にはある程度の傾向があります。これについては第 10 課で詳しく学びます。それまでは、主語 (a 句) を最初に

置き、それ以外の助詞句をその後に並べると考えてください。また、日本語のように主語を省略することは基本的にしません。

4 助詞の使用例

上の表に挙げた各助詞の用法をもう少し詳しく見てみましょう。

まず a と e は、それぞれ動詞の主語と目的語を表す助詞です。それぞれ日本語の「～は」と「～を」にほぼ対応します。

lices a tel e nât.

▶ 私は花を見た。

次に ca は、移動を表す動詞の行き先や、動詞のいわゆる間接目的語などを表します。日本語では「～に」や「～へ」に相当することがほとんどですが、「～を」に対応する場合があります。

lanes a tel ca naflat.

▶ 私は公園に行った。

séqes a tel e sokiq ca ces.

▶ 私は腕時計を彼にあげた。

zi は、ca の逆で移動を表す動詞の出発点などを表します。日本語では「～から」が相当します。

nifetes a tel e sakil zi sod.

▶ 私はリンゴを家から持って来た。

te は、動詞が表す動作を行った時刻を表します。例えば、「昨日」はシャレイア語で tazît と言いますが、これは英語の yesterday と違って名詞なので、te とともに te tazît のように使われます。

zédices a ces te tazît.

▶ 彼は昨日運動した。

最後に vo は、動詞が表す動作を行った場所を表します。例えば、「ここ」はシャレイア語で fêd ですが、これも英語の here と違って名詞としてしか用いないので、vo fêd とする必要があります。

kotikes a tel e monaf vo fêd.

▶ 私は猫をここで見つけた。

5 i

少し特殊な助詞に*i*というものがあります。これは日本語の「～の」に相当します。名詞を伴って助詞句を作るのは同じですが、できた*i*句は動詞と一緒に使われるのではなく、名詞を修飾します。

例えば、この*i*と「彼」を意味する *ces* を組み合わせれば、*i ces* という助詞句ができます。これは「彼の」という意味で、名詞を修飾する語句になります。したがって、例えば「本」を意味する *xoq* の後ろにこの助詞句を置いて *xoq i ces* とすることで、「彼の本」を表現することができます。*i* 句は修飾する名詞の後ろに置かれることに注意してください。

i 句とそれが修飾する名詞によって新しい大きな名詞の塊ができるので、これにさらに助詞を付けて文中で用いることができます。

qoletes a tel e xoq i ces.

▶ 私は彼の本を売った。

この例では、「彼の本」を意味する *xoq i ces* の前に目的語を表す *e* を置くことで、「彼の本を」という助詞句を作っています。これを「売った」という意味の動詞 *qoletes* とともに使うことで、「彼の本を売った」という文になっています。

新出単語

動 *hâr (hâres)* … 笑う
 助 *a* … ～が、～は
 助 *e* … ～を
 助 *ca* … ～に、～へ
 助 *zi* … ～から
 助 *te* … ～に
 助 *vo* … ～で
 名 *tel* … 私
 動 *sôd (sôdes)* … 食べる
 名 *ces* … 彼、彼女
 名 *sakil* … リンゴ
 動 *lic (lices)* … 見る
 名 *nât* … 花
 動 *lan (lanes)* … 行く

名 *naflat* … 公園
 動 *séq (séqes)* … あげる
 名 *sokiq* … 腕時計
 動 *nifet (nifetes)* … 持って来る
 名 *sod* … 家
 名 *tazît* … 昨日
 動 *zédic (zédices)* … 運動する
 名 *fêd* … ここ
 動 *kotik (kotikes)* … 見つける
 名 *monaf* … 猫
 助 *i* … ～の
 名 *xoq* … 本
 動 *qolet (qoletes)* … 売る

sôdes a tel e letyem amay.

▶ 私は甘いチョコレートを食べた。

feges a tel e loqis axodol ebam.

▶ 私はとても高価な車を買った。

kâkes a ces obâl.

▶ 彼は突然現れた。

1 形容詞

形容詞は、それが修飾する名詞の後ろに置かれます。例えば、「甘い」を意味する形容詞 amay を「チョコレート」を意味する名詞 letyem に修飾させたい場合は、amay の方を後ろに置いて letyem amay とします。

形容詞とそれが修飾する名詞を合わせて1つの名詞として扱える語句ができるので、その前に助詞を置いて文の要素にすることができます。

sôdes a tel e **letyem amay**.

▶ 私は甘いチョコレートを食べた。

この例では、letyem amay で「甘いチョコレート」という名詞句ができていますので、そこに目的語を表す助詞の e を付けています。

同じ名詞を修飾する形容詞が複数ある場合は、それらの形容詞を名詞の後に順に並べます。連結詞を用いる方法もありますが、それについては第12課で扱います。

qonoces a tel e **talem aqôl ajudôl**.

▶ 私は古くて汚いタオルを捨てた。

この例文中では、それぞれ「古い」と「汚い」を意味する aqôl と ajudôl という2つの形容詞が、talem という名詞を修飾しています。

形容詞が複数ある場合のその順番は自由です。順番によるニュアンスの変化はほぼありません。ただし、「この」や「その」のような指示形容詞が含まれている場合は、それが最後に置かれます。

kômes a tel e **solak afehal afik** te tazît.

▶ 私はこのかわいらしい洋服を昨日着た。

この例では、afehal と afik という2つの形容詞が solak を修飾していますが、afik は「この」を意味する指示形容詞なので、afehal より後に置かれています。afehal と afik の順番を変えて solak afik afehal とすることはできません。

2 形容詞を修飾する副詞

副詞には様々な種類がありますが、まず形容詞を修飾するものを扱います。このような種類の副詞には、「とても」などがあります。

形容詞を修飾する副詞は、その形容詞の直後に置かれます。すでに説明したように、名詞を修飾する形容詞はその名詞の直後に並べられますが、それと同じです。

feges a tel e loqis **axodol ebam**.

▶ 私はとても高価な車を買った。

この例では、「とても」を意味する ebam が文末側から axodol を修飾し、axodol ebam という「とても高価な」を意味する形容詞句を作っています。形容詞は名詞の直後に置くのでしたから、この axodol ebam を loqis の後ろに置くことで、「とても高価な車」という意味の語句ができています。

日本語の「すぎる」に相当するシャレイア語の evêk も、このタイプの副詞です。

sôdes a tel e tolék **asaret evêk**.

▶ 私はおいしすぎる料理を食べた。

上の例文では、evêk が asaret を修飾し、asaret evêk という「おいしすぎる」を意味する形容詞句ができています。

3 名詞を修飾する副詞

副詞には名詞を修飾するものもあります。シャレイア語では、「だけ」を意味する etut や「も」を意味する evoc などがこれに当たります。なお、日本語の「も」は助詞に分類されますが、シャレイア語の evoc は副詞として扱われます。

形容詞を修飾する副詞の場合と同様に、名詞を修飾する副詞は、修飾する名詞の直後に置かれます。

nîpes a **tel etut** zi cêd.

▶ 私だけがそこから去った。

câkes a **ces evoc** ca sod i tel.

▶ 彼も私の家に来た。

最初の例では、**etut** が後ろから **tel** を修飾し、**tel etut** で「私だけ」という意味の名詞句ができています。次の例では、**evoc** が **ces** を修飾し、**ces evoc** で「私も」という意味の名詞句が作られています。

なお、日本語の「も」は他の助詞と取って代わって使われますが、シャレイア語の **evoc** は副詞なので、別途助詞が必要です。上の例文では、**ces evoc** に助詞の **a** が付けられて、主語として文中で用いられています。

4 動詞を修飾する副詞

「突然」なども副詞ですが、これは「突然現れる」のように動詞に係ります。このような動詞を修飾する副詞は少し特殊で、動詞の直後に置くこともできますが、文末に置いても構いません。

kâkes **obâl** a ces.

▶ 突然彼は現れた。

kâkes a ces **obâl**.

▶ 彼は突然現れた。

最初の例文では、「突然」を意味する副詞の **obâl** が動詞の **kâkes** の直後に置かれています。一方で次の例文では、**obâl** は文末に置かれています。どちらも正しい文になります。

動詞を修飾する副詞が2つ以上ある場合、全てを動詞の直後に並べたり、全てを文末に並べたりしても良いですが、一部を動詞の直後に置き、残りを文末に置くこともできます。

vilises a ces vo naflat **ocazec** **ovit**.

▶ 彼は公園で真剣に速く走った。

vilises **ovit** a ces vo naflat **ocazec**.

▶ 彼は速く公園で真剣に走った。

最初は2つの副詞を両方も文末に置いた例で、次は **ovit** を動詞の直後に置き **ocazec** を文末に置いた例です。どちらも正しい文章ですが、多少のニュアンスの違いがあります。これについては、第10課で詳しく学びます。

5 語順のまとめ

この課では、形容詞と各種の副詞の語順について個別に学びましたが、実はこれらの語順は全てまとめて1つの規則で言い表すことができます。それは、「修飾語句は被修飾語の後に並べる」という規則です。

形容詞は名詞を修飾するものなので、この規則を当てはめると、修飾語句である形容詞は被修飾語である名詞の直後に置かれることになります。このことは、すでに学んだ内容と一致しています。副詞についても、例えば形容詞を修飾するものはその形容詞の直後に置かれるのでしたから、この規則通りです。

ただし、動詞を修飾する副詞は少し例外です。「修飾語句は被修飾語の後に並べる」という規則を当てはめれば、このタイプの副詞は動詞の直後に置くこととなりますが、すでに説明したように文末に置くことも許されています。

なお、形容詞と副詞はともに何らかの単語を修飾するものなので、まとめて「修飾詞」と呼ばれることがあります。

新出単語

動] may (amay) … 甘い	副] vêk (evêk) … すぎる
名] letyem … チョコレート	名] tolék … 料理
動] qonec (qoneces) … 捨てる	動] saret (asaret) … おいしい
名] talem … タオル	副] tut (etut) … だけ
動] qôl (aqôl) … 古い	副] voc (evoc) … も
動] judôl (ajudôl) … 汚い	動] nîp (nîpes) … 去る
動] kôm (kômes) … 着る	名] cêd … そこ
名] solak … 洋服	動] cák (câkes) … 来る
動] fehal (afehal) … かわいらしい	動] kâk (kâkes) … 現れる
動] fik (afik) … この	動] bâl (obâl) … 突然
動] feg (fegeq) … 買う	動] vilis (vilises) … 走る
名] loqis … 車	動] cazec (ocazec) … 真剣に
動] xodol (axodol) … 高価な	動] vit (ovit) … 速く
副] bam (ebam) … とても	

1 語彙的品詞と文法的品詞

シャレイア語には「品詞」と呼ばれるものが2種類あります。「語彙的品詞」と「文法的品詞」です。

語彙的品詞は、各単語にちょうど1つずつ割り当てられている品詞です。1つの単語が複数の語彙的品詞に分類されるということはありません。以下に示すように、語彙的品詞は全部で7種類あります。

- ▷ 動詞型不定詞
- ▷ 名詞型不定詞
- ▷ 副詞型不定詞
- ▷ 助接詞
- ▷ 連結詞
- ▷ 機能詞
- ▷ 間投詞

なお、この本の各課の末尾にある新出単語のリストでは、各単語の語彙的品詞を、その最初の漢字1字を記すことで表示しています。

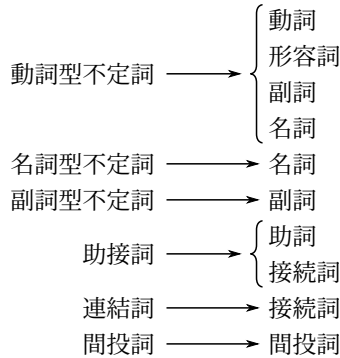
文法的品詞は、文中で使われている単語に対して、その使われ方に応じて割り当てられるものです。これは、他の言語では単に「品詞」と呼ばれることが多い概念です。文法的品詞には以下の7種類があります。

- ▷ 動詞
- ▷ 形容詞
- ▷ 副詞
- ▷ 名詞
- ▷ 助詞
- ▷ 接続詞
- ▷ 間投詞

語彙的品詞は、各単語に1つ割り当てられる分類なので、例えば「telは名詞型不定詞である」や「ziは助接詞である」のように言及することができます。一方で文法的品詞は、単語そのものの分類ではなく、文章中での単語の使われ方の分類なので、文章なしで「telは名詞である」のように言及できず、「この文の中のtelは名詞として使われている」などのように言及することしかできません。ただし、これまでもそうだったように、あたかも文法的品詞が単語そのものの分類であるかのように「名詞 telは～」と述べる場合があります。これは、「この文中で名詞として使われている telは～」もしくは「telを文中で名詞として使った場合は～」を省略して言ったものだと考えてください。文法的品詞は、あくまで何らかの文の中に出てくる単語の分類です。

2 2つの品詞の関係

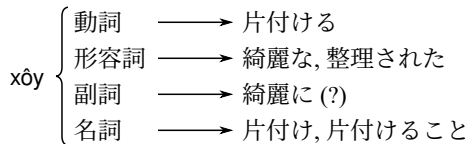
ある単語の語彙的品詞によって、その単語が文中でとることができる文法的品詞は決まっています。例えば、動詞型不定詞に分類される単語は、文中では動詞、形容詞、副詞、名詞の4つの文法的品詞しかとることができず、助詞や接続詞としては用いることができません。このような品詞の関係を次の図に示します。



機能詞に分類される単語は pa と kin の2つのみです。これらは文中での使われ方が少し特殊で、文法的品詞との関係が述べづらいので、上の図では省略しています。この2つの機能詞については、それぞれ第9課と第14課で個別に詳しく解説します。

3 文法的品詞と意味の違い

単語が文中でとっている文法的品詞によって、その意味は変わります。例えば、動詞型不定詞の xôy は、上の図の通り動詞、形容詞、副詞、名詞の4通りに使えますが、そのときの意味は以下のようになっています。



動詞型不定詞や助接詞は、文中で複数の文法的品詞をとることができますが、とることができるからといって、可能な全ての文法的品詞が同じ頻度で使われるわけではありません。例えば、上に挙げた動詞型不定詞の xôy は、動詞や形容詞として使われることがほとんどで、副詞として使われることはほぼ

ありません。一方で、同じく動詞型不定詞の *yâl* は、形容詞や副詞として使われることが多く、動詞としてはめったに使われません。

文中での文法的品詞によって単語の意味は変わるので、文なしで単語が与えられただけではその意味が確定しません。そこで、この本の各課の最後にある新出単語の一覧では、最もよく使われる文法的品詞の意味を記しています。

4 動詞型不定詞の文法的品詞の意味

すでに説明したように、動詞型不定詞は4種類の文法的品詞として使うことができ、どの文法的品詞で使われているかによって意味が変わるわけですが、それぞれの意味が全く無関連なわけではありません。

各文法的品詞の意味は、動詞としての意味を基準にして定まります。

まず、形容詞として使われたときは、動詞として用いられたときに表す行為をしている状態かされている状態のどちらかを表します。上に例として挙げた *xôy* は、動詞としての意味が「片付ける」なので、形容詞としては「片付けられている状態の」すなわち「整理された」の意味になるわけです。

副詞として使われた場合は、形容詞として使われたときの意味の様子で動作を行うことを意味します。これは *yâl* の方が分かりやすいでしょう。*yâl* は形容詞として「問題ない」という意味をもつので、副詞としては「問題なく」の意味になります。

最後に名詞として使われた場合ですが、これは動詞として用いられたときの行為そのものを表します。*xôy* を例に挙げると、これは動詞として「片付ける」なので、名詞としては「片付けること」もしくは「片付け」となります。この関連性をおさえておけば、1つの文法的品詞の意味を覚えるだけで済むので便利でしょう。

なお、すでに説明しましたが、単語によってはほとんど使われない文法的品詞もあります。したがって、ある文法的品詞で用いたときの意味を考えることができるからといって、必ずしも実際に文中で使われるというわけではないことに注意してください。

5 文法的品詞と活用

一部の単語は、文中での文法的品詞や用法によって活用し、その形を変えます。上で例に挙げた *xôy* は、以下のように活用します。

xôy	{	動詞	→	xôyes, xôyac など
		形容詞	→	axôy
		副詞	→	oxôy
		名詞	→	xôy (不変化)

文中での用例を挙げます。

xôyes a tel e sokul.

▶ 私は部屋を片付けた。

kûves a tel ca sokul **axôy** i ces.

▶ 私は彼の綺麗な部屋に入った。

cipases a tel ca ces e **xôy**.

▶ 私は彼に片付けを頼んだ。

不定詞の詳しい変化については第5課と第6課で学びます。

助接詞は、語幹そのままの形と活用接頭辞が付いた形の2種類の変化形を持ち、それぞれで個別の用法があります。活用接頭辞が付いた形の用法については、第21課以降で詳しく学びます。それまでは、語幹をそのまま使った場合の助接詞の用法のみを扱うので、まずは助接詞は変化しないものだと考えてください。

新出単語

動 xôy (xôyes, axôy) … 片付ける

動 kûv (kûves) … 入る

動 yài … 問題ない

動 cipas (cipases) … 頼む

名 sokul … 部屋

1 活用の形態

シャレイア語の単語の活用は、全て変化する前の形に何らかの接頭辞や接尾辞を付けることで行われます。変化する前の形は「語幹」といい、辞書の見出し語になります。語幹そのものが変化することはありません。

この課と次の課で、まず3種類の不定詞の活用について学びます。助接詞も活用しますが、それについては第21課で扱います。

2 動詞型不定詞の動詞の活用

動詞型不定詞が動詞として用いられるときは、時制, 相, 自他という3つの要素に応じてその形が変わります。このときの活用は、時制を表す接尾辞および相と自他を表す接尾辞を、この順で語幹の後に付けることで行われます。

シャレイア語には4種類の時制があり、それぞれ以下の表に示す活用接尾辞によって標示されます。

時制	接辞
現在時制	a
過去時制	e
未来時制	i
通時時制	o

さらに、シャレイア語には6種類の相があります。相はもう1つの活用接尾辞によって標示されますが、自動詞か他動詞かで用いる接尾辞が変わります。それを以下の表に示します。

相	接辞	
	自動	他動
開始相	f	v
経過相	c	q
完了相	k	g
継続相	t	d
終了相	p	b
無相	s	z

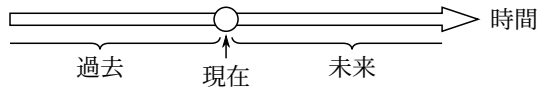
他動詞のときに使う接尾辞は、自動詞のときに使う接尾辞の有声音になっています。したがって、覚えるのは片方だけでも十分です。

例えば、動詞型不定詞の **ter** を現在時制経過相自動詞として使いたければ、現在時制を表す **a** と経過相自動詞を表す **c** を語幹の後に付けて、**terac** とすれば良いことになります。

ちなみに、ここまでに出てきた全ての動詞は過去時制無相自動詞として用いられています。過去時制を表す **e** と無相自動詞を表す **s** が語幹に付けられているのが分かるかと思います。

3 時制

さて、シャレイア語には4種類の時制があることはすでに学びました。以下は、それを図にまとめたものです。



現在時制は、動詞が表す動作が時間軸上の現在という1点で成立していることを表します。

terac a ces e rix.

▶ 彼が水を飲んでいる。

この例では **ter** が現在時制で使われているので、現在の時点で「飲んでいる」という行為の状態が成立していることになります。

過去時制は、動詞の行為が時間軸上の現在より前の時間で成立したことを示します。また未来時制は、行為が現在より後の時間で成立することを示します。

lôqes a tel e qikov ca refet.

▶ 私はパソコンを友達に貸した。

qorasis a tel ca 'nagoyas te tacál.

▶ 私は名古屋に明日旅行する。

この最初の例文では過去時制が用いられているので、「パソコンを貸した」という行為が過去のことだということになります。次の例文は未来時制になっているので、「名古屋に旅行する」というのは今後の予定で、それが未来に行われるだろうということを述べています。

通時時制は少し特殊な時制で、2つの用法があります。1つ目の用法として、時間に関わらず成り立つことを表すのに用いられます。

vahixos okôk a laxol.

▶ 人間は必ず死ぬ。

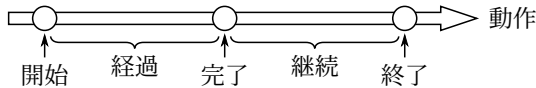
この例文では通時時制が用いられています。その理由は、「人間は死ぬ」というのが、過去のある時点で死んだというわけでも、未来のある時点で死ぬだろうというわけでもなく、時間には関係なく常に成り立つ事実であるためです。

通時時制のもう1つの用法として、行為が行われる時間を特に指定しない場合に用いるというものがあります。これについては、第14課以降で用例が出てきます。

4 相

相とは、動作がどの段階にあるのかを示す概念です。例えば、日本語の「食べている」は「食べる」という動作の途中の段階を表します。また、「飲み始める」ならば「飲む」という動作を始めようとする段階を表します。このような動作の段階を表すのが相です。

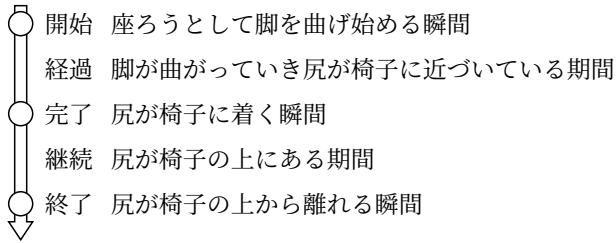
すでに表で示したように、シャレイア語は6つの相をもちます。そのうち無相を除く5つの相は、以下のようにまとめられます。



開始相, 完了相, 終了相の3つは、動作の段階の中のある1点を指します。開始相は動作が始まった瞬間を表し、完了相は動作が完了した瞬間を指し、終了相は動作が完了した後の状態が終わった瞬間を表します。これらの3つの相は、まとめて「瞬間相」とも呼ばれます。

残りの経過相, 継続相の2つは、瞬間相で表される点の間の期間を表します。上の図が示すように、経過相は開始相と完了相の間を表します。すなわち、動作が始まってから完了するまでの期間です。また、継続相は完了相と終了相の間を表し、これは動作が完了してからその状態が終了するまでの期間になります。これらの2つの相は、まとめて「期間相」と呼ばれます。

具体例を見てみましょう。「椅子に座る」という行為について、それぞれの相が何を表すかを具体的に示したのが以下の図です。



いくつか用例を挙げます。

déqac a ces ca dezet.

▶ 彼は椅子に座る途中だ。

déqat a ces ca dezet.

▶ 彼は椅子に座っている。

さて、最後に無相ですが、これには2つの用法があります。まず1つ目として、動作が開始してから完了するまでの一連の動作の全体を表します。

qiniles a ces e zeqil ca kossax.

▶ 彼は机を学校に運んだ。

この例では過去時制無相の形が用いられているので、過去のある時点で、「机を運ぶ」という行為を始めてから終わるまでの一連が行われたことを表しています。

注意点として、無相は現在時制と用いられることはありません。これは、無相は一連の動作全体を表すので時間的な幅をもちますが、現在時制は時間軸上の幅のない1点を表すためです。ただし、これは第14課や第20課で学ぶ内容ですが、kin節や限定節の中では、時制が表す時間が主節と相対的に決まるため、現在時制無相が例外的にあり得ます。

無相の残りの用法は、段階を特に指定せずに動作そのものを表したいときに使うというものです。この用法の具体例は、第14課以降で出てきます。

5 経過相と継続相

経過相と継続相は、ともに日本語の「～している」に対応し非常に紛らわしいので、特に注意してください。経過相は動作の完了より前の状態を表し、継続相は動作の完了より後の状態を表します。

いくつか例を挙げて違いを詳しく説明します。

kômat a ces e hâlfeloq azaf.

▶ 彼女は赤いワンピースを着ている。

日本語の「着ている」は、普通「着る」という動作が終わった後の服を身に着けている状態を表します。つまり「着る」という動作が完了した後の状態なので、シャレイア語では継続相で表されます。

これが経過相で使われていた場合、「着る」という動作が全て完了する前の状態を表します。つまり、シャツなら頭や腕を通しての期間で、ズボンやスカートなら脚を通しての期間です。

zamekac a ces e tomek te sot.

▶ 彼は今肉を焼いている。

今度は日本語の「焼いている」ですが、これは普通「焼く」という動作が終わった後ではなく動作の途中を表します。したがって、対応するシャレイア語の相は経過相になります。

sâfat a tel e lesit.

▶ 私はミカンが好きだ。

sâf は動詞としての意味が「好む」という意味の単語です。上の例文では現在時制継続相で用いられているので、現在の時点で「好む」という動作が完了した後の状態、すなわち「好き」という状態であることを表しています。

仮に継続相ではなく経過相で用いられていたとすると、「好む」という行為を始めてから完了するまでの期間を表すので、好きそうだと思い始めて実際に好きになるまでの間を表してしまいます。

6 自他

日本語の「着せる」は、「着る」という動作を相手が行えるように手助けするという意味があります。このような、相手は何らかの行為をするのを手伝うという意味の動詞を、シャレイア語では「他動詞」と呼んでいます。それに対して、もとなる動作を表す動詞は「自動詞」と呼びます。

例えば、「着せる」は他動詞で、「着る」はそれに対応する自動詞です。また、「寝かせる」は他動詞で「寝る」は自動詞です。

シャレイア語では、自動詞と他動詞は同じ単語を用い、どちらの意味で用いているかは活用によって明示します。

すでに説明したように、他動詞は相手が何らかの動作をするのを手助けするという意味になりますが、このときの相手は助詞の *li* によって明示します。

déxes a tel.

▶ 私は寝た。

déxez a tel **li yaf**.

▶ 私は妹を寝かせた。

1 文目が自動詞を用いたもので、2 文目が他動詞を用いたものです。

他動詞の相手は人であるとは限りません。例えば *tòlec* は、自動詞としては「自分自身が転がる」を表し、他動詞としては「何かが転がるのを手助けする」すなわち「何かを転がす」を表します。

tòlecez a tel **li soqal**.

▶ 私はボールを転がした。

なお、他の多くの言語の文法論や一般の言語学では、「自動詞」と「他動詞」という用語は目的語の有無を表すのに使われます。シャレイア語における「自動詞」と「他動詞」は、この用法とは明確に異なり、相手の手助けをするという意味かどうかを表すので注意してください。

新出単語

動 ter (terac) … 飲む

名 rix … 水

動 lôq (lôqes) … 貸す

名 qikov … パソコン

名 refet … 友達

動 qoras (qorasis) … 旅行する

名 tacál … 明日

動 vahix (vahixos) … 死ぬ

動 kôk (okôk) … 必ず

名 laxol … 人間

動 déq (déqac, déqat) … 座る

名 dezet … 椅子

動 qinil (qiniles) … 運ぶ

名 zeqil … 机

名 kossax … 学校

名 hâfeloq … ワンピース

動 zaf (azaf) … 赤い

動 zamek (zamekac) … 焼く

名 tomek … 肉

名 sot … 今

動 sâf (sâfat) … 好む

名 lesit … ミカン

動 déx (déxes, déxez) … 寝る

助 li … ～を、～に

名 yaf … 妹

動 tolèc (tolècez) … 転がる

名 soqal … ボール

1 動詞型不定詞の動詞以外の活用

動詞型不定詞は動詞、形容詞、副詞、名詞の4種類の文法的品詞をとることができます。動詞として用いるときの活用については、第5課で学んだ通りです。

動詞型不定詞を形容詞として使うときは、語幹の前に活用接頭辞の **a** を付けます。例えば、動詞型不定詞の **big** を形容詞として使うときは **abig** という形になります。

lekutec a ces ca loqis **abig**.

▶ 彼は青い車に乗っていた。

動詞型不定詞を副詞として使うときは、活用接頭辞の **o** を付けます。例えば、動詞型不定詞の **dalaz** を副詞として使うときは **odalaz** となります。

sitayes **odalaz** a qasot i ces.

▶ 彼の息子が元気に挨拶した。

動詞型不定詞を名詞として使うときは、語幹をそのまま文中に置き、接頭辞や接尾辞は付けません。

2 副詞型不定詞の活用

副詞型不定詞は副詞としてしか使うことはできませんが、このとき活用接頭辞の **e** が付きます。したがって、副詞型不定詞が語幹のままで使われることはありません。動詞型不定詞のときとは違い、付けられる接頭辞は **o** ではなく **e** なので注意してください。例えば、副詞型不定詞の **tim** は、副詞として他の形容詞などを修飾して「少し」などの意味で使われますが、このとき **etim** という形になります。

xolacac a hinof i tel vo teqiv aqon **etim**.

▶ 私の姉は少し遠い町で暮らしている。

3 名詞型不定詞の活用

名詞型不定詞は一切活用せず、語幹がそのまま用いられます。接頭辞も接尾辞も付けません。

4 副詞の種類

動詞型不定詞と副詞型不定詞は、ともに副詞として使うことができます。動詞型不定詞が副詞として使われた場合と副詞型不定詞が副詞として使われた場合とでは、付けられる活用接頭辞が異なりますが、その副詞が修飾する単語の文法的品詞も異なります。

動詞型不定詞が副詞として使われたときは、その副詞は動詞を修飾します。一方で、副詞型不定詞が副詞として使われたときは、形容詞や副詞を修飾します。

zavages **otudkol** a tiqat.

▶ 男の子が急に叫んだ。

lakec a ces ca fakel ayerif **ebam**.

▶ 彼はとても美しい女性と話していた。

1つ目の例文は、動詞型不定詞 **tudkol** が副詞として使われている例です。このとき「急に」の意味になりますが、これは動詞の **zavages** を修飾しています。2つ目の例文では、副詞型不定詞 **bam** が副詞として使われていて、「とても」の意味で形容詞の **ayerif** を修飾しています。

しかし、「とても好んでいる」のように、副詞型不定詞由来の副詞を動詞に修飾させたい場合もあるでしょう。その場合、その動詞の後ろに **vel** という特殊な単語を副詞形の **ovel** にして置き、副詞は代わりに **ovel** に修飾させます。

sâfat **ovel** **ebam** a tel e kèc.

▶ 私はコーヒーがとても好きだ。

新出単語

動 big (abig) … 青い

動 lekut (lekutec) … 乗る

動 dalaz (odalaz) … 元気な

動 sitay (sitayes) … 挨拶する

名 qasot … 息子

動 xolac (xolacac) … 暮らす

名 hinof … 姉

名 teqiv … 町

動 qon (aqon) … 遠い

副 tim (etim) … 少し

動 zavag (zavages) … 叫ぶ

動 tudkol (otudkol) … 急に

名 tiqat … 男の子

動 lak (lakec) … 話す

名 fakel … 女性

動 yerif (ayerif) … 美しい

動 vel (ovel)

名 kèc … コーヒー

演習問題 1

1. 次の単語を指示された文法的品詞として使える形に活用させなさい。
 - (1) lic → 現在時制経過相自動詞
 - (2) qôl → 形容詞
 - (3) bâl → 副詞
 - (4) ter → 過去時制無相他動詞
 - (5) voc → 副詞
2. 次の活用した単語の文法的品詞を答えなさい。動詞の場合は、その時制と相と自他も併せて答えなさい。
 - (1) amay
 - (2) kômet
 - (3) otudkol
 - (4) vilisiq
 - (5) ebam
3. 次の語句を入れ替えて意味の通る文を作りなさい。
 - (1) a tel / vilisac
 - (2) odalaz / zédices / a ces
 - (3) déxes / etut / a tel
 - (4) a ces / fegis / e zeqil
 - (5) axodol / séqes / tel / a / e / qikov / afik
 - (6) a / catac / hinof / tel / i
 - (7) aqon / vo / xolacac / qasot / teqiv / a / ebam

4. 次の文を日本語に訳しなさい。

- (1) zédicac a tel.
- (2) zavagac a fakel vo naflat.
- (3) qoletes a ces e sod te tazît.
- (4) nifetis a tel e sokiç azaf ca fêd okôk.
- (5) déqez a tel li refet ca dezet.
- (6) cipases ocazec a tel ca qasot e déx.
- (7) feges a yaf i tel e sakil amay etim vo vosis afik.

5. 次の文をシャレイア語に訳しなさい。

- (1) 猫が現れた。
- (2) 彼はミカンを食べている。
- (3) 私は今座っている。
- (4) 私はおいしいチョコレートを彼にあげた。
- (5) 私の息子は公園に明日行く。
- (6) 私は車がとても好きだ。
- (7) 彼は妹にワンピースを着せた。

salat a tel e zissác.

▶ 私は教師だ。

salat a cèr afik e azâg.

▶ このお茶は熱い。

kavat a tel e nîl.

▶ 私には兄がいる。

1 sal

「AはBである」ということを述べたい場合は、動詞型不定詞 sal を動詞として用い、「salat a A e B」という形にします。この sal は英語の be 動詞に相当する単語です。

salat a tel e zissác.

▶ 私は教師だ。

sal が動詞として用いられるときは、常に継続相自動詞として用いられます。時制は4種類全てとることができます。したがって、活用形は salat, salet, salit, salot の4種類のみになります。

salet a kedet aquk e kosben.

▶ あの建物は病院だった。

上の例のように sal を過去形で用いれば、過去のことを表すことができます。

2 形容詞をとる助詞

sal は少し特殊で、動詞として使ったときの e 句に名詞だけでなく形容詞も置くことができます。

salat a cèr afik e azâg.

▶ このお茶は熱い。

この例文では、「salat a A e B」という構文において、e 句の B の位置に azâg という形容詞が置かれ、「お茶が熱い」ということを表しています。

このような助詞句の中身として形容詞が置かれる例は、sal の他にも nis でも見られます。「nises a A zi B ca C」という形で「A が B という状態から C という状態に変わった」という意味になるのですが、このときの B と C の位置に形容詞が置かれることがあります。

nises a hîx **zi akesel** **ca alevac**.

▶ 空が水色からオレンジ色に変わった。

なお、単に「A というものが B というものに変った」と言いたい場合は、zi 句を省略して「nises a A ca B」の形にします。このときの B の位置にも形容詞を置くことができます。

3 kav と qet

動詞型不定詞の kav は、動詞としてはたいてい継続相自動詞で用いられ、「kavat a A e B」という形で「A に関して B がある」という意味になります。英語の have に相当すると考えればイメージが湧きやすいでしょう。

kavat a tel e nîl.

▶ 私には兄がいる。

日本語の「いる」や「存在する」に相当する単語には、kav の他にも qet があります。こちらは、誰かに関係して存在するというよりは、存在する場所に焦点を当てる単語です。そのため、多くの場合で場所を表す vo 句とともに使われます。

qetat a nîl vo qôd.

▶ 兄があそこにいる。

新出単語

動 sal … である

名 zissác … 教師

名 kedet … 建物

動 quk … あの

名 kosben … 病院

名 cèr … お茶

動 zâg … 熱い

動 nis … 変わる

動 kesel … 水色の

動 levac … オレンジ色の

動 kav … いる, ある

名 nîl … 兄

動 qet … いる, ある

名 qôd … あそこ

dusokat a ces e yét.

▶ 彼は真実を知らない。

kûtat a ces e zat adusokes avôl.

▶ 彼はたくさんの必要でないものを所持している。

salat a tel e dutific.

▶ 私は子供ではない。

keqilac a dus e sod afik te sot.

▶ 今は誰もこの家に住んでいない。

fexasat a lef adak i tel.

▶ 私の知人は誰も結婚していない。

1 動詞の否定形

動詞型不定詞が動詞として用いられているとき、その活用形の前に **du** を付けることで、その意味を否定することができます。**du** を付けた動詞は、通常の動詞と同じように文中で用いることができます。

dusokat a ces e yét.

▶ 彼は真実を知らない。

sokat は「知っている」という意味の動詞ですが、**du** を付けて **dusokat** とすると、その否定の「知らない」を意味するようになります。上の文は、その **dusokat** が用いられている例です。

なお、**du** は独立した単語ではなく接頭辞なので、**du** の後にスペースは入れられません。

2 形容詞と副詞の否定形

形容詞や副詞として用いられている単語を否定するときも **du** を付けますが、このとき、すでに付けられている活用接頭辞の **a, o, e** と語幹の間に **du** を入れます。例えば、**sokes** の形容詞としての活用形 **asokes** の否定形は **adusokes** になります。

kûtat a ces e zat **adusokes** avôl.

▶ 彼はたくさんの必要でないものを所持している。

salat a qasot i ces e **adusiref**.

▶ 彼の息子はおとなしくない。

yepeles **oducazec** a tel.

▶ 私は真剣でなく歌った。

3 名詞の否定形

名詞の前に du を付けることで、その名詞も否定することができます。このときは「～ではないもの」という意味になります。

salat a tel e **dutific**.

▶ 私は子供ではない。

この例では、「子供」を意味する tific が否定され、「子供ではないもの」という意味で使われています。

これと同じ意味の文章は、以下のように動詞の salat を否定しても作ることができます。

dusalat a tel e tific.

▶ 私は子供ではない。

ただし、この文が単に「子供ではない」ということを主張するだけなのに対し、dutific を用いた前の文では動詞は否定されていないので、「子供ではない何かである」すなわち「大人である」というニュアンスが含まれます。

また、動詞を否定する場合は違い、名詞を否定することで否定の意味の単語を文末側に配置することができます。第10課で学びますが、文末に近い要素ほど相手に伝えたい内容になるので、これによって否定の意味を少し強調することができます。

4 否定相当語

シャレイア語には、それ自体で否定の意味をもつ単語がいくつかあります。このような単語は「否定相当語」と呼ばれます。

以下の表に、主な否定相当語を示します。これらの単語は、常に1つの文法的品詞でしか用いられないため、それも併記します。

単語	意味	品詞
dus	誰も～しない	名詞
dat	何も～しない	名詞
dol	どんなことも～しない	名詞
dak	どんな～も～しない	形容詞
dûg	決して～しない	副詞
dum	全く～しない	副詞

例えば、**dak** は動詞型不定詞なので、理論上は動詞や副詞としても用いることができますが、実際には動詞や副詞としては用いられず、常に形容詞になります。

いくつか否定相当語を用いた例を挙げます。

keqilac a **dus** e sod afik te sot.

▶ 今は誰もこの家に住んでいない。

この例文では **dus** が用いられています。**dus** は英語の **nobody** に相当する単語です。単体で「0人の人が～する」もしくは「誰も～しない」という意味になるので、上の文は「0人の人が住んでいる」すなわち「誰も住んでいない」という意味になっています。

déqitis a ces e loc **odûg**.

▶ 彼は決してあなたを馬鹿にしないだろう。

この文では **dûg** が用いられています。**dûg** は英語の **never** に相当する単語で、副詞として「0%の確率で～」や「絶対に～しない」のような意味をもちます。そのため、上の文は「絶対に馬鹿にしないだろう」という意味になります。

dat と **dol** は明確に使い分けられるので注意してください。**dat** は物が存在しないときに、**dol** は事が存在しないときに用います。

beqomes a ces e **dat** zi tel.

▶ 彼は何も私から盗んでいなかった。

leses a tel e **dol** abûd.

▶ 私は悪いことを何もしなかった。

最初の例文では **dat** が用いられていますが、これは盗むのが財布などの「物」であるためです。次の例文には **dol** が含まれていますが、こちらは内容のあ

る「事」であるためです。英語ではどちらも **nothing** で表現しますが、シャレイア語では物か事かを区別して、別の単語で表現します。

dak は形容詞として用いられて「0人の」や「0個の」などを意味し、修飾する単語が存在しないことを表します。

fexasat a lef **adak i tel.**

▶ 私の知人は誰も結婚していない。

この例文は、**lef adak** で「0人の知人」を表すので、全体で「私の0人の知人が結婚している」すなわち「私の知人は誰も結婚していない」の意味になっています。

新出単語

動] sok … 知る	動] dak … どんな～も～しない
名] yét … 真実	動] dûg … 決して～しない
動] sokes … 必要な	動] dum … 全く～しない
動] kût … 所持する	動] keqil … 住む
名] zat … もの	動] déqit … 馬鹿にする
動] vòl … たくさんの	名] loc … あなた
動] siref … おとなしい	動] beqom … 盗む
動] yepel … 歌う	動] les … する
名] tific … 子供	動] bûd … 悪い
名] dus … 誰も～しない	動] fexas … 結婚する
名] dat … 何も～しない	名] lef … 知人
名] dol … どんなことも～しない	

pa folanes ovip a ces?

▶ 彼はもう出かけましたか?

pa cazes a pas e rát acik ca loc?

▶ 誰がその話をあなたに伝えたのですか?

pa bozetes a loc e ces vade pil?

▶ なぜあなたは彼を殴ったのですか?

1 諾否疑問文

普通の文の動詞の前に **pa** を置くことで、その文の内容の真偽を問う疑問文を作ることができます。**pa** を置く以外の語順や構文の変化はありません。なお、**pa** があるとその文は疑問文になるので、文末にデックではなくパデックを置きます。読むときは文末を上昇気味にします。

pa folanes ovip a ces?

▶ 彼はもう出かけましたか?

2 諾否疑問文への答え方

諾否疑問文は文の内容の真偽を問う疑問文なので、回答は「はい」か「いいえ」になります。シャレイア語では、それぞれ **ya** と **du** を用います。

pa folanes ovip a ces?

▶ 彼はもう出かけましたか?

du.

▶ いいえ。

この例では、「いいえ」に相当する **du** で答えています。すなわち、尋ねられた「彼はもう出かけた」という内容が誤りであると言っています。

動詞が否定形になっている諾否疑問文に答えるときは、少し注意が必要です。**ya** は尋ねられた疑問文から **pa** を除いた文が正しいときに使い、**du** はそうでないときに使います。英語の **yes** と **no** とは違い、**ya** と **du** は回答が肯定文か否定文かで使い分けるわけではありません。

pa **duniciqez** a loc li deset aquk te saq?

▶ あなたはあのベッドを今日動かさませんでしたか?

ya.

▶ はい。

この例文では ya と答えているので、疑問文から pa を除いた文の内容である「あなたはあのベッドを動かさなかった」が正しいと述べています。

3 疑問詞疑問文

尋ねたい箇所を疑問詞に変え、疑問文であることを表す pa を動詞の前に置くことで、疑問詞を用いた疑問文を作ることができます。

シャレイア語の疑問詞には、以下のようなものがあります。これらの単語は、実際に文中で使われる文法的品詞が定まっているので、それも併記します。

単語	意味	品詞
pas	誰	名詞
pet	何	名詞
pil	どんなこと	名詞
pâd	どこ	名詞
pek	どの	形容詞
péf	どのような	形容詞

疑問詞は、普通の単語と同じように文中で用いられます。語順の変化は特にありません。

pa cazes a **pas** e rát acik ca loc?

▶ 誰がその話をあなたに伝えたのですか?

pek は、それが修飾する名詞で表されるもののうちのどれであるかを尋ねる疑問詞です。一方で péf は、それが修飾する名詞の様子や性質を尋ねる疑問詞です。ともに日本語の「どんな」に対応するので、使い分けには注意してください。

pa sâfat a loc e velex **apek**?

▶ あなたはどんな色が好きですか?

pa sâfat a loc e velex **apéf**?

▶ あなたはどんな色が好きですか?

最初の文は **pek** が用いられています。この疑問文が尋ねているのは、様々な色のうちどれが好きなのかということなので、回答は「赤」や「青」などの具体的な色になります。一方、次の文は **péf** が用いられています。この場合、好きな色の様子が尋ねられているので、回答は「明るい色」や「濃い色」のような色の形容になります。

4 助詞と作る疑問句

「いつ」や「なぜ」などの副詞的な疑問表現に対応する単語は、シャレイア語にはありません。その代わりに、このような疑問表現は、上に挙げた疑問詞と助詞を組み合わせて作ります。例えば、時間を表す助詞の **te** と物を尋ねる疑問詞の **pet** を組み合わせて **te pet** とすれば、「いつ」の意味になります。

このようにして作られる疑問詞には、以下のようなものがあります。

表現	意味
te pet	いつ
qi pil	どうやって
vade pil	なぜ

qi は道具や方法を表す助詞で、**vade** は理由を表す助詞です。

これらの疑問表現は、普通の助詞句と同じように文中で使うことができます。

pa bozetes a loc e ces **vade pil?**

▶ なぜあなたは彼を殴ったのですか?

5 疑問詞疑問文への答え方

用いられている疑問詞が **pas, pet, pād, pek** の場合は、回答が名詞になります。この場合、回答となる名詞の前に疑問詞とともに用いられている助詞を置くことで助詞句を作り、この助詞句を単独で用いて疑問文に答えます。

pa qetet a loc te lon i tazît **vo pād?**

▶ あなたは昨日の夜どこにいましたか?

****vo naflat**.**

▶ 公園です。

疑問詞が **péf** の場合は、ものの様子が尋ねられているので、回答はたいいてい形容詞になります。このような場合、**péf** が含まれている助詞句において、

péf を回答となる形容詞に置き換えたものを答えます。形容詞のみを答えることは普通しません。

pa kômec a ces **e solak apéf?**

▶ 彼はどんな洋服を着ていましたか?

e solak axalket.

▶ かつこいい洋服です。

疑問詞が pil の場合、これは内容のある事を尋ねる疑問詞なので、回答は基本的に文になります。このような疑問文に答える場合、回答となる文をそのまま答えます。

pa lesec a loc **e pil** te tazîthil?

▶ あなたは一昨日何をしていましたか?

yepelec a tel vo sod.

▶ 家で歌っていました。

なお、このときに用いられている助詞が qi や vade のような接続詞の用法をもつものであれば、その接続詞を文の前に付け、1つの独立した接続詞節として答えることがあります。助接詞の接続詞としての用法については、第13課で学びます。

新出単語

機	pa
動	folan … 出かける
動	vip … もう
間	ya … はい
間	du … いいえ
動	niciq … 動く
名	deset … ベッド
名	saq … 今日
名	pas … 誰
名	pet … 何
名	pil … どんなこと
名	pâd … どこ

動	pek … どの
動	péf … どのような
動	caz … 伝える
名	rát … 話
動	cik … その
名	velex … 色
助	qi … ～で
助	vade … ～なので
動	bozet … 殴る
名	lon … 夜
動	xalket … かつこいい
名	tazîthil … 一昨日

1 話題と新情報

第2課で学んだように、動詞の後に置く助詞句の順番に文法的制約はありません。しかし、助詞句の順番を変えると文のニュアンスが少し変わります。シャレイア語では、文の最初にある助詞句はその文の話題を表していると捉えられます。そして、残りの助詞句は、その話題に対する聞き手もしくは読み手にとっての新しい情報になります。特に、文末に近い助詞句ほど、話し手もしくは書き手がその文で言いたかったことだと考えられます。

例文を1つ挙げて具体的に見てみましょう。

féves a tel ca ces e kisol.

▶ 私は彼にお金を貸した。

この文における一番最初の助詞句は **a tel** です。したがって、この文の話題は「私」であるということになります。別の言い方をすれば、この文は相手に対して「今から私のことについて話しますよ」ということを暗に伝えます。さらに、この文は **ca ces e kisol** と続いているので、話題として提示した「私」に対して「彼にお金を貸した」という新しい情報を与えています。特に、最後の助詞句が **e kisol** なので、「貸したのがお金である」ということが強調されます。

では、この文の助詞句の順番を変えてみましょう。前の文で動詞の直後にあった **a tel** を文末に移動させてみます。

féves ca ces e kisol a tel.

▶ 彼にお金を貸したのは私だ。

今度は最初の助詞句が **ca ces** になったので、この文が言いたいのは「彼」についてであるということになります。そして、残りの助詞句が **e kisol a tel** なので、その「彼」に対して「私がお金を貸した」という情報を与え、特に「貸したのが他の誰でもなく私である」ということを強調しています。

文末に近いほど新情報として強調されるというのは、助詞句だけではなく副詞にも当てはまります。第3課では、動詞を修飾する副詞は動詞の直後か文末に並べられることを学びましたが、文末に置かれた副詞は「それがこの文で言いたかった内容である」というニュアンスで強調されます。

2 文章の流れ

シャレイア語の文章では、文頭側が話題で文末側が新情報だということをふまえて、相手がスムーズに理解できるように助詞句が配置されます。

以下の2つの文を考えてみましょう。1つ目の文の後に2つ目の文が続いていると考えてください。

paqofes a tel **e lofyet ahafas**.

▶ 私はピンクのリボンをなくした。

séqes **e cit** ca tel a qazrêy.

▶ それは私に彼氏がくれたものだ。

この2つの連続する文を今読んでいるとしましょう。1つ目の文を読んでいくと、まず最初に a tel という助詞句があるので、これからこの文章を書いた人について述べるのだと分かります。この文は e lofyet ahafas で終わるので、この時点で「リボンをなくした」という情報が得られます。次に2つ目の文に差し掛かると、まず e cit という助詞句を見つけます。この時点では、前の文の新情報であった「リボンをなくした」という内容が頭に残っているので、すんなりと cit が「前の文でなくしたと述べられたリボン」を指していると分かり、さらにこの文でリボンについて何か述べるということも分かります。そして a qazrêy まで読むと、「さっきのリボンは彼氏がくれたものだ」という新しい情報がさらに得られます。

さて、ここで2つ目の文の助詞句の順番を以下のように変えてみましょう。

séqes a qazrêy ca tel **e cit**.

▶ 彼氏が私にそれをくれた。

こうすると、1つ目の文を読み終わって「リボンをなくした」という情報が頭に残っている状態で、最初に a qazrêy という助詞句を読むことになります。これにより、「さっきのリボンは置いておいて今度は彼氏について何か述べる」と解釈することになるので、別の話が始まったと勘違いしてしまうでしょう。この文が前の文に続いてリボンについて話していると気づくのは、文末の e cit まで読んだ時点です。これでは、話の流れが掴みにくいのが分かるでしょうか。

以上のように、文章をスムーズに読んでもらうためには、助詞句の順序が非常に重要です。助詞句の順序を決めるときに最も大事なものは、前の文の新情報が次の文の話題になるようにすることです。助詞句はどのように並べても

文法的に間違いにはなりません、文章の読みやすさに直結するので、シャレイア語で文章を書くときは気をつけるようにしてください。

3 助詞句の省略

シャレイア語では、文中に存在しない助詞句については、普通は「何らかの人」や「何らかのもの」が省略されていると解釈されます。

qopates a tel ca kùd i hinad.

▶ 私は山奥に隠した。

この文には **e** 句がありません。したがって、**e** 句として「何らかのもの」を補って、「私は何らかのものを山奥に隠した」という意味だと捉えられます。もっと言えば、この文には **te** 句がないので、**te** 句として「何らかの時間」を補い、「私は何らかのものを何らかの時間に山奥に隠した」とも解釈されます。このように、文中に存在しないあらゆる助詞句について、「何らかの～」が省略されていると見なされます。

日本語では「私」などの主語がよく省略されますが、シャレイア語では存在しない助詞句については今述べたような意味で解釈されるので、このことに注意して助詞句を省略しなければなりません。

例えば、以下のような文を考えてみましょう。

lanes a tel ca kosrahit acik te vác azît.

▶ 私はその遊園地に去年行った。

日本語でしばしば行われるように、主語を表す **a tel** を省略してみます。すると、以下ようになります。

lanes ca kosrahit acik te vác azît.

▶ その遊園地に去年行った。

存在しない助詞句については「何らかの人」などが省略されていると見なされるので、この文は「誰かが遊園地に行った」という意味で解釈され、公園に行ったのが「私」だというニュアンスはほぼありません。したがって、「私が遊園地に行った」ということを伝えるには、**a tel** は省略できません。

第2課で主語は基本的に省略しないと説明したのは、このような解釈の規則があるためです。主語は常に省略されないというわけではないので注意してください。主語が明示されない文の例は第11課などで出てきます。

4 日本語と対応しない助詞

第2課で学んだように、**zi**は日本語の「～から」に対応する助詞です。しかし、一部の動詞と一緒に使われたときに、「～から」とはかけ離れた意味になることがあります。その良い例が **felqot** です。

felqotes a tel e dev **zi xoq** ca ces.

▶ 私はペンと本を彼と交換した。

felqot は、動詞として用いると「交換する」という意味になります。この動詞は、**e** 句で交換する相手に渡すものを表し、**zi** 句で交換する相手から代わりにもらうものを表すので、**zi** が日本語の「～から」になりません。

同じように、**ca** は「～に」や「～へ」に相当する助詞ですが、そのように訳せない場合もあります。典型的なのが **liteq** に対して使われた場合です。

liteqes a tel **ca naflat**.

▶ 私は公園を通過した。

liteq は、動詞として「通過する」という意味をもちます。このとき、通過した場所を **ca** 句で表すことになっています。日本語では、普通「～を通過する」のように言うので、この文では **ca** が「～を」と対応していることになります。

以上のように、シャレイア語の助詞と日本語の助詞はぴったり対応するわけではありません。辞書で動詞型不定詞を引くと、動詞として使われたときに助詞がどのような意味になるかが必ず書かれていますので、ときどき確認するようにしましょう。

新出単語

動] fév … 貸す

名] kisol … お金

動] paqof … なくす

名] lofyet … リボン

動] hafas … ピンクの

名] cit … それ

名] qazrêy … 彼氏

動] qopat … 隠す

名] kùd … 奥

名] hinad … 山

名] kosrahit … 遊園地

名] vác … 年

動] zît … 前の

動] felqot … 交換する

動] liteq … 通過する

名] dev … ペン

selbutes ca tel a fax.

▶ 私は母親に叱られた。

kelitat e tel.

▶ 私は安心している。

1 受動相当表現

「叱られる」のような「～される」という受け身を表す構文は、シャレイア語にはありません。代わりに、第10課で学んだ助詞句の位置による意味合いの違いをうまく活かして、受け身のようなニュアンスを作ります。

受け身の表現を使う理由には様々ありますが、その理由の1つに、目的語を主語にすることで、それを文の主題にするというものがあります。例えば、「母親は私を叱る」と「私は母親に叱られる」では同じ内容を表現していますが、最初の表現では動作の主体である「母親」が主題になっているのに対し、次の表現では動作の目的語である「私」が主題になっており、これを実現するために受動態が用いられています。

第10課で学んだように、シャレイア語の文の主題が何になるかは、主語なのか目的語なのかとは関係なく、文の最初にどの助詞句があるかで決まります。そこで、動作の目的語を主題とした「私は母親に叱られる」をシャレイア語で表現するには、「母親は私を叱る」という普通の文を書き、目的語である「私」を動詞の直後に置けば良いのです。

selbutes **ca tel** a fax.

▶ 私は母親に叱られた。

このような助詞句を入れ替えて受け身のニュアンスを出す表現を、他の受動態のある言語と比較して、「受動相当表現」と呼ぶことがあります。大層な名前ですが、単なる助詞句の入れ替えなので、特別な構文ではありません。

2 主語がない受動相当表現

主語がない文も受け身のような意味合いになります。

ziltises ca tel.

▶ 私はからかわれた。

第10課では、存在しない助詞句は「何らかのもの」などが置かれていたと解釈されることを学びました。そのことをふまえると、上の文は「何らかの人が私をからかった」という意味で、最初の助詞句である「私」が主題として提示されている文となるため、日本語の「私はからかわれた」に近いニュアンスになります。

3 感情動詞

シャレイア語では、感情は動詞を用いて表します。このときの動詞は、「安心させる」や「悲しませる」のように、「相手にその感情を感じさせる」という意味になっています。では、「安心する」や「悲しむ」などはどのように表現するかというと、それぞれ「安心させられている」や「悲しませられている」だと考え、これらの動詞を受動相当表現で用います。

kelitat e tel.

▶ 私は安心している。

dodes ovel e bam e qaled i ces.

▶ 彼の弟はとても悲しんだ。

シャレイア語には、この「安心させる」や「悲しませる」のように、日本語では使役のような意味合いになる動詞が多くあります。

新出単語

動 selbut … 叱る
名 fax … 母親
動 ziltis … からかう

動 kelit … 安心させる
動 dod … 悲しませる
名 qaled … 弟

演習問題 2

1. 次の活用した単語を文法的品詞を変えずに否定形にしてください。

- (1) ebam
- (2) tolècis
- (3) ahafas
- (4) lef

2. 次の文を否定相当語を用いてシャレイア語に訳してください。

- (1) 誰も歌っていない。
- (2) この部屋には何もありません。
- (3) 私の友達誰もかっこよくない。

3. 次の文の下線部を疑問詞に置き換えて疑問文を作りなさい。

- (1) lanes a loc ca kosrahit.
- (2) selbutac a ces ca qasot te sot.
- (3) sáfat a loc e loqiv axalket.

4. 次の疑問文に指定された単語を用いて回答する文を作りなさい。

- (1) pa kotikes a loc e monaf afik vo pâd? → naflat
- (2) pa folanis a loc te pet? → lon i saq
- (3) pa keqilac a loc e sod apéf? → avaf

5. 次の文を受動相当表現を用いてシャレイア語に訳してください。

- (1) このリンゴは食べられた。
- (2) 私は弟に馬鹿にされた。

6. 次の文を日本語に訳しなさい。

- (1) dukavat a tel e hinof.
- (2) séqes a ces e tosol abig ca duqazrêy.
- (3) féves a tel te vac azît ca dus e kisol.
- (4) pa qonoces a loc e solak aqôl aquk?
- (5) pa kûtat a loc e sòlaq apéf?
- (6) pa selbutac vade pil e loc etut a ces?
- (7) debat e ces te sot ovel ebam.

7. 次の文をシャレイア語に訳しなさい。

- (1) このボールはオレンジ色だ。
- (2) 私は腕時計をなくしていない。
- (3) あなたは私の本を隠しましたか？
- (4) 私の家を今通過しているのは誰ですか？
- (5) 彼はどうやってその真実を知ったのでしょうか？
- (6) 私は彼に服を着させられた。
- (7) なぜ誰も悲しんでいないのですか？

新出単語

動 vaf … 大きい
名 tosol … 帽子

名 sòlaq … 携帯電話
動 deb … 疲れさせる

第 2 部



第2部では、主に複数の文を1つの文にまとめる方法を学びます。単純に2つの文を並列したり、片方の文を名詞にしてもう一方の文で使ったり、片方の文をもう一方の文の名詞に修飾させたり、文のまとめ方には様々あります。それぞれの場合で構文は異なりますが、これができるようになると一気に表現の幅が広がります。

milcítac a tel e dales o monaf.

▶ 私は犬と猫を飼っている。

liqetes a tel te tazît e ces, dà dulicanes a ces zi cit.

▶ 私は昨日彼に電話したが、彼はそれに応答しなかった。

pa sâfat a loc e zef á bag?

▶ あなたは赤と青のどちらが好きですか？

1 語句の接続

複数の語句の間に o や ò を入れることで、それらの語句を接続して1つのまとまりを作ることができます。これは日本語の「と」や「かつ」に当たる単語です。例えば、dales と monaf を繋げたいときは dales o monaf とします。

o は基本的に名詞を繋げるのに使い、ò は形容詞や副詞や節を繋げるのに使います。どちらの場合でも、繋がれる語句は文法的品詞が同じでなければなりません。例えば、名詞と名詞は繋げることができますが、形容詞と動詞などは繋げられません。

接続された語句は、全体で1つの単語のように用いることができます。

milcítac a tel e **dales o monaf**.

▶ 私は犬と猫を飼っている。

salot a ces e hay **asafey ò akelzef**.

▶ 彼女は優しくて頼もしい女の子だ。

最初の例では、名詞の dales と monaf が接続されているので、dales o monaf 全体で1つの名詞として扱われ、e 句を形成しています。次の例では、形容詞の asafey と akelzef が接続され、asafey ò akelzef 全体で形容詞として hay を修飾しています。

3つ以上の語句を繋げたい場合は、それぞれの語句の全ての間に o や ò を挿入します。タデックなどの記号で代用することはできません。

qikes a ces e tirmal zi **sakil o cilít o márec**.

▶ 彼はリンゴとレモンと桃からジュースを作った。

2 連結詞

o や ò は連結詞に分類され、文中では接続詞として用いられます。連結詞に分類される単語は、常に接続詞として用いられ、複数の語句を繋げてより大きなまとまりを作る役割をもちます。

シャレイア語の連結詞は以下の表に示すようにちょうど5個あり、o 以外は「別形」と呼ばれる別の語形をもっています。この別形については後述します。

単語	別形	意味	
o		と	並列
ò	lo	かつ	論理積
é	lé	または	選択
à	dà	しかし	範囲
á	lá	または	選択疑問

使い方は全て同様です。ただし、à が3つ以上の単語を繋げることはありません。例文をいくつか挙げておきます。

fesalat a tel e **qinat é keteq** i nát.

▶ 私は花の絵が写真が欲しい。

kiges a ces e naved **okosiz à otív**.

▶ 彼は野菜を丁寧だが素早く切った。

á は選択疑問文を作るときに使います。詳しい用法については後述します。

3 文の接続

連結詞は、語句と語句を繋げるだけでなく、文と文を繋げることもできます。このとき、連結詞の直前にタデックを置きます。ただし、接続される2つの文がともに短いときは、このタデックを置かないこともあります。

rezes a tel, **ò** rédes a ces.

▶ 私は笑い、そして彼は泣いた。

この例文では、rezes a tel と rédes a ces という2つの文をò が繋いでいます。ここではò の直前にタデックを置いていますが、接続されている2つの文はどちらも比較的短いので、タデックがなくても自然でしょう。

連結詞が文と文を繋いでいる場合に限り、通常形の代わりに別形が使われることが多いです。どちらを用いても意味に違いはありません。連結詞が語句と語句を繋げている場合は、別形を使うことはできず、常に通常形が用いられます。

liqetes a tel te tazît e ces, **dà** dulicanes a ces zi cit.

▶ 私は昨日彼に電話したが、彼はそれに応答しなかった。

4 áによる選択疑問文

áは疑問文における選択肢を表し、常に疑問文で用いられます。このような疑問文に回答する側は、áで繋がれた選択肢から1つを選んで答えることになるので、第9課で学んだ疑問詞疑問文への答え方に準じて、助詞句によって回答します。

pa sâfat a loc e **zef á bag**?

▶ あなたは赤と青のどちらが好きですか？

e bag.

▶ 青です。

この文の zef á bag の部分が「赤または青のどちらか」という選択肢を表す名詞句になっていて、「赤と青のどちらが好きか」という選択肢を提示する形の疑問文が作られています。

áが動詞を接続している場合は、回答が動詞になります。この場合は、回答となる動詞に加えて、文中にある助詞句のうちいくつか必要なものも合わせて答えるのが自然です。動詞だけを単独で答えることはあまりしません。

pa **rahaset á tigumet** te tazît e loc?

▶ あなたは楽しかったか苦しかったかどちらですか？

rahaset e tel.

▶ 楽しかったです。

áが文を繋げる場合は、繋がれた文のうちのどれが正しいかを選択させる疑問文を作ります。このとき、繋がれる両方の文の動詞の前に、疑問を表す paが必要になります。回答する側は、選択肢となっている文のいずれかをそのまま答えます。ただし、そのままでは文が長すぎる場合は、不要な助詞句が省略されることがあります。

pa lanes a loc ca kossax, **lá** **pa** qetet a loc vo sod?

▶ あなたは学校に行きましたか、それとも家にいましたか?

5 á と é の違い

á と é は混同されやすいので注意してください。é は単に語句を「それらのうちのどれか」という意味で繋げるだけなので、é を使って疑問文を作ると諾否疑問文になります。

少し前に作った例文中の á を、以下のように é に変えてみましょう。

pa sâfat a loc e **zef é bag**?

▶ あなたは赤または青が好きですか?

ya.

▶ はい。

こうなると、「赤または青」が好きかどうかを尋ねているので、赤が好きであるか青が好きであるならば **ya** と答え、どちらも好きでなければ **du** と答えることになります。これは選択疑問文ではありません。

新出単語

連 o … と

連 ò … かつ

名 dales … 犬

動 milcit … 飼う

名 hay … 女の子

動 safey … 優しい

動 kelzef … 頼もしい

動 qik … 作る

名 tirmal … ジュース

名 cilít … レモン

名 márec … 桃

連 lo … そして

連 é … または

連 lé … または

連 à … しかし

連 dà … しかし

連 á … または

連 lá … または

動 fesal … 欲する

名 qinat … 絵

名 keteq … 写真

動 kig … 切る

名 naved … 野菜

動 kosiz … 丁寧に

動 tiv … 素早く

動 rez … 笑う

動 réd … 泣く

動 liqet … 電話する

動 lican … 応答する

名 zef … 赤

名 bag … 青

動 rahas … 楽しませる

動 tigum … 苦しませる

nîpet a loqiv ovip, te zêfek a tel ca kolot.

▶ 私が駅に着いたとき、電車はすでに行ってしまった。

ri kûtit a tel e kisol avosfom, fegis a tel e taqòd.

▶ もし私が膨大な量のお金を持っていたら、島を買うだろう。

kômot a ces e levlis, te edificamos a ces vo riy.

▶ 彼は海で泳ぐときでさえ、眼鏡をかけている。

lanes a ces ca naflat. so, paleves a ces e tîlirsîpiv.

▶ 彼女は公園に行った。それは四つ葉のクローバーを探すためだ。

1 接続詞としての助接詞

第4課で学んだように、一般に助接詞は文中で助詞としても接続詞としても使うことができます。助詞としての用法は、第2課で学んだ通りです。復習しておくとして、名詞の前に置かれて、主語や時間などのその名詞の文中での意味的役割を示すのでした。また、第7課で学んだように、一部の動詞とともに使われる場合は、助詞の後に形容詞が置かれることもあったのでした。

この課では、助接詞を接続詞として使った場合の用法を学びます。助接詞を接続詞として使うと、第12課で学んだ連結詞と似て、文と文を接続する役割を果たします。

ただし、一部の助接詞には接続詞としての用法がありません。ここまで出てきた助接詞の中では、a や e などがこれに該当します。以下に、接続詞として使うことができる主な助接詞を挙げておきます。

単語	意味
te	～するとき 時間
qi	～することで 手段
vade	～なので 理由
ri	もし～ 条件
so	～するために 目的
cife	～しながら 同時

なお、この課で扱う範囲では、接続詞として扱う場合でも、助接詞は活用せず語幹がそのまま用いられます。活用した助接詞の用法については、第 21 課などで学びます。

2 接続詞としての助接詞の用法

接続詞としての助接詞の使い方は以下の通りです。まず、助接詞の意味を付け加えたい方の文の前に、その助接詞を置きます。例えば、te は接続詞として「～するとき」のように時間を表すので、時間を表している文の前に te を置きます。この助接詞を付けた文を別の文の後に置き、助接詞の前にタデックを置けば、2つの文を繋げることができます。

nîpet a loqiv ovip, **te** zêfek a tel ca kolot.

▶ 私が駅に着いたとき、電車はすでに行ってしまっていた。

この例では、nîpet a loqiv ovip と zêfek a tel ca kolot という 2つの文を te が繋げています。te が付けられているのは zêfek から始まる文の方なので、zêfek から始まる文が nîpet から始まる文の時間を表すことになります。

接続詞として使われている助接詞が付けられた方の文を「接続詞節」といい、そうでない方の文を「主節」といいます。

なお、連結詞の場合と同様、助接詞の前のタデックは省略することができます。接続されている 2つの文がともに短い場合は、タデックが省略されやすい傾向にあります。

他の助接詞を使った例もいくつか挙げておきます。

dusâfat a tel e micés afik, **vade** salat a cit e asítet ebam.

▶ とても酸っぱいので、私はこのイチゴが好きではない。

semisez a tel li qazek acik, **qi** tepites a tel e lôcet ca kutaf.

▶ 口にテープを貼り付けることで、私はその男を黙らせた。

助接詞が接続詞として文を繋げているとき、その文が疑問文になっているならば、主節の方の動詞の前の方に pa を置きます。連結詞が疑問文を繋げているときは、両方の文の動詞の前に pa が必要だったので、この場合とは pa の扱いが異なることに注意してください。

pa lídec a loc e xoq apek, te qetet a loc vo sokulxoq?

▶ 図書室にいたとき、あなたは何の本を読んでいたのですか？

3 接続詞節の位置

ここまでの文では主節の後に接続詞節が置かれていましたが、主節の前に接続詞節を置くこともできます。その場合、主節の直前に必ずタデックを置きます。このタデックは省略できません。

ri kùtít a tel e kisol avosfom, fegis a tel e taqòd.

▶もし私が膨大な量のお金を持っていたら、島を買うだろう。

このように接続詞節を主節の前に置けるのは、その接続詞が助接詞である場合だけです。その接続詞が連結詞だった場合、この構文にすることはできません。

4 接続詞節を修飾する語句の位置

接続詞節全体を何らかの語句で修飾したい場合がときどきあります。そのような場合、少し例外的ですが、接続詞の直後にその修飾語句を置きます。それ以外の場所に修飾語句を置くことはできません。

kòmot a ces e levlis, te edif ricamos a ces vo riy.

▶彼は海で泳ぐときでさえ、眼鏡をかけている。

この例では、「彼が海で泳ぐとき」という意味の te 節全体を「さえ」という意味の edif が修飾し、全体で「彼が海で泳ぐときでさえ」という意味の節を作っています。

5 接続詞の副詞的用法

接続詞節が主節の後に置かれている文において、接続詞の前のタデックをデッキを変えて一度文を切ることができます。このようにした場合、さらに接続詞の直後にタデックを置きます。

例えば以下の文を考えてみましょう。

lanes a ces ca naflat, so paleves a ces e tílirsítpiv.

▶彼女は四つ葉のクローバーを探すために公園に行った。

この文で使われている接続詞 so の直前のタデックをデッキに変え、so の直後にタデックを置くと以下ようになります。

lanes a ces ca naflat. so, paleves a ces e tílirsítpiv.

▶彼女は公園に行った。それは四つ葉のクローバーを探すためだ。

このようにすると文が一度区切られるので、接続詞が文を繋げているというよりは、前後の文の意味的な関係が接続詞によって明示されていると考える方が自然です。そこで、このような用法は「接続詞の副詞的用法」と呼ばれています。

接続詞の副詞的用法は、その接続詞が連結詞である場合でも使うことができます。

déxez a tel li qasot o fay. **dà**, feketes a ces ofev.

▶ 私は息子と娘を寝かせた。しかし、すぐに起きてしまった。

新出単語

助] ri … もし～	動] lîd … 読む
助] so … ～するために	名] sokulxoq … 図書室
助] cife … ～しながら	動] vosfom … 膨大な
名] loqiv … 電車	名] taqòd … 島
動] zêf … 着く	名] levlis … 眼鏡
名] kolot … 駅	副] dif … さえ
名] micés … イチゴ	動] ricam … 泳ぐ
動] sitet … 酸っぱい	名] riy … 海
動] semis … 黙る	動] palev … 探す
名] qazek … 男	名] tîlirsîpiv … 四つ葉のクローバー
動] tepit … 貼り付ける	名] fay … 娘
名] lôcet … テープ	動] feket … 起きる
名] kutaf … 口	動] fev … すぐに

rafat a tel e kin lohisis a tel vo hivas.

▶ 私は空を飛ぶたい。

haros e tel a kin etut qeritos a tel e yepil i ces.

▶ 彼の歌を聴くことだけが私の気分を良くさせる。

1 kin 節

kin の後に通常の文を続けると、「～ということ」という意味になり全体が名詞化されます。例えば、vilisos a tel は「私が走る」という意味の文なので、これの前に kin を置けば「私が走ること」という1つの名詞として扱える節ができます。

kin とその後に続く文のまとまりを「kin 節」と呼びます。また、kin 節を中身にもつ助詞句を「kin 節句」と呼びます。

kin 節は全体で名詞のように振る舞うので、その直前に助詞を置いて助詞句を作り、文の一部として用いることができます。

sâfat a tel e kin vilisos a tel.

▶ 私は走ることが好きだ。

このように、kin 節は英語の to 不定詞や that 節と似たような役割を果たします。しかし、英語の to 不定詞では主語が取り除かれる一方で、kin の後には通常の文が置かれるので、kin 節内での助詞句の省略は第10課で扱った通りに解釈されます。例えば上の文で kin 節内の a tel を省略すると、「誰かが走ることを私は好きだ」という意味になり、「自分が走ることが好きだ」という本来の意味から離れてしまいます。

なお、上の文で kin 節内の動詞が通時時制無相で用いられているのは、「過去に走ること」や「今走ること」が好きなわけでもなく、「走る」という行為の中の特定の段階が好きというわけでもないためです。第5課で、行為の時間や段階を特に指定せずに行為そのものを表したいときは、通時時制や無相が使われると学んだことを思い出してください。このような通時時制や無相は、kin 節ではよく用いられます。

2 kin 節とよく使われる動詞

前の例文で使った *sâf* は、動詞として使ったときに kin 節とともに使われることが多いです。他にも kin 節とともによく使われる動詞があるので、ここでいくつか紹介しておきます。

raf は、動詞として「(e 句の内容を) 望む」という意味です。raf を継続相自動詞として使い e 句に kin 節を置けば、「～を望んでいる」すなわち「～したい」という願望を表すことができます。なお、望んでいる内容が実際に起こり得るのは未来なので、kin 節内の動詞は未来時制にするのが普通です。

rafat a tel e kin lohisis a tel vo hivas.

▶ 私は空を飛ぶたい。

次に *deq* は、動詞として「(e 句の内容を ca 句の相手に) 行わせる」という意味になります。これによって使役を表現することができます。

deqes a tel ca sotis e kin tayelis a ces e nasfek.

▶ 私は子供に庭を掃除させた。

さらに *kéc* は、動詞として「(e 句の内容を ca 句の相手に) 言う」という意味になります。

kéces a ces e kin poqosec a ces te tazît e hîxlon fe fakrêy.

▶ 昨日は夜空を彼女と一緒に眺めていたと彼は言った。

また、第 11 課では、シャレイア語の感情動詞が「(e 句の相手に) その感情を感じさせる」という意味になっていることを学びましたが、このときの主語にはその感情を抱くことになった原因が置かれます。例えば、「彼が突然呼んだので私は驚いた」と表現したい場合は、「彼が突然呼んだことが私を驚かせた」と考えて以下のようにします。

zazes e tel a kin qòcases a ces e tel obâl.

▶ 彼が私を突然呼んだので私は驚いた。

3 kin 節句の位置

kin 節句は文末に置かれることがほとんどです。これは、kin 節のような長い要素は文の新情報になっていることが多いというのが一番の理由ですが、それ以外に、助詞句がどの動詞に係っているのかが曖昧になるのを防ぐためという理由もあります。

例えば、以下の文を考えてみましょう。

kéces a ces te tazît **e kin câses a ces e qâz i tel**.

▶ 私の父親に会ったと彼は昨日言った。

この文では kin 節句が文末に置かれていますが、以下のように kin 節句と te 句を交換したとしましょう。

kéces a ces **e kin câses a ces e qâz i tel** te tazît.

▶ 昨日私の父親に会ったと彼は言った。

こうすると、文末の te tazît が主節の kéces に係っているとも解釈できますし、kin 節の câses に係っているとも解釈できてしまうので、文の意味が曖昧になります。言い方を変えれば、父親に会ったのが昨日なのか、そのことを言ったのが昨日なのか、明確には分かりません。このような曖昧性を避けるために、kin 節を文末に置くことが多いわけです。

特定の助詞句を文末で強調したいなどの理由で kin 節句を文末に置きたい場合は、上で述べた曖昧性を避けるため、kin 節の終わりの位置にタデックを置くことがあります。例えば、上の文に対しては以下のようにタデックを置くことになります。

kéces a ces **e kin câses a ces e qâz i tel**, te tazît.

▶ 昨日、私の父親に会ったと彼は言った。

ただし、このようなタデックを使うのは、文の新情報として何らかの助詞句をどうしても文末に置きたい場合のみです。このタデックの多用は避けられる傾向にあるので、使うのは必要最低限にしましょう。

4 kin 節を修飾する語句の位置

kin 節全体を何らかの語句で修飾したい場合は、その修飾語は kin の直後に置かれます。接続詞節全体を語句が修飾する場合と同様です。

haros e tel a kin **etut** qeritos a tel e yepil i ces.

▶ 彼の歌を聴くことだけが私の気分を良くさせる。

5 kin 節の時制

kin 節内の動詞の時制が示す時間は、主節の動詞が表す行為が行われている時間を基準にして決まります。

例文を1つ挙げて説明します。会話などでこの文が話されたとしましょう。

fedakes a ces e kin **terac** a 'xastil e cèrzaf vo vocik.

▶ シャスティルがテラスで紅茶を飲んでいることに彼は気づいた。

kin 節内の動詞 terac は現在時制で用いられています。この現在時制が表す時間は、この文が話された瞬間ではなく、主節の fedakes が表す行為が成立した時間と同じになります。つまり、彼が気づいた時間とシャスティルが紅茶を飲んでいる時間が同じだということです。

仮に kin 節内の動詞が過去時制だったとします。

fedakes a ces e kin **terec** a 'xastil e cèrzaf vo vocik.

▶ シャスティルがテラスで紅茶を飲んでいたことに彼は気づいた。

この場合、kin 節の terec の過去時制が表す時間は、主節の fedakes が成立した時間より前になります。すなわち、彼が気づいた時間より前にシャスティルが紅茶を飲んでいていたことになります。言い方を変えれば、昔シャスティルがテラスで紅茶を飲んでいて後に気づいたわけです。

なお、連結詞や助接詞が接続詞として用いられている場合は、主節の時制も接続詞節の時制も、通常通りその文が話されたか書かれた時間から見た現在や過去を表します。

新出単語

動 raf … 望む	名 fakrêy … 彼女
動 lohis … 飛ぶ	動 zaz … 驚かせる
名 hivas … 空	動 qòcas … 呼ぶ
動 deq … させる	動 câs … 会う
名 sotis … 子供	名 qâz … 父親
動 tayel … 掃除する	動 har … 気分良くさせる
名 nasfek … 庭	動 qerit … 聴く
動 kéc … 言う	名 yepil … 歌
動 poqos … 眺める	動 fedak … 気づく
名 hixlon … 夜空	名 cèrzaf … 紅茶
助 fe … ～と一緒に	名 vocik … テラス

kilat qivlatos okezel a tel e loqis.

▶ 私は上手に車を運転できる。

dozat caliqaf a loc zi fêd te sot.

▶ あなたは今ここを出発しなければならない。

1 動詞の助動詞的用法 (その 1)

kil は動詞として使うと「(e 句の内容が) できるようになる」という意味になり、継続相自動詞で使うことで「～することができる」という可能や能力を表すことができます。

kilat a tel e kin qivlatos okezel a tel e loqis.

▶ 私は上手に車を運転することができる。

この文は、以下の 2 つの条件を満たしていることに注目してください。

- ▶ 主節の動詞に係る kin 節句以外の助詞句が 1 つしかない
- ▶ その助詞句と全く同じものが kin 節の動詞にも係っている

実際、主節の動詞 kilat に係る kin 節句以外の助詞句は a tel のみですし、この a tel は kin 節内の動詞 qivlatos にも係っているので、上の 2 つの条件は両方とも成立しています。

一部の動詞に関しては、この 2 つの条件が両方とも満たされているとき、kin 節句以外の助詞句と kin 節句を形成している助詞と kin そのものを全て省略することができます。

上の例文では、kin 節句以外の助詞句は a tel なので、まずこれを省略できます。さらに、kin 節句を形成している助詞は e なのでこれも省略でき、kin そのものも省略できるので、最終的に以下のような形になります。

kilat qivlatos okezel a tel e loqis.

▶ 私は上手に車を運転できる。

このように省略すると、主節の動詞の直後にもともと kin 節内にあった動詞が置かれることとなります。この形が、英語の can drive のような助動詞と動

詞が連続した形に似ていることから、この表現は「動詞の助動詞的用法」と呼ばれます。

2 助動詞的用法の例 (その 1)

助動詞的用法にできる動詞は限られていて、上の 2 つの条件が満たされているからと言って、常に助動詞的に用いることができるわけではありません。

kil の他にも助動詞的用法にできる単語はいくつかあります。例えば raf です。助動詞的用法にする前とした後の両方の例を載せておきます。

rafat a tel e kin keqilic a tel vo zîd axedfet.

▶ 私は静かな場所に住むことを望んでいる。

rafat keqilic a tel vo zîd axedfet.

▶ 私は静かな場所に住みたい。

また、zed も助動詞的に用いることができます。zed は、動詞としての意味が「(e 句の内容を) しようと思う」であり、意志を表すのに使われます。

zedat sohizis a tel e qilxaléh.

▶ 私はシャレイア語を勉強しようと思っている。

3 動詞の助動詞的用法 (その 2)

助動詞的用法にできるパターンにはもう 1 つあります。例を 1 つ挙げて説明します。

doz は動詞として使うと「(e 句の内容を) しなければならなくする」という意味になり、継続相自動詞で使うことで「～しなければならない」という義務を表すことができます。この動詞の主語にはそうしなければならなくなった状況などが置かれますが、省略されることが多いです。

dozat e kin caliqaf a loc zi fêd te sot.

▶ あなたは今ここを出発することをしなければならない。

この文は、以下の条件を満たしています。

▷ 主節の動詞に係る助詞句が kin 節句のみである

一部の動詞に対してこの条件が成り立っている場合、kin 節句を形成している助詞と kin そのものを省略することができます。

上の例文の場合、kin 節句を形成している助詞である e と kin そのものを省略し、以下のような形になります。

dozat caliqaf a loc zi fêd te sot.

▶ あなたは今ここを出発しなければならない。

このパターンの省略も「動詞の助動詞的用法」と呼ばれます。

4 助動詞的用法の例 (その 2)

2つ目のパターンの助動詞的用法でよく用いられる単語としては、doz の他に qif があります。qif は動詞として「(e 句のことを) できるようにする」という意味です。doz と同様に、qif の主語にはそのことが可能になった状況などが置かれ、しばしば省略されます。

qifes e kin xasakas a tel e sodcat asokos afik.

▶ 私はこの価値のある企画を成功させることができた。

qifes xasakas a tel e sodcat asokos afik.

▶ 私はこの価値のある企画を成功させられた。

fêz もこのパターンの助動詞的用法をとることができます。この fêz は、動詞として「(e 句の内容で) あるかのように思わせる」のような意味をもち、英語の seem のような意味合いが出せます。

fêzat pâmat a ces e kofet i tel.

▶ 彼は私の名前を忘れているようだ。

5 kil と qif

さて、日本語の「～できる」を表す単語として kil と qif の 2つが出てきたことに気づいたでしょうか。対応する日本語は同じですが、この 2つの単語には明確な使い分けがあります。

kil は、より正確にその意味を述べると「動作を行うだけの能力を身につける」ようになり、行為者に能力があったためにその行為を行うことができたことを表します。一方で qif は、周りの状況が良かったためにその行為を行うことができたことを表します。qif の主語にはその行為ができたときの状況が置かれることから、この意味には納得できるでしょう。

簡単な具体例を挙げます。

kilet ricamos a tel.

▶ 私は泳ぐことができた。

qifet ricamos a tel.

▶ 私は泳ぐことができた。

最初の例文では kil が使われているので、泳ぐ練習をしたことがあるなどで水泳の能力をもっており、その能力のおかげで泳ぐことができたことを表しています。次の例文では qif が使われているので、例えば水深が浅かったなど、そのときの状況が偶然良かったために、そのときに限っては泳ぐことができたことを表しています。したがって、状況が変われば泳げない可能性があるわけです。

また、能力を身につけていれば、基本的にはその時点でもこれから先でもその行為を行うことができるので、kil に続く動詞の時制は通時時制になることがほとんどです。ただし、述べている能力が限定的で、それを発揮する場面がその場しかほとんどないような場合は、kil の後の動詞が現在時制になることもあります。一方、状況が良くて何かがうまくいった場合は、別の時間ではうまくいかない可能性があるので、その時点ではできたという意味を込めて、qif に続く動詞の時制は現在時制になるのが普通です。qif の後の動詞が通時時制で用いられることはありません。

新出単語

動 kil … できるようになる

動 qivlat … 操縦する

動 kezel … 上手な

名 zid … 場所

動 xedfet … 静かな

動 zed … しようと思う

動 sohiz … 勉強する

名 qilxaléh … シャレイア語

動 doz … しなければならなくする

動 caliq … 出発する

動 qif … できるようにする

動 xasak … 成功させる

名 sodcat … 企画

動 sokos … 価値のある

動 fêz … するように思わせる

動 pâm … 忘れる

名 kofet … 名前

vomac kâkos a hitál aqúk ca fêd otêl.

▶ あの鳥はここにときどき現れる。

1 反復表現

vom という単語は、動詞として用いると「(e 句の内容を) 繰り返し行う」や「(e 句の行為を) 何度か行う」という意味になり、動作の反復を表現することができます。e 句には反復する動作を kin 節にして置くのですが、助動詞的用法にすることが多いです。また、このときの kin 節内の動詞は通時時制にするのが普通です。

vomes vîticos a tel e xiflohis.

▶ 私は流れ星を何度か見かけた。

「ときどき」のような頻度を表す副詞は、頻度というのが動作の繰り返しの間隔がどの程度なのかを示すものなので、必然的に反復を表す vom とともに用いられることとなります。ただし、「常に」の意味がある vâk と dum は動作の繰り返しを意味しないので、反復表現にする必要はありません。

vomac kâkos a hitál aqúk ca fêd otêl.

▶ あの鳥はここにときどき現れる。

日本語ではわざわざ「繰り返す」などとは言わない場合でも、複数回行われることが想定されている場合には vom が用いられます。

deqigés ca tel a yéf e kin vomic maritos a tel e loqis.

▶ 私は妻に車を洗うよう命じられた。

vomac dulanos a ces zite ben azît ca kosdes.

▶ 彼は先月から大学に行っていない。

1つ目の例では、命じられた内容である e 句の中で vom が使われているので、1回ではなく複数回車を洗うよう命じられたこととなります。すなわち、今後習慣的に車を洗うよう命じられたわけです。このように、習慣的に何かを行うことを表すのにも vom が使われます。

また、上の2つ目の例でも vom が使われていますが、これは以下のように説明できます。本来、大学には1回ではなく何度も行くことが想定されています。したがって、この場合の「大学に行っていない」というのは、何度も大学に行くべきときはあったのに一度も行かなかったことを表していると捉えられます。そこで、「大学に行かない」が繰り返されていると考えて、vomac dulanos となっているのです。

2 反復と相

以上のように、シャレイア語では1回の行為なのか複数回の反復された行為なのかを明確にする傾向があります。1回限りの行為の実行と何回かの行為の反復を混同しないよう注意してください。

具体例を見てみましょう。

lîdak a tel e lacat afik.

▶ 私はこの小説を読み終わった。

vomak lîdos a tel e lacat afik.

▶ 私はこの小説を読み終わった。

最初の文は、単に lîd を完了相で用いているだけで、「小説を読む」という1回の行為が完了したことを表しているにすぎません。小説の一部分だけを読んだ場合でも「読む」という行為をしたことになるので、この文だけでは、小説を最後まで読み切ったのかは分かりません。一方次の文は、vom を完了相で用いて反復が完了したことを表しているため、何度か「小説を読む」という行為を繰り返す中の最後の1回が終わったこととなります。つまり、これ以上の反復がないということなので、「小説を最後まで読み切った」というニュアンスが含まれます。

新出単語

動] vom … 繰り返す
 動] vîtic … 見かける
 名] xiflohis … 流れ星
 動] vák … 常に
 名] hitál … 鳥
 動] têl … ときどき
 動] deqig … 命じる

名] yéf … 妻
 動] marit … 洗う
 助] zite … ～から
 名] ben … 月
 名] kosdes … 大学
 名] lacat … 小説

演習問題 3

1. 次の文を適切な接続詞を用いてシャレイア語に訳しなさい。

- (1) 私はリンゴかミカンが欲しい。
- (2) この本は古いのだが価値がある。
- (3) 彼は家を買うために、私からお金を盗んだ。
- (4) 私が病院に着いたとき、彼は寝ていた。

2. 次の文を á(もしくは íá)を用いてシャレイア語に訳しなさい。

- (1) あなたは犬と猫ではどちらが好きですか?
- (2) あなたが今いるのは家ですか、それとも学校ですか?
- (3) 彼は勉強しているのか部屋を掃除しているのかどちらですか?

3. 次の文を kin 節を用いてシャレイア語に訳しなさい。

- (1) 私がもう出かけたということを彼は知っている。
- (2) 私は海で泳ぐことが好きだ。

4. 次の文中の動詞を助動詞的用法にして文を書き換えなさい。

- (1) rafat a tel e kin yepelis a tel.
- (2) kilat a ces e kin qikos a ces e tolék asaret ebam.
- (3) dozat e kin lakac a loc vo fêd qi qilxaléh.

5. 次の文は本来は反復表現にする必要があります。正しい文に直しなさい。

- (1) terac otêl a tel e cèrzaf.
- (2) dufetekac a refet e tel zite tazîthil.

6. 次の文を日本語に訳しなさい。

- (1) pa salat a qos e hinof á fax á fakrêy i loc?
- (2) cife sôdec a qaled i tel e retat, lídec a ces e xoq.
- (3) zedat kotikis okôk a tel e qazek aquk.
- (4) kéces a ces ca tel e kin lices a ces e xiflohis. dà, salet a cal e nodom.
- (5) ri etut kilit lohisos a tel vo hivas, vomic lanos a tel ca amerikas so câsos a tel e loc.

7. 次の文をシャレイア語に訳しなさい。

- (1) 私はその女の子にピンク色でかわいらしいワンピースを着せた。
- (2) 私は友達と一緒に海に行きたい。
- (3) 私が彼に電話したことさえも彼を驚かせた。
- (4) 私は彼を殴ってしまった。なぜなら、彼がときどき私を馬鹿にしていたからだ。
- (5) もし私が彼からその話を伝えられていなかったら、私は今ここにはいないでしょう。

新出単語

- 動] fetek … 連絡する
名] qos … あの人の人
名] retat … お菓子

- 名] cal … そのこと
名] nodom … 嘘
名] amerikas … アメリカ

ditat fôvis a loc e téd.

▶ 扉を開けてください。

duqetanis a loc!

▶ 動くな!

1 命令表現

シャレイア語には命令を表す特別な構文はなく、代わりに **dit** という単語を使います。**dit** を動詞として用いて「ditat e kin ~」という形にすると、これで「～してください」という命令や依頼の意味が出ます。ただし、**dit** は助動詞的に用いられることがほとんどで、**e kin** の部分が残るのは非常に稀です。

この **dit** そのものに意味はなく、命令文であることを示すためのマーカーのような働きがあるだけです。また、**dit** は常に動詞として用いられ、さらに常に現在時制継続相自動詞の **ditat** の形になり、他の活用形にはなりません。

命令された内容が実際に行われるのは命令より後の時間なので、命令内容を表す **kin** 節の中の動詞は未来時制で使われるのが普通です。もしくは、「今すぐやってください」という意味合いを込めて、**kin** 節の動詞を現在時制開始相にすることもあります。

命令は話している相手にするものなので、命令内容には「あなた」を意味する **loc** が含まれるはずですが、この **loc** を省略することはしません。通常の **kin** 節で省略しないのと同様です。

ditat fôvis a loc e téd.

▶ 扉を開けてください。

ditat に続く動詞を否定形にすることで、「～しないことをしてください」すなわち「～しないでください」という禁止を表すことができます。**dit** を否定形にするわけではないので注意してください。

ditat **dudovekis** a loc e likis anav.

▶ 黄色い線を踏まないでください。

命令内容の中に「私たち」を意味する **zál** が **loc** の代わりに含まれている場合は、「～しましょう」のような勧誘の意味になります。

ditat sôdis ofelaz a **zál** e tonasxav vo vocik aqok.

▶ あのテラスで一緒に昼食を食べましょう。

2 dit のない命令表現

命令表現では **dit** を使うと説明しましたが、口語ではこの **dit** が省略されることがあります。**dit** を省略した場合、少し乱暴な命令という印象になります。緊急時などで少しでも短く命令内容を言いたいときにも使われます。

duqetanis a loc!

▶ 動くな!

新出単語

動 dit

動 fôv … 開ける

名 téd … 扉

動 dovek … 踏む

名 likis … 線

動 nav … 黄色い

名 zál … 私たち

動 felaz … 一緒に

名 tonasxav … 昼食

動 qetan … 動く

foqones a tel e kin kufis a'l e celvir atufil aquk.

▶ 私はあの珍しいワインを手に入れるのを諦めた。

meloses a tel e'n lekutis a'l ca hilvit.

▶ 私は飛行機に乗るのに遅れた。

di'cafosis a'c ca tel e keteq acik.

▶ 私にその写真を見せて。

1 名詞の縮約形

tel, loc, ces, cit の4つの単語は文中で頻繁に出てくるので、文が冗長になるのを防ぐため、それぞれ最後の1文字だけを取って 'l, 'c, 's, 't になる場合があります。この短くした形を「縮約形」といいます。これらの縮約形の前にはスペースを入れません。

この4つの縮約形は、もとの単語が同じ文の中で2回目以降に現れた箇所で、その単語の代わりに使われます。文中の最初の出現箇所で縮約形を使うことは基本的にありません。

foqones a tel e kin kufis a'l e celvir atufil aquk.

▶ 私はあの珍しいワインを手に入れるのを諦めた。

te kécós a ces e nodom, mafetos okôk a's e nemok.

▶ 彼は嘘をつくときに必ず鼻を触る。

1つ目の例文では tel の縮約形の 'l が用いられていて、2つ目では ces の縮約形の 's が用いられています。どちらも、最初に出てくる tel や ces に対しては縮約形が使われていないことに注目してください。

例外的に、命令文での loc に対しては、文中で最初に出てきたものに対しても縮約形の 'c が用いられることがあり、さらにほとんどの場合に縮約形の方が使われます。

ditat hanotis a'c ca tel e soqal acik.

▶ そのボールを私に放り投げてください。

口語では縮約形が多用される傾向にあり、tel, loc, ces, cit の全てについて、文中での最初の出現箇所においても縮約形が用いられることがあります。また、詩や歌詞などリズムを重んじる文章でも、音節の個数を調節するために、文の最初の出現箇所でも縮約形が用いられることがあります。

2 kin の縮約形

kin もしばしば'n に縮約されます。この縮約形は、文中での何番目の出現かに関係なく使われます。

meloses a tel e'n lekutis a'l ca hilvit.

▶ 私は飛行機に乗るのに遅れた。

3 ditat の縮約形

命令文を作る ditat も di' という縮約形をもっています。di' に縮約された場合は、di' の次の単語との間のスペースがなくなります。

di'cafosis a'c ca tel e keteq acik.

▶ 私にその写真を見せて。

ditat を di' に縮約した場合、命令の丁寧度が下がります。縮約せずに ditat を用いた場合は、日本語の「～してください」のような比較的丁寧な依頼になりますが、縮約して di' にすると、日本語の「～しなさい」や「～して」のような言い方になります。

新出単語

縮 l' ... tel

縮 'c ... loc

縮 's ... ces

縮 't ... cit

動 foqon ... 諦める

動 kuf ... 手に入れる

名 celvir ... ワイン

動 tufil ... 珍しい

動 mafet ... 触る

名 nemok ... 鼻

動 hanot ... 放り投げる

縮 'n ... kin

動 melos ... 遅れる

名 hilvit ... 飛行機

縮 di' ... ditat

動 cafos ... 見せる

vade kômet a ces e hâl acac, rafat fegis a tel e met.

▶ 彼女が新しいスカートを着ていたので、私はスカートを買いたい。

buqotat a ces e vafos, lo lat a tel evoc.

▶ 彼は動物が嫌いで、私もそうだ。

1 met

まずは以下の文を見てください。

vade kômet a ces e **hâl** acac, rafat fegis a tel e **hâl**.

▶ 彼女が新しいスカートを着ていたので、私はスカートを買いたい。

この文には hâl という名詞が 2 回出てきています。シャレイア語では、同じ単語が 1 つの文や連続する文の中に複数回出てくるというのは好まれません。そこで、複数回出てくる名詞のうち、2 回目以降のものを met という単語に置き換えることがあります。この met を日本語に訳すならば「それ」になりますが、日本語はそれほど繰り返しを嫌わないので、met に置き換える前の名詞で訳すのが自然でしょう。

上の文を met を用いた表現に書き直すと以下のようになります。この方がより自然です。

vade kômet a ces e hâl acac, rafat fegis a tel e **met**.

▶ 彼女が新しいスカートを着ていたので、私はスカートを買いたい。

日本語の「それ」に当たる単語には cit もありますが、cit と met では明確に意味が違います。英語の it と one の用法が異なるのと同様です。

met は単純にすでに出てきた名詞の代わりとしての役割があるだけです。したがって、例えば上の文においては、met は hâl の代わりをしているだけで、最初に出てくる hâl が指すものとの繋がりはありません。別の言い方をすれば、私が買いたいと思っているスカートと彼女が着ていたスカートは別物です。

一方、cit はそれが指すものと全く同じものを表します。例として、上の文の met を cit に変えてみましょう。

vade kômet a ces e hâl acac, rafat fegis a tel e **cit**.

▶ 彼女が新しいスカートを着ていたの、私はそれを買いたい。

こうすると、cit は前に出てくる hâl と同じものを指すので、私が買いたいスカートは彼女が着ていたものであることになってしまい、「彼女が着ていたスカートを買い取りたい」という意味合いになってしまいます。

なお、tel, zál, loc, ces, cit, cal のような代名詞の働きをもつ名詞に関しては、これらを met で置き換えることはしません。

2 |

met は名詞 1 単語の代わりにしますが、動詞とそれに係る助詞句の代わりにする単語もあります。それが I です。

以下の文を考えてみましょう。

buqotat a ces **e vafos**, lo **buqotat** a tel evoc **e vafos**.

▶ 彼は動物が嫌いで、私も動物が嫌いだ。

この文には、動詞 buqotat とそれに係る助詞句 e vafos が繰り返し用いられています。これでは冗長なので、2 回目の buqotat と e vafos をまとめて、動詞型不定詞 I の動詞用法で置き換えることができます。I は動詞として使うので当然活用させる必要がありますが、置き換える前の動詞の活用に合わせて。実際に書き換えると以下ようになります。

buqotat a ces e vafos, lo **I** a tel evoc.

▶ 彼は動物が嫌いで、私もそうだ。

この I は、動詞を含む表現の代わりとなることから「代動詞」と呼ばれます。なお、上の例の I は動詞と助詞句をまとめて代替していますが、動詞だけの代わりとして用いられることもあります。

新出単語

名 hâl … スカート

動 cac … 新しい

名 met … それ

動 buqot … 嫌う

名 vafos … 動物

動 I

salat e qâzhil i tel a lanqos raflesac e a 'keldis.

▶ ケルディスが会話している老人は私の祖父だ。

1 限定節

シャレイア語では、ある名詞を文によって説明するための構文があります。以下に、具体例を挙げながらその構文の作り方を説明していきます。

まず、以下の2つの文を考えてみましょう。

salat e qâzhil i tel a lanqos.

▶ 老人は私の祖父だ。

raflesac a 'keldis e ces.

▶ ケルディスがその人と会話している。

2文目の ces が1文目の lanqos を指しているとする、2文目全体を lanqos に修飾させて、「ケルディスが会話している老人は私の祖父だ」という1つの文にまとめることができます。このような文を作るには、以下のような手順を踏みます。

- ▶ 修飾する側の文の動詞に係る助詞句のうち、被修飾語と同じものを指している名詞を含むものを、動詞の直後に移動させる
- ▶ 修飾する側の文において、被修飾語と同じものを指している名詞を削除する
- ▶ 修飾する側の文全体を被修飾語の直後に置く

上の例の場合では、この3つの手順は具体的に以下ようになります。

- ▶ 2文目の e ces を raflesac の直後に移動させる
- ▶ 2文目の ces を削除する
- ▶ 2文目全体を1文目の lanqos の直後に置く

結果的に、以下の文が完成します。

salat e qâzhil i tel a lanqos raflesac e a 'keldis.

▶ ケルディスが会話している老人は私の祖父だ。

語句を修飾している方の文は「限定節」と呼ばれます。上の例では *reflesac e a 'keldis* が限定節で、全体で *lanqos* を修飾しています。

さて、他のパターンの限定節を用いた例を紹介します。

*fedàtat a tel e **zis**.*

▶ 私は人と知り合いだ。

*kilat risfevos a refet i **ces** e líker.*

▶ 彼の友達はピアノを演奏することができる。

この場合で注意すべきなのは、3つの手順のうちの1番目です。2文目全体を1文目の *zis* に修飾させて「友達がピアノを演奏できる人と知り合いだ」という文を作りたいので、2文目の *ces* が被修飾語と同じものを表す名詞です。したがって、*ces* を含む助詞句を動詞の直後に移動させることとなりますが、移動させるのは動詞に係る助詞句なので、*i ces* ではなく *a refet i ces* 全体となります。今回の場合、この助詞句はすでに動詞の直後にあるので、そのままの位置になります。

残りの手順も実行して1文にまとめたのが以下の文です。

*fedàtat a tel e zis **kilat risfevos a refet i e líker**.*

▶ 私は友達がピアノを演奏することができる人と知り合いだ。

2 限定節の例

限定節を用いたいくつかの例文を載せておきます。それぞれの例文について、限定節によって1つの文にまとめられる前の2つの文を想像すると、良い練習になるかもしれません。

*pa salat e pet a kofet i kosben **vahixes vo a ces**?*

▶ 彼が亡くなった病院の名前は何ですか？

この例文では、限定節内に *vo* が単独で現れています。これにより、限定節が修飾している *kosben* と同じものを表す単語が、限定節で *vo* 句として使われていたことが分かります。*vo* 句は場所を表すのでしたから、上の文は、限定節の内容が起こった場所である *kosben* について言及しているわけです。

*rafat sokis a tel e vadef **bûdezat vade a ces e tel**.*

▶ 彼が私を妬んでいる理由を私は知りたい。

この文では **vade** が単独で現れています。**vade** は理由や原因を表すので、上の文は、限定節の内容が起こった理由について言及していることとなります。以上のように、英語では **which, where, why** などの関係代名詞や関係副詞を使い分けるところを、シャレイア語では全て同じ方法で文を作ることができます。

i が単独で残る例も見てみましょう。

fovalas a ces zi kedet **salat a taqit i e akesel**.

▶ 壁が水色である建物から彼は出てきた。

i の位置に注意してください。すでに説明しましたが、i は名詞を修飾する助詞句を作るので、3段階の手順のうちの1段階目で移動させる助詞句は i 句ではありません。

3 限定節の時制

限定節内の動詞の時制が示す時間は、主節の動詞の動作が行われた時間を基準にして決まります。第14課で学んだ kin 節の時制の場合と全く同じです。

第14課で説明した通りなのですが、1つ例を見てみましょう。

fetekes a tel e fesotqik **valcasis** fe a'l e serin.

▶ 私は一緒に湖を眺めるつもりと同僚に連絡した。

限定節の動詞 **valcasis** は未来時制で用いられていますが、この未来時制が表しているのは、湖を眺めるのが同僚に連絡した時間より後だということです。したがって、この文が述べられた時間と湖を眺める時間との関係は分かりません。

主節の動作の時間を基準にして決まるのは、従属節の時制だけではありません。従属節内にある **te** 句などの時間表現もそうなります。このことは、限定節だけでなく kin 節でも同じです。

以下の例を使って詳しく説明します。

tikoses a zál e solkut qorasis ca a zál **te ciqid acál**.

▶ 私たちは来週旅行する国を決めた。

限定節内で **te ciqid acál** という時間を表す表現が用いられています。これは「来週」という意味ですが、旅行する国を決めた日から見て次の週を指すのであって、上の文が話された日から見て次の週を指すではありません。

以上のように、限定節と kin 節では、その節の中にある時制と時間表現が、主節の動作の時間から見て相対的に解釈されます。一方で接続詞節では、その節の中にある時制も時間表現も、主節にある場合と同じように、文が話された時間を基準にして定まるのでした。節の種類によって解釈が異なるので、混同しないように注意してください。

新出単語

[名] qâzhil … 祖父
 [名] lanqos … 老人
 [動] rafles … 会話する
 [動] fedàt … 知り合う
 [名] zis … 人
 [動] risfev … 演奏する
 [名] líker … ピアノ
 [名] vadef … 理由
 [動] búdez … 妬む

[動] foval … 出る
 [名] taqit … 壁
 [名] fesotqik … 同僚
 [動] valcas … 眺める
 [名] serin … 湖
 [動] tikos … 決める
 [名] solkut … 国
 [名] ciqid … 週
 [動] cáI … 次の

演習問題 4

1. 次の文を dit を用いた命令表現にしてシャレイア語に訳しなさい。
 - (1) 勉強してください。
 - (2) この部屋から出ないでください。
 - (3) 明日ワインを飲みましょう。
2. 次の文中の単語のうち縮約できるものを縮約しなさい。ただし、これらの文は書き言葉であって口語や詩歌ではありません。
 - (1) te fetekes a ces e tel, qetet a tel vo kolot.
 - (2) buqotet a ces e dales, dà mafetes a ces e cit.
 - (3) dibulat a tel e kin medeles a tel e qiliv.
 - (4) ditat yelesis a loc e sotis.
3. 次の文で繰り返されている語句を met や l を用いて書き換えなさい。
 - (1) sokesat a tel e dev, dà ducikekat a'l e dev.
 - (2) kûtat a tel e loqis azaf, lo zedat fegis a ces e loqis abig.
 - (3) lanes a tel ca kosdes, dà lanes a ces ca sod.
 - (4) vade qorases a ces ca amerikas, rafat qorasis a tel evoc ca amerikas.
4. 次の2つの文の下線部は同じものを指しているとして、限定節を用いて文を1つにまとめなさい。
 - (1) salat e refet i tel a zís. / hitat a çes vo qôd.
 - (2) pa salat e pet a vafos? / sâfat a loc e çit.
 - (3) zêfak a zál ca zîd. / xáfes e ces vo çêd.
 - (4) qetat a hitál. / dusokat a tel e kofet i çit.

5. 次の文を日本語に訳しなさい。

- (1) ditat qetit a'c vo cêd cate kâkis a tel.
- (2) vade dukotikat omez a tel e levlis, zedat fegis ovop a'l e met.
- (3) salat e ayát a kin beqomes a ces e yelicsiloz i loc. pa les vade pil?
- (4) salat e ayerif ebam a riy ricames vo a tel te ciqid azît.
- (5) duqifat pafikas a tel e kofcaf i yepil yepelac e a ces te sot. ri sokat a loc e cit, di'cazis a'c e't.

6. 次の文をシャレイア語に訳しなさい。

- (1) 明日旅行するのは諦めなさい。
- (2) 私はこの赤い洋服が好きではありません。あの青い洋服を私に見せてください。
- (3) 私の母は私に車を運転してほしいが、私はそうしようとは思っていない。
- (4) 私は姉が優しくない友人から妬まれている。
- (5) 彼がテラスで本を読んでいると、彼の飼っている猫がそこに入ってきた。

新出単語

動	dibul … 反省する
動	yeles … 世話をする
動	cikek … 携帯する
動	hit … 立つ
動	xáf … 産む
助	cate … ～まで

動	mez … まだ
動	vop … 再び
動	yát … 本当の
名	yelicsiloz … 指輪
動	pafik … 思い出す
名	kofcaf … 題名

vomac catos olof a tel vo fecil ica kedxovas afik.

▶ 私はよくこの神社の周辺を歩く。

salet e axalket a qazek ivo vosis afik.

▶ この店の男性はオシャレだった。

hilefat a tel e hisez ie hinad.

▶ 私は山登りが大好きだ。

1 助接詞の種類

助接詞は、「一般助接詞」と呼ばれるものと「特殊助接詞」と呼ばれるものの2種類に分けられます。これまで **a, ca, te, vade** など様々な助接詞が出てきましたが、これらは全て一般助接詞です。ただし **i** のみは例外で、これは特殊助接詞に分類されます。

全ての助接詞は、一般助接詞か特殊助接詞かに関わらず、「原形」と呼ばれる形と「非動詞修飾形」と呼ばれる形の2種類の活用形をもちます。原形は、名前の通り語幹そのままの形です。非動詞修飾形とは、語幹の前に活用接頭辞の **i** が付けられた形です。例えば、**zi** の非動詞修飾形は **izi** になります。ただし、**i** だけは少し例外で、これの非動詞修飾形は **i** のままです。

さらに、第4課で学んだように、助接詞は文中で助詞もしくは接続詞として使うことができます。

以上のことから、文中での助接詞は、2通りの種類(一般か特殊か)と2通りの活用形と2通りの文法的品詞が考えられ、合計で8通りに分類できます。この8通りのうちのどれなのかによって、助接詞の文法的な用法は変わってきます。

一般助接詞の原形が助詞として用いられている場合の用法は、第2課で学んだ通りです。また、一般助接詞の原形が接続詞として用いられている場合の用法は、第13課で学びました。一般助接詞の非動詞修飾形についてはまだ扱っていませんが、その用法をこの課で学びます。

特殊助接詞の用法は単語によって異なるので、個別に覚えていく必要があります。この本では、特殊助接詞については出てきた箇所でも個別に用法を説明

していくことにしますが、いくつかの頻出の特殊助接詞については第 22 課でまとめて触れます。

2 非動詞修飾形をとる名詞や形容詞

一部の名詞や形容詞は、それを説明する語句として、一般助接詞の非動詞修飾形が作る助詞句を要求します。このとき、その非動詞修飾形は助詞として用いることになり、後ろに名詞を伴って使われます。例えば、名詞としての意味が「周辺」という意味の *fecil* は、何の周辺かを表すのに *ca* の非動詞修飾形である *ica* を用いることが決められています。つまり、「A の周辺」は *fecil ica A* と表現することになります。

vomac catos olof a tel vo fecil ica kedxovas afik.

▶ 私はよくこの神社の周辺を歩く。

「～の」に相当する助詞には *i* がありますが、この場合 *ica* を使うことが決められているので、*i* を使うことはできません。

このような単語は名詞だけではなく形容詞にもあります。形容詞の意味が「近い」である *fêc* がその例です。この単語は、何から近いのかを表すのに *ica* 句を用いることになっているので、「A から近い」は *afêc ica A* となります。

sôdes a tel e tonaslön vo voston afêc ica sod i tel.

▶ 私は私の家から近いレストランで夕食を食べた。

名詞や形容詞を何らかの語句で説明したいとき、その被修飾語がある非動詞修飾形をとると決まっている場合は、その通りの非動詞修飾形を用いなければなりません。被修飾語としてどんな非動詞修飾形を要求するのかを、辞書で確認するようにしましょう。

3 限定節の省略で現れる非動詞修飾形

限定節の内容が複雑でないとき、その限定節の動詞などを省略することができます。このときに、一般助接詞の非動詞修飾形が現れます。

具体例を用いて説明します。

salet e azekeq ebam a qazek qetat a vo vosis afik.

▶ この店にいた男性はとてもクールだった。

この文は、限定節の動詞を消去して「この店の男性」とだけ言っても意味が通ると考えられます。このような場合、以下の手順によって文を短くすることができます。

- ▷ 限定節の動詞を消去する
- ▷ 限定節の動詞に係っている単独の助詞と省略しても問題ないと考えられる助詞句を消去する
- ▷ 限定節内の残したい助詞句や接続詞節に使われている助接詞を非動詞修飾形にする

上の例では *vo vosis afik* を残したいので、この3手順を実行すると以下のようになります。

salet e azeqek ebam a qazek ivo vosis afik.

▶ この店の男性はとてもクールだった。

もともと原形で使われていた *vo* が非動詞修飾形の *ivo* になっていることに注目してください。

もう1つ例を挙げます。

duqetat a lisid qilis e a tel so sôdis a tel e macak afik.

▶ 私がこのケーキを食べるために使うフォークがない。

この例では *qilis* や *a tel* などを省略して「このケーキを食べるためのフォーク」としても意味が十分に伝わります。そこで、上の3つの手順をこの文に対して施して、以下のように文を短くすることができます。

duqetat a lisid iso sôdis a tel e macak afik.

▶ 私がこのケーキを食べるためのフォークがない。

4 動名詞を修飾する非動詞修飾形

第4課で、動詞型不定詞は名詞としても用いることができると学びました。名詞として使うと、動詞として用いた場合に表す行為そのものを表すようになり、英語の動名詞のような役割を果たします。例えば、*hisez* は動詞としての意味が「登る」である動詞型不定詞ですが、名詞として用いると「登ること」になります。

以下の手順を順に踏むことで、*kin* 節を動詞型不定詞の名詞用法に置き換えることができます。

- ▷ kin を削除する
- ▷ kin 節内の動詞を名詞形に変える
- ▷ kin 節内の動詞に係っていた助詞句のうち省略しても問題ないと考えられるものを消去する
- ▷ kin 節内の残りの助詞句や接続詞節に使われている助接詞を非動詞修飾形にする

以下の例文を使って、実際に名詞用法に書き換えてみましょう。

hilefat a tel e **kin hisezos a'l e hinad**.

▶ 私は山を登ることが大好きだ。

この文の kin 節の動詞は hisezos で、名詞としての形は語幹そのままの hisez です。また、kin 節内の a'l は省略しても意味が通りそうなので、これは削除しましょう。最終的に、以下のようになります。

hilefat a tel e **hisez ie hinad**.

▶ 私は山登りが大好きだ。

hisez ie hinad という形ができました。すでに説明したように hisez が「登ること」を意味していて、ie hinad は「山を」という意味で hisez を修飾しています。したがって、全体で「山を登ること」という意味になるので、もともとの kin 節と同じ意味が出せるわけです。

ただし、この構文は少し堅い印象があり、あまり頻繁に用いられるものではありません。

新出単語

名 fecil … 周辺
 動 lof … よく
 名 kedxovas … 神社
 動 fêc … 近い
 名 tonaslon … 夕食
 名 voston … レストラン

動 zekeq … クールな
 名 lisid … フォーク
 動 qîl … 使う
 名 macak … ケーキ
 動 hisez … 登る
 動 hilef … 大好きになる

pa sokat a loc e socad ike'n kâkes a valgot ca fosnal afik?

▶ この村に熊が現れたという事件を知っていますか？

dusalat a tel e asafey iti feracis a'l e loc.

▶ 私はあなたの手伝いをするほど優しくない。

sâfat a tel e korac, ti vomac teros a'l e met te taq atov.

▶ 私は毎日飲んでいるくらいお酒が好きだ。

déxat a tiris vo qôd ovel ifeli laxqov.

▶ 赤ちゃんがあそこでまるで人形のように眠っている。

1 特殊助接詞の用法

特殊助接詞の用法は単語によって異なるので、それらを含めて説明できる一般論があるわけではありませんが、いくつか共通の法則があります。

まず、特殊助接詞は原則として非動詞修飾形のみが用いられます。ただし、これについては後述しますが、一部の場合において原形を用いた言い換えをすることができ、このときに限って原形が現れます。

また、一般助接詞の場合と同様に、特殊助接詞が助詞として用いられるときは後ろに名詞を伴い、接続詞として用いられるときは後ろに節を伴います。

特殊助接詞が接続詞として用いられているときは後ろに節が置かれますが、その節の時制の意味は、kin 節や限定節と同様、主節の時間を基準に決まります。ただし、後述する原形による言い換えを行ったときは、その文が発話もしくは記述された時間基準になります。

なお、i は特殊助接詞ですが、この用法については第 2 課で説明した通りなので、ここで改めて扱うことはしません。

2 ke

特殊助接詞の ke は、常に非動詞修飾形の助詞として用いられます。このとき、ike の後ろに kin 節を伴って ike とその kin 節全体で名詞を修飾し、その名詞の内容を表します。日本語の「～という」に相当すると考えてください。

具体例を見てみましょう。

pa sokat a loc e socad **ike'n kâkes a valgot ca fosnal afik?**

▶ この村に熊が現れたという事件を知っていますか？

なお、ike の後は常に kin が置かれるので、上の例文のように kin が縮約されて ike'n という形になることがほとんどです。また、ke に接続詞の用法はないので、kin を省略することはできません。

3 ti

特殊助接詞の ti は、原則として非動詞修飾形の接続詞として用いられます。iti の後ろに節を直接伴って iti 節全体で形容詞や副詞を修飾し、その形容詞や副詞の程度を表します。

dusalat a tel e asafey **iti feracis a'l e loc.**

▶ 私はあなたの手伝いをするほど優しくない。

上の例では、iti 節が asafey を修飾し、「優しい」というのが「あなたの手伝いをする程度の優しさ」くらいであることを表しています。

iti 節は形容詞か副詞を修飾すると説明しましたが、動詞を修飾したい場合もあるでしょう。このような場合は、その動詞に ovel を修飾させ、この ovel を iti 節で修飾します。第 6 課で学んだ、副詞型不定詞由来の副詞を動詞に修飾させたい場合と同じです。

sâfat a tel e korac **ovel** **iti vomac teros a'l e met te taq atov.**

▶ 私は毎日飲んでいるくらいお酒が好きだ。

この例では、「好きだ」の度合いを iti 節で表すために、動詞の sâfat に ovel を修飾させ、さらにその ovel を iti 節で修飾しています。

4 特殊助接詞の言い換え

ti の使い方は基本的に上に述べた通りです。ただし、上で説明した通りに文を作った後で、以下のような手順で原形を用いる形に言い換えることが可能です。

- ▶ 非動詞修飾形の iti を原形の ti に変える
- ▶ ti 節全体を文末に移動させる
- ▶ ti 節の直前にタデックを置く

ただし、3つ目の手順で置くタデックは任意で、省略しても構いません。
例えば、2つ前の例文を言い換えると以下ようになります。

dusalat a tel e asafey, **ti feracis a'l e loc**.

▶ 私はあなたの手伝いをするほど優しくない。

もともとの iti 節が ovel を修飾していた場合は、この言い換えをした後に ovel を省略することができます。

sâfat a tel e korac, **ti vomac teros a'l e met te taq atov**.

▶ 私は毎日飲んでいるくらいお酒が好きだ。

この言い換えをした後では、一般助接詞を接続詞として使った場合と同じような見た目になります。ただし、一般助接詞の場合は副詞的用法をとることができましたが、特殊助接詞は副詞的用法にはできません。

なお、このような言い換えは、ti 以外の特殊助接詞でも、それが形容詞や副詞を修飾する接続詞として用いられていればいつでも可能です。ti 以外の例としては、以下に取り上げる feli や、第 23 課で扱う ni があります。

5 feli と tace

特殊助接詞の feli と tace は、ともに日本語の「～のように」に相当します。まず feli は、非動詞修飾形の助詞として用いられると、形容詞や副詞を修飾して、その意味の度合いを比喻によって表します。日本語の「まるで～のように」という表現をイメージすると分かりやすいでしょう。動詞を修飾したい場合は、ti の場合と同様に vel を介します。

gisives ca ces e zat agilit **ifeli ginet**.

▶ 彼は針のように尖ったものを刺された。

déxat a tiris vo qôd **ovel ifeli laxqov**.

▶ 赤ちゃんがあそこでまるで人形のように眠っている。

非動詞修飾形の feli は、以下のように後ろに節を伴って接続詞としても用いることができます。

pehorat e ces ovel **ifeli paqofat a's e xasol**.

▶ 彼は魂をなくしてしまっているかのように上の空だ。

接続詞として使用している場合は、ti のときと同様に以下のような言い換えが可能です。

pehorat e ces **feli paqofat a's e xasol**.

▶ 彼は魂をなくしてしまっているかのように上の空だ。

次に **tace** は、非動詞修飾形の助詞として名詞を修飾し、その名詞の代表例を提示します。英語では **such as** などに相当します。

dufidis a tel e xoq aqonef **itace fit**.

▶ 私はこれのようなつまらない本は読まないだろう。

この例では、**xoq aqonef** という名詞の塊を **itace fit** が修飾し、「つまらない本」の代表例として「これ」を提示しています。

なお、**tace** には接続詞の用法はありません。

新出単語

助 ke … ～という

名 socad … 事件

名 valgot … 熊

名 fosnal … 村

助 ti … ～するほど

動 ferac … 手伝う

名 korac … 酒

名 taq … 日

動 tov … それぞれの

助 feli … まるで～のように

助 tace … ～のような

動 gisiv … 刺す

動 gilit … 尖った

名 ginet … 針

名 tiris … 赤ちゃん

名 laxqov … 人形

動 pehor … 上の空にする

名 xasol … 魂

動 qonef … つまらない

名 fit … これ

salat a ces e axòc emic ini tel.

▶ 彼は私より賢い。

salet a kedet acik e ahiq emic ini pafisec a tel e'n lat.

▶ その建物は私が想像していたよりも高かった。

sokesat a tel e soxal asivel emic ini met afik.

▶ 私にはこの参考書よりも詳しいものが必要だ。

1 優劣表現の作り方 (対名詞)

ここでは、「AはBよりXだ」のような2つものの性質の優劣を比較する文の作り方を説明します。

例として、「彼は私より賢い」という文を作ってみましょう。まず、比較対象を取り除いた「彼は賢い」という文を作ります。

salat a ces e axòc.

▶ 彼は賢い。

次に、比較する性質を表す形容詞か副詞に、副詞型不定詞の mic を副詞にして修飾させます。この mic は日本語の「～より」に相当します。さらに、特殊助接詞の ni を非動詞修飾形の ini にして、その直後に比較対象の名詞を置き、できた ini 句全体を emic の直後に置きます。この ini は助詞として用いられることとなります。

今回の例では、以下のようになります。

salat a ces e axòc **emic** **ini tel**.

▶ 彼は私より賢い。

emic が英語の more に対応していて、ini が英語の than に対応していると考えれば、構文が分かりやすいでしょう。

2 優劣表現の作り方 (対節)

上と同じ意味の表現は、これから説明する別の方法でも作ることができます。

まず、「AはXだ」と「BはXだ」という2つの文を両方作ります。このとき、両方の文に同じ文構造が含まれるようにします。

salat a ces e axòc.

▶ 彼は賢い。

salat a tel e axòc.

▶ 私は賢い。

次に、比較される方について言及している文(Aを含む文)の形容詞もしくは副詞をemicで修飾します。続いて、比較対象に言及している文(Bを含む文)をiniの直後に置いて、できたini節をemicの直後に移動させ、文を1つにします。この場合のiniは接続詞です。

今回の例では、以下のようになります。

salat a ces e axòc emic ini salat a tel e axòc.

▶ 私が賢いのよりも彼は賢い。

「彼は私より賢い」というのは、「彼が賢い」と「私は賢い」という2つの文にあるそれぞれの「賢い」の度合いを比較して、「彼が賢い」の方がその程度が大きいことを述べていると捉えられます。上で作った表現は、この考え方のもとに成り立っています。

なお、上の文で優劣表現は完成していますが、繰り返されている箇所が多く冗長なので、第19課で学んだ回避方法を用いて、文を簡略化するのが普通です。この文の場合は、salat e axòcを代動詞のIに置き換えて以下のようになりますのが自然でしょう。

salat a ces e axòc emic ini lat a tel.

▶ 私がそうなのよりも彼は賢い。

3 名詞との比較で表せない優劣表現

最初に述べたniを助詞として使う表現の方が文構造が簡単なので、niを助詞として使う構文で表現ができるなら、そちらの方が好まれます。しかし、niを助詞として用いた構文では表現できない場合もあります。その典型的な例として「その建物は私が想像していたのよりも高かった」という文を考えてみましょう。これは、「その建物が高かった」と「私とその建物は高いと想像していた」という2つの文における「高い」の度合いを比較して、前者の方が甚だしかったと述べる文です。

この文をシャレイア語に翻訳するには、niを接続詞として使うしかありません。上で述べた作り方に則って、まず2つの文を作ります。

salet a kedet acik e ahiq.

▶ その建物は高かった。

pafisec a tel e'n salat a kedet acik e ahiq.

▶ 私はその建物が高いと想像していた。

niを使ってこれを1文にまとめ、繰り返し部分を代動詞に置き換えたのが、以下の文です。2文目のkin節の中身であるsalat以下が繰り返されるので、この箇所全体がlatに置き換えられています。

salet a kedet acik e ahiq emic ini pafisec a tel e'n lat.

▶ その建物は私が想像していたよりも高かった。

なお、特殊助接詞が接続詞として使われているので、第22課で学んだ原形による言い換えによって、以下のように述べることも可能です。

salet a kedet acik e ahiq emic, ni pafisec a tel e'n lat.

▶ その建物は私が想像していたよりも高かった。

4 niがない優劣表現

名詞と比較する場合でも節と比較する場合でも、比較対象を表すini句もしくはini節は省略することができます。その場合は、文脈から想定される対象との比較であると解釈されるか、もしくは平均よりは優れているなどの漠然とした比較であると解釈されます。

salot a zecel afik e avituf emic.

▶ この問題はより単純だ。

この文は、それまで話していた他の問題と比べて単純であることを表すか、もしくは世の中にある様々な問題の中でどちらかという単純な方であることを表します。

5 形容詞句としての優劣表現

一番最初に作った「彼は私より賢い」という文を思い出してください。ここでは最終的にaxòc emic ini telという表現が作られていますが、axòcが「賢い」を意味していて、emic ini telが「私より」という比較対象を表す表現な

ので、この部分だけで「私より賢い」という形容詞句になっています。そのため、以下のようにこれを名詞に修飾させて文中で用いることができます。

rafat fedàtis a tel e zis **axòc emic ini tel**.

▶ 私は私より賢い人と知り合いたい。

この例では、axòc emic ini tel が zis を修飾し、「私より賢い人」という表現を作っています。

他の例も見てください。

sokesat a tel e soxal **asivel emic ini met afik**.

▶ 私にはこの参考書よりも詳しいものが必要だ。

denites a filed acik e nitez **omêl emic ini ris**.

▶ そのおばあさんは誰よりもゆっくりと坂を下った。

2つ目の文で出てくる ris は、「誰でも」や「どの人も」のような意味で、関係している全ての人に当てはまることを述べるときに使う単語です。英語では anyone に相当します。

新出単語

動 xòc … 賢い

副 mic … より

動 hiq … 高い

動 pafis … 想像する

名 zecel … 問題

動 vituf … 単純な

名 soxal … 参考書

動 sivel … 詳しい

動 denit … 下る

名 filed … おばあさん

名 nitez … 坂

動 mêt … ゆっくりと

名 ris … 誰でも

di'nîpis a'c zi fêd ofev evêl ini qîfat las.

▶ できるだけすぐにここから去れ。

salot a ces e azécak ehiv ive lef i tel.

▶ 彼は私の知人の中で最も勇敢だ。

zêhises a ces e sálak acasat ehiv ica gulilsoz.

▶ 彼は最も頭痛に効果的な薬を作り上げた。

salet a lasav afik e aniscadey edès, ni revet a'l e'n lat.

▶ このアニメは思っていたほど感動的でなかった。

1 同等表現

第 23 課で学んだ優劣表現と全く同様の方法で、「A は B と同じくらい X だ」のような、2 つものの性質を比較してそれが同程度だということを述べる文を作ることができます。違いは、「より」を意味する mic の代わりに「同じくらい」を意味する vèl を使うという点だけです。

優劣表現と構文は同じなので、いくつか例文を挙げるだけに留めておきます。

salat a cakul i loc e avaf **evêl** **ini** **doldaz**.

▶ あなたの鞆はゾウと同じくらい大きい。

pa kocaqat a laxol kavat a e nelas alot **evêl** **ini** **met i nellot**?

▶ キリンの首と同じくらい長い首をもつ人間は存在しますか？

di'nîpis a'c zi fêd ofev **evêl** **ini** **qîfat las**.

▶ できるだけすぐにここから去れ。

1 つ目の文は通常の比較表現の構文の例で、2 つ目の文は **alot evêl ini met i nellot** という形容詞句として比較表現を用いた例です。

3 つ目の例文は、「すぐにここから去る」と「すぐにここから去ることが可能である」という 2 つの文の「すぐに」の度合いを比較して、それが同じくらいであることを命令しています。そのため、「できるだけすぐに」の意味になるわけです。evêl ini qîfat las もしくは evêl ini kilat las は、「できるだけ」を意味する定形表現なので、このまま覚えてしまっても良いでしょう。

2 最上表現

最後に3つ目のパターンの比較表現として、「AはBの中で最もXだ」のような、特定の範囲の中で最もある性質を顕著にもっていることを表す文の作り方を説明します。

「彼は私の知人の中で最も勇敢だ」という文を例として作ってみましょう。まず、比較の範囲を表す部分を取り除いて「彼は勇敢だ」という文を作ります。

salot a ces e azécak.

▶ 彼は勇敢だ。

次に、比較する性質を表す形容詞か副詞に、副詞型不定詞の *hiv* を副詞にして修飾させます。この *hiv* は「最も～」のような意味をもちます。続いて、特殊助接詞の *ve* を非動詞修飾形にし、その直後に比較の範囲を表す名詞を置き、*ive* 句全体を *ehiv* の直後に置きます。

今回の場合、以下のようになります。

salot a ces e azécak **ehiv** **ive lef i tel**.

▶ 彼は私の知人の中で最も勇敢だ。

3 ve がない最上表現

比較範囲を表す *ive* 句はなくても構いません。その場合は、文脈から想定される範囲での比較であると解釈されるか、もしくは他の同じ種類の全てのものとの比較であると解釈されます。

pa salat e pet a reláf ayalif **ehiv**?

▶ 最も人気のある曲は何ですか?

例えば、CD ショップでとある客が店員に対してこの文を言ったのであれば、比較範囲はその店でCDとして売っている曲になるでしょう。もし特に文脈がないならば、比較範囲はこの世界に存在するあらゆる楽曲になります。

4 形容詞句としての最上表現

優劣表現の場合と同様に、修飾詞と *ehiv* と *ive* 句のまとまり全体で「最もXであるような」という形容詞句になっているので、これを他の名詞に修飾させることができます。例えば、上で作った文に *azécak ehiv ive lef i tel* という

表現が出てきますが、この部分だけで「私の知人の中で最も勇敢な」という意味の形容詞句として使うことができます。

pîtet a haqpet e zis **azécak ehiv ive lef i tel.**

▶ 私の知人の中で最も勇敢な人がお化けを怖がっていた。

以下は ehiv のみが修飾語として利用されている例です。

zêhises a ces e sálak **acasat ehiv ica guliilsoz.**

▶ 彼は最も頭痛に効果的な薬を作り上げた。

この例では、「頭痛に効果的だ」という性質が最も顕著である薬を作ったことを述べています。したがって、「頭痛に効果的だ」という意味の **acasat ica guliilsoz** 全体を ehiv が修飾することになるので、本来ならば **acasat ica guliilsoz ehiv** という語順になるはずですが、ここでは ehiv が **guliilsoz** を修飾しているように見えてしまうため、ehiv が **acasat** の直後に置かれています。少し例外的ですが、助詞句のような複数単語から成る語句によって修飾を受けている部分全体を別の 1 単語で修飾したい場合に、このような語句の入れ替えが起こることがあります。

5 dês と doqhiv

第 23 課では、mic という単語を使うことで、「A は B より X だ」のように、A と B のそれぞれの X の度合いを比較して A の方が顕著であることを表せると学びました。逆に、mic の対義語に当たる dês を代わりに用いることで、「A は B ほど X でない」のように、A の X の度合いの方が小さいことも表せます。この dês は英語の less に当たる単語です。

dês の使い方は mic と全く同じです。

salet a lasav afik e aniscadey **edès**, ni revet a'l e'n lat.

▶ このアニメは思っていたほど感動的でなかった。

この文は、アニメの実際の感動的の程度と事前に思っていた感動的の程度を比較して、dês が修飾している方、すなわち実際の感動的さの程度の方が低いことを表しています。

同様に、hiv の対義語として doqhiv という単語もあります。hiv を用いると、「A は最も X だ」のように、A が X の度合いに関して最も顕著であることを表せますが、代わりに doqhiv を用いることで、A が最も顕著でないことを表せます。英語の least に相当する単語です。

salat a saq e taq anistecaf **edoqhiv** itazi tel.

▶ 今日には私にとって最も幸運でない日だ。

この文は、幸運さの程度について今日が最も低いことを表すので、「最も幸運でない」もしくは「最も不運だ」という意味になります。

なお、ここに出てくる **itazi** は特殊助接詞である **tazi** の非動詞修飾形です。**tazi** は、非動詞修飾形の助詞として用いられ、形容詞や副詞を修飾し、判断の視点を表します。日本語の「～にとって」に相当する単語です。

新出単語

副 **vêl** … 同じくらい
 名 **cakul** … 鞆
 名 **doldaz** … ズウ
 動 **kocaq** … 存在する
 名 **nelas** … 首
 動 **lot** … 長い
 名 **nellot** … キリン
 動 **zécak** … 勇敢な
 副 **hiv** … 最も
 名 **reláf** … 曲
 動 **yalif** … 人気のある
 動 **pît** … 怖がらせる

名 **haqpet** … お化け
 動 **zêhis** … 作り上げる
 名 **sálak** … 葉
 動 **casat** … 効果的な
 名 **gullisoz** … 頭痛
 副 **dès** … より～でない
 名 **lasav** … アニメ
 動 **niscadey** … 感動的な
 動 **rev** … 思う
 副 **doqhiv** … 最も～ない
 動 **nistecaf** … 幸運な
 助 **tazi** … ～にとって

演習問題 5

- 次の文中の限定節に含まれている下線部を消去しつつ、助接詞の非動詞修飾形を用いることで、意味を変えずに文を書き換えなさい。
 - (1) pa salat e pas a fakil câses e a loc te tazît?
 - (2) fegeş a tel e likok qîloş a tel so teros a'l e cêr.
- 次の文中の下線部の kin 節を、動詞型不定詞の名詞形と助接詞の非動詞修飾形を用いた形に変え、意味を変えずに文を書き換えなさい。
 - (1) sâfat a tel e kin licos a'l e lasav.
 - (2) bâges e tel a kin belsetes a qaşot.
- 次の文を特殊助接詞を用いてシャレイア語に訳しなさい。
 - (1) 兄が結婚したという話を私は知っている。
 - (2) このワインは私が泣いてしまっているほどおいしい。
 - (3) 私はレモンのように酸っぱいお菓子を食べた。
 - (4) 私は彼のような頼もしい人と一緒に旅行したい。
- 次の文を比較表現を用いてシャレイア語に訳しなさい。
 - (1) 私の弟は私より優しい。
 - (2) 私はイチゴと同じくらい甘いお酒を飲んだ。
 - (3) 彼女は私の友達の中で最もおとなしい。
- 次の2つの文の下線部を比較して、1つ目の文の方が程度が甚だしいことを述べる文を作りなさい。
 - (1) ricames a tel ovit. / kilet ricamos a ces ovit.
 - (2) salat a ces e azisqom. / salet a ces e azisqom te zîk.

6. 次の文を日本語に訳しなさい。

- (1) vîtrices ovop a tel vo naflat e fakel ivo vosras afêc ica sod i'l.
- (2) hikutec zi zál a hîxlon avotiq ica xif alikxel.
- (3) duliqetes a ces e tel. pa pâmat a ces e kozis ike'n lis?
- (4) xâyat e zál ovel edès, ni let te keqilec a zál vo amerikas.
- (5) vade qiketes a tel ozacàt emic ini ris aqôc, debat e'l te saq ovel iti zedat lesis a'l e dol.

7. 次の文をシャレイア語に訳しなさい。

- (1) この駅の周辺にはたくさんの神社がある。
- (2) 私が彼を呼んでいるのに気づいていないかのように、彼は黙っている。
- (3) 私はできるだけ速くこの図書室を掃除しなければならない。
- (4) あなたが所持しているワインの中で最も高価なワインはどれですか?
- (5) 私の姉が亡くなったと彼に言ったとき、まるで亡くなったのが彼の姉であるかのように彼は悲しんだ。

新出単語

名	likok	…	コップ
動	belset	…	いたずらする
動	zisqom	…	消極的な
名	zîk	…	昔
動	hikut	…	覆う
動	votiq	…	いっぱい

動	likxel	…	輝く
名	kozis	…	約束
動	xây	…	幸せにする
動	qiket	…	働く
動	zacàt	…	熱心に
動	qôc	…	他の

第 3 部



第1部と第2部で、シャレイア語のほとんどの文法は学び終わりました。第3部では、さらに表現力を高めるための発展的な構文を学びます。全ておさえてしまえば、シャレイア語で表現できないことはもうないでしょう。

salat a likok adak e adutulaf.

▶ 空でないコップはない。

meberot e tel oduvák.

▶ 私はいつも眠いというわけではない。

dulesec e kin rahitas a tel e rakal fe ces.

▶ 私は彼と一緒にゲームで遊んでいたわけではない。

1 二重否定

第8課では、単語に du を付けると否定の意味になることや、それ自身で否定の意味になる否定相当語という単語があることを学びました。これらの否定の意味をもつ表現を同じ文の中で2つ使うと、常に強い肯定を意味するようになります。

まず、否定相当語の dak と形容詞の否定形が同時に使われた例を見てみましょう。

salat a likok **adak** e **adutulaf**.

▶ 空でないコップはない。

この文は、直訳すると「0個のコップが空ではない」となるので、全てのコップが空であることを意味しています。したがって、意味的には salat a likok aves e atulaf と言うのと同じですが、上の例文の方が「全て空なのだ」ということが強調されます。

次に、2種類の否定相当語が同時に使われている例を見てみます。

soxot **odum** a tel e **dol**.

▶ 私は何も考えていないということは全くない。

この文では、soxot a tel e dol すなわち「私は何も考えていない」ということの頻度が0%であることを意味しています。したがって、「常に何か考えている」ということを強調して述べていることになります。

最後に、次の文は1つの文の中で否定形を2つ使っている例です。

dukilat zehavos e dud afik a zis **aduzêr**.

▶ 強くない人はこの悲しみを乗り越えられない。

この文は、「強い人だけがこの悲しみを残り越えられる」という内容の強調に なっています。

2 全部否定と部分否定

否定を表す du は、それが付けられた単語の意味だけを否定します。

dumeberot e tel ovák.

▶ 私はいつも眠くない。

この文では、「眠い」という意味の meberot に du が付けられ、「眠くない」という意味の dumeberot という表現ができています。これを ovák が修飾している ので、文全体は「眠くない」という状態が常に保たれていることを表し、「いつも眠くない」もしくは「いつも目が冴えている」のような意味にな ります。

ここで注意すべきなのは、meberot に付いている du は、meberot のみを否定 しているのであって、meberot e tel ovák という文全体を否定しているわけでは ないという点です。もし du が文全体を否定するなら、「常に眠い」という 内容が否定されるわけなので、「常に眠いわけではない」もしくは「ときどき 眠くないことがある」のような意味になるでしょう。

「常に眠いわけではない」のような表現は「部分否定」と呼ばれます。これを シャレイア語で表現するには、「常に」のような全体であることを表す単語を 否定形にします。今回の場合は vák を否定します。

meberot e tel **oduvák**.

▶ 私はいつも眠いというわけではない。

これが部分否定の意味になる理屈は以下の通りです。ovák は日本語の「常 に」に相当し、もう少し細かく言えば「時間軸上の全ての点において」のよ うな意味をもちます。これを否定するには、時間軸上に例外となるような点 があれば良いでしょう。したがって、oduvák は「例外となるような時間が存在 して他の時間ではずっと」という意味合いになります。これを meberot に修飾させれば、「例外的な時間以外は眠い」もしくは「眠くない例外的な時 間が存在する」という意味になるので、まさに「いつも眠いというわけでは ない」が表現できるわけです。

この方法で作れる部分否定の表現を以下にまとめます。

表現	意味
oduvák	いつも～するわけではない
odukôk	必ずしも～するわけではない
oduvop	再びは～することはない
aduves	全て～するわけではない

実際にこれらが使われている例文をいくつか挙げておきます。

zedat lanis a tel e vosras aquk **oduvop**.

▶ 私は二度とあのカフェに行かないだろう。

kavat a qilox **aduves** e lakad alik ica cit.

▶ 全ての言語にそれ固有の文字があるわけではない。

部分否定の文を作るときに上で述べたような理屈を考えても良いですが、この表をそのまま覚えてしまう方が実用的かもしれません。

3 les による部分否定

「私はいつも眠いというわけではない」という文は、「私はいつも眠い」という文全体の否定とも考えられます。シャレイア語には文全体を否定する表現があるので、それを用いても部分否定を表現することができます。

そのためには、まず否定したい文を作ります。

meberot e tel ovák.

▶ 私はいつも眠い。

作った文を *dulesos e kin* の後に続けることで、文全体を否定できます。このとき、*les* の否定形である *dulesos* の部分の時制と相を、*kin* に続く文のもとの時制と相に変え、*kin* に続く文の方は現在時制無相にします。自他についてはそのままにします。

今回の例では、*meber* がもともとの文で通時時制継続相の形で使われているので、代わりに *les* を通時時制継続相にし、*meber* は現在時制無相に変えます。

dulesot e kin meberas e tel ovák.

▶ 私はいつも眠いわけではない。

この構文は複雑な否定を表現したいときによく使われます。この構文を用いた文と単に動詞を否定形にただけの文を比べてみましょう。

dulsec e kin rahitas a tel e rakal fe ces.

▶ 私は彼と一緒にゲームで遊んでいたわけではない。

durahitec a tel e rakal fe ces.

▶ 私は彼と一緒にゲームで遊んでいなかった。

1つ目の例文では、「私は彼と一緒にゲームで遊んでいた」という内容全体が否定されるので、ゲームと一緒にした人が彼ではないのか、そもそも1人でゲームをしていたのか、もしくは彼と一緒に遊んでいたものがゲーム以外なのか、様々な可能性があります。一方で2つ目の例文では、否定形の動詞が表す「遊んでいなかった」という内容に「私は彼と一緒にゲームで」が係るので、彼と一緒にゲームで遊ぶ以外のことをしていたと述べることになります。

新出単語

動 tulaf … 空の

動 ves … 全ての

動 sox … 考える

動 zehav … 乗り越える

名 dud … 悲しみ

動 zèr … 強い

動 meber … 眠くする

名 vosras … カフェ

名 qilox … 言語

名 lakad … 文字

動 lik … 固有の

動 rahit … 遊ぶ

名 rakal … ゲーム

pa rafat lanis a loc ca pet ive hinad o riy?

▶あなたは山と海ではどちらに行きたいですか?

paces a tel ca qâz e kin zifimis a fax te pet.

▶私は母がいつ帰ってくるのか父に尋ねた。

medeles e qiliv afik a duloc, pa dules?

▶このテレビを壊したのはあなたではないのですよね?

1 ve による選択疑問文

第12課では、連結詞の á を用いて選択疑問文を作る方法を学びました。実は選択疑問文を作る方法はもう1つあり、ここではその方法を説明します。ただし、á は動詞や形容詞なども接続できましたが、ここで説明する方法では選択肢に名詞しか使うことができません。

例として、「あなたは山と海ではどちらに行きたいですか」という文を作ってみます。まず、選択肢を除いた文を作ります。この例の場合は、「あなたはどちらに行きたいですか」という文を作ることになります。シャレイア語には、英語の which のような「どちら」や「どれ」に当たる選択を表す疑問詞はないので、代わりに「何」を意味する pet などを使います。

pa rafat lanis a loc ca pet?

▶あなたはどちらに行きたいですか?

次に、特殊助接詞の ve を非動詞修飾形にし、直後に選択肢を o で繋いで置き、できた ive 句全体を先程作った文の疑問詞の直後に置きます。この ve は、第24課で最上表現を作ったときに使ったものと同じ単語です。

pa rafat lanis a loc ca pet **ive hinad o riy**?

▶あなたは山と海ではどちらに行きたいですか?

注意すべき点としては、ive 句の中で選択肢を繋げる連結詞は o だということです。第12課で学んだ選択疑問文の作り方と混同して、á にしないようにしてください。

ve を用いた選択疑問文への答え方は、疑問詞疑問文への答え方に準じます。すなわち、1つの助詞句によって答えます。

pa cákes a loc ca fêd **qi pet ive voláq o loqiv?**

▶ あなたはバスと電車のどちらでここまで来ましたか?

qi voláq.

▶ バスです。

2 間接疑問節

第14課では、kin の後に文を置くことで、その文を名詞化できることを学びました。実は kin の後に置く文は疑問文でも構いません。ただし、このとき動詞の前の pa は取り除きます。

例として「私は母がいつ帰ってくるのか父に尋ねた」という文を作ってみましょう。この文は、「母はいつ帰ってくるのか」という疑問文が名詞化されて、「尋ねた」という動詞の目的語になっています。疑問文の部分は、以下のようにシャレイア語に訳せます。

pa zifimis a fax te pet?

▶ 母はいつ帰ってくるのですか?

pa を除いて kin の後に続ければ疑問文を名詞化できるのですから、以下のようになれば作りたい文が完成します。なお、最終的にできる文そのものが疑問文になっているわけではないので、文末にはパデックではなくデックを置きます。

paces a tel ca qâz e **kin zifimis a fax te pet.**

▶ 私は母がいつ帰ってくるのか父に尋ねた。

疑問文が中に置かれている kin 節は「間接疑問節」とも呼ばれます。

どのような種類の疑問文でも間接疑問節にすることができます。ただし、諾否疑問文を間接疑問文にするには少し言い換えが必要で、これについては次で説明します。

salat e apárel a **kin fovaes qi pil a ces zi sokul akulak.**

▶ 彼がどうやって鍵のかかった部屋から出たのかは謎だ。

dukilet decatas a tel e **'n sôdis a'l e telis á matef.**

▶ 私はご飯を食べるかパンを食べるか決められなかった。

3 諾否疑問文による間接疑問節

諾否疑問文には *pa* 以外にそれが疑問文であることを表す単語がないので、間接疑問節にするときに *pa* を取り除いてしまうと、普通の *kin* 節なのか間接疑問節なのか分からなくなってしまいます。そこで、諾否疑問文を間接疑問節にするときは、最初に少し言い換えをします。

例えば、「彼は怒っていますか」という疑問文は、彼が怒っているのか怒っていないのかどちらなのかを尋ねています。したがって、「怒っている」と「怒っていない」の2択の選択疑問文とも捉えることができます。この選択疑問文は、*bâgat á dubâgat* のように表現することができます。ただし、これでは同じ動詞が続けて現れてしまうので、後ろの方を代動詞の1に置き換えるのが普通です。

pa **bâgat á dulat** e ces?

▶ 彼は怒っているのかそうでないのかどちらですか?

諾否疑問文を間接疑問節にするときは、このような選択疑問文に書き換えた後に *kin* 節にします。

duqifet lidesas a tel e **kin bâgat á dulat e ces**.

▶ 私は彼が怒っているのかそうでないのか判断できなかった。

結局は、*pa* を取り除いた後に、動詞の後に *á dulos* を適切に活用させて付け足すだけなので、それほど複雑というわけでもありません。

4 付加疑問

通常の文の後に *pa dulos* と続けることで、「～ですよ」のような相手に確認や念押しをする表現を作ることができます。*dulos* は代動詞1の否定形ですが、これの時制と相および自他は前の文の動詞と一致させます。

medeles e qiliv afik a duloc. **pa dules**?

▶ このテレビを壊したのはあなたではないのですよね?

pa dulos の部分は単独で「そうではないのですか」のような意味になります。通常の文を述べた後に、「今言ったことは正しくないのですか」と問うことで、反語的に「正しいですよ」と確認しているわけです。

pa dulos の代わりに *pa e ayát* と続けることでも、同じような確認を表す疑問文にすることができます。

qetet a loc vo dekél aquk olov. **pa e ayát**?

▶ あなたはあのホテルにずっといたのですね?

yát は形容詞として「本当の」という意味なので、pa e ayát の部分は「今言ったことは本当ですか」という意味になっており、相手への確認のニュアンスが出るわけです。

新出単語

[名] voláq … バス
 [動] zifim … 帰る
 [動] pac … 尋ねる
 [動] párel … 謎の
 [動] kulak … 鍵のかかった
 [動] decat … 決める
 [名] telis … ご飯

[名] matef … パン
 [動] bâg … 怒らせる
 [動] lides … 判断する
 [動] medel … 壊す
 [名] qiliv … テレビ
 [名] dekél … ホテル
 [動] lov … ずっと

1 数の表記

シャレイア語では数は10進法で表記します。したがって、私たちが普段0から9までの数字を用いて数を表記しているのと同じように表記します。ただし、細かい点が多少異なるので、その違いについて述べておきます。

まず、日本やアメリカでは3桁ごとにコンマで区切って数を読みやすくすることがありますが、シャレイア語で桁を区切る場合は3桁ごとではなく4桁ごとに区切ります。区切り位置には、15342 や 4648 3860 7037 のように小さめのスペースを入れ、他の記号を挿入することはしません。小数点以下も同様に4桁ずつスペースで区切る場合があります。

整数部分と小数部分の間には点を打ちますが、この点はデックやタデックとは違って文字の高さの中央の位置に書きます。この小数点の転写には、似たような記号である中黒(U+00B7)を用います。例えば、3・14 や 23・1407 のようになります。

最後に、整数部分が0であるような小数は、整数部分の0を書きません。したがって、0.5 は・5 と書くことになります。

2 整数の読み

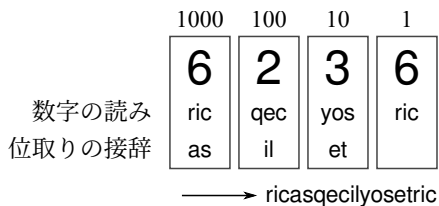
0 から 9 までの数字は以下の表の通りに読みます。整数部分を読むときと小数部分を読むときで読みが異なるので注意してください。

数字	読み		数字	読み	
	整数	小数		整数	小数
0	nof	mul	5	xal	jes
1	tis	daf	6	ric	lam
2	qec	cid	7	sez	ziq
3	yos	hut	8	kaq	get
4	piv	bac	9	von	fus

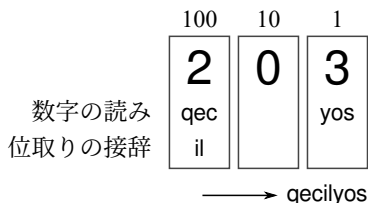
まずは4桁以下の整数の読み方を説明します。4桁以下の整数を読むときは、各位の数字の整数部分としての読みの後に以下に示す位取りを表す接尾辞を付け、それらを位の大きい方から順に並べます。

位	接辞
10	et
100	il
1000	as

例えば 6236 は、以下の図に示すように ricasqecilyosetric と読みます。



位が 0 の場合は何も読まずに飛ばすので、203 は qecilyos と読みます。



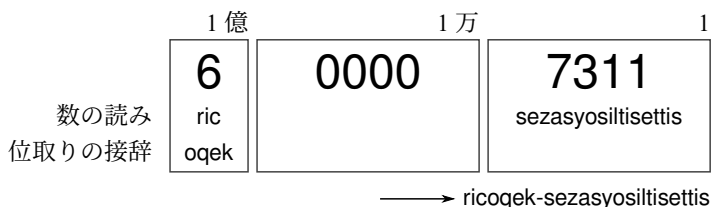
5 桁以上の整数を読む場合は、まず下から 4 桁ずつに区切り、それぞれを今説明した方法で読みます。そして、それぞれの 4 桁分の読みの後に以下に示す位取りの接尾辞を付け、位の大きい方から順に並べます。なお、読みを綴って記すときは、4 桁分の読みと位取りの接尾辞の後にフェークを置きます。

位	接辞	位	接辞
1 万	otik	1 京	opik
1 億	oqek	1 垓	oxak
1 兆	oyok	1 穄	orik

例えば 1649726236 は、以下の図に示すように読みます。



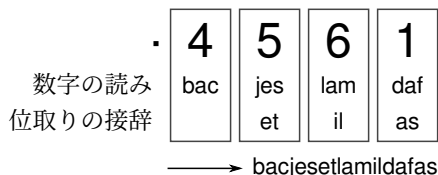
4桁ずつ区切ったときにその4桁が全て0になる箇所は、何も読まずに飛ばします。そのため、600007311の読みは以下のようになります。



3 小数の読み

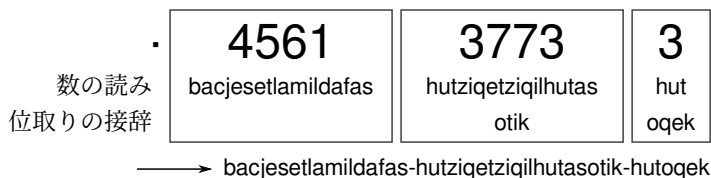
初めに整数部分が0であるような小数の読み方を説明します。小数部分が4桁以下の場合、各位の小数部分としての読みの後に位取りを示す接尾辞を付け、順に並べます。このときの接尾辞ですが、整数を読むときは位が左に行くにつれて et, il, as と変わりましたが、小数を読むときは逆に位が右に行くにつれて et, il, as とします。なお、小数点自身は読みません。

例えば・4561は、以下の図に示すように bacjesetlamildafas と読みます。各数字の読みが整数部分の場合と異なることに注意してください。



小数部分が5桁以上の場合、小数点に近い方から4桁ずつ区切り、まずこの4桁分を読みます。そして、それぞれの4桁分の読みに位取りの接尾辞を付け、順に並べます。このときの接尾辞も整数部分のときとは逆順で、右に行くにつれて otik, oqek, oyok と変わります。

・456137733の読みは以下のようになります。



整数部分も小数部分ももつような数を読む場合は、整数部分をまず読んで、その後に小数部分を読みます。読みを綴る際は、整数部分の読みと小数部分

の読みの間にフェークを入れます。小数点は読みません。例えば、203.4561 は qecilyos-bacjesetlamildafas と読むこととなります。

4 動詞型不定詞と名詞型不定詞の数詞

上に述べた数の読み方は、動詞型不定詞としての数詞の語幹の読み方です。動詞型不定詞の数詞は常に形容詞として用いられるので、文中では形容詞を表す接頭辞の a がさらに付け加えられます。

数詞は、読みを綴っても数字を用いても表記することができます。ここで注意すべき点として、読みを綴りで記す場合は形容詞を表す接頭辞の a を書きますが、数字で表記する場合は a を書きません。例えば、3 の語幹の読みは yos なので、文中では ayos の形で用いられこの通りに読まれますが、数字を用いるときは単に 3 とだけ書いて ayos と読みます。

一方、数詞には名詞型不定詞のものもあります。名詞型不定詞の数詞は、動詞型不定詞としての数詞の語幹の読みにおける最後の母音を、a→e→i→a および o→u→o の規則で変化させて読みます。例えば、16 の動詞型不定詞としての読みは tisetric なので、名詞型不定詞としての読みは tisetrac になります。

名詞型不定詞の数詞も数字で記すことができます。その場合、例えば 16 と記して tisetrac と読むこととなります。

新出単語

動] nof … 0	動] xal … 5
動] mul … 0.0	動] jes … 0.5
動] tis … 1	動] ric … 6
動] daf … 0.1	動] lam … 0.6
動] qec … 2	動] sez … 7
動] cid … 0.2	動] ziq … 0.7
動] yos … 3	動] kaq … 8
動] hut … 0.3	動] get … 0.8
動] piv … 4	動] von … 9
動] bac … 0.4	動] fus … 0.9

rescales a tel e seklac iloke dales al'atisiltis.

▶ 私は 101 匹の犬に関する映画を鑑賞した。

vomes qidokos a tel e qikov afik la tal al'ayos.

▶ 私はこのパソコンを 3 回修理した。

salot a hidsol afik e alot ile lôt 4400.

▶ この橋は 4400 m の長さだ。

savat déxis a loc dite tat ile tef 23 meris 30.

▶ あなたは 23 時 30 分までには寝た方がよい。

salot a yus e atûl emic ini xel.

▶ 3 は 5 より小さい。

1 基数と序数

動詞型不定詞の数詞の形容詞形の前に al' を付けると、全体で「～個の」や「～人の」のような基数を表す形容詞句ができます。例えば、al'aric で「6 個の」のような意味になります。なお、日本語では修飾する名詞によって「匹」や「冊」など数えるときに使う単語を変えますが、シャレイア語では常に al' を用います。

rescales a tel e seklac iloke dales al'atisiltis.

▶ 私は 101 匹の犬に関する映画を鑑賞した。

al' の代わりに ac' を付けると、「～個目の」や「～番目の」のような序数を表します。

salat a saq e taqxáf ac'45 ica tel.

▶ 今日は私の 45 回目の誕生日です。

al' や ac' は、それぞれ avôi ile lêk と acál ile cav の縮約形です。ただし、この縮約される前の形が用いられることは、第 29 課で学ぶ「以上」や「以下」の表現のときを除いて、非常に稀です。ここに出てくる le については後で扱います。

2 回数表現

物事を行った回数を表現するには、「回」を意味する **tal** に基数を付け、全体を **la** 句にします。例えば、「3回」は **la tal al'ayos** となります。

la は一般助接詞なので、回数を表す **la** 句は **a** 句などのようにそのまま動詞に係ります。また、回数の表現は必然的に反復を表すので、常に **vom** を用いた反復表現とともに用いられます。反復表現に関しては、第16課で学んだ通りです。

vomes qidokos a tel e qikov afik la tal al'ayos.

▶ 私はこのパソコンを3回修理した。

tal に基数ではなく序数を付けると、その行為が何回目かを表現することができます。例えば、**la tal ac'ayos** で「3回目に～する」もしくは「～するのは3回目だ」のような表現になります。この場合は反復を表しているわけではないので、反復表現にはしません。

lekutes a tel ca tècaq vo kolettèc afik la tal ac'ayos.

▶ この港から船に乗るのは3回目だった。

序数の代わりに「最初の」を意味する **cates** の形容詞形を置くことで、「～するのは最初の回だ」すなわち「初めて～する」を表現できます。

lices a tel te tazît e rihic la tal acates.

▶ 私は昨日初めて虹を見た。

3 le

特殊助接詞の **le** を用いることで、「長い」や「古い」などの形容詞の度合いを「4400 m」や「17年」のような数値によって具体的に説明することができます。そのためには、単位を表す名詞の直後に動詞型不定詞の数詞の形容詞形を置き、その前に **le** の非動詞修飾形である **ile** を付け、できた **ile** 句全体を形容詞の後に置きます。すなわち、最終的に「形容詞 + **ile** + 単位 + 数詞」という形になります。

salot a hidsol afik e alot ile lôt 4400.

▶ この橋は4400 mの長さだ。

注意すべき点は、**ile** 句の中には単位と数詞が置かれるわけですが、このときの数詞としては動詞型不定詞の形容詞形をそのまま用いるということです。

al' や ac' は必要ありません。これは数詞が単位に係る場合のみで、その他の場合には、基数として用いているか序数として用いているかに応じて、必ず al' か ac' を付ける必要があります。

人の年齢や身長も le を用いて表すことができます。例えば、「17 歳」は「17 年分歳をとった」と考えて alosod ile latvác atisetsez とします。「153 cm の身長」については「153 cm 分長い」と考えて alot ile mulôt 153 となります。英語の tall に相当する単語はシャレイア語にもありますが、人の身長に関しては「長い」の意味の lot を使うことに注意してください。

salot a ces e **alosod ile latvác atisetsez** olôx.

▶ 彼女は永遠に 17 歳 だ。

salat a tel e **alot ile mulôt 153** te sot.

▶ 私の今の身長は 153 cm だ。

その他、le は倍数や順位も表すことができますが、それについては第 29 課で学びます。

基数を表す al' は avôi ile lêk の縮約形だと説明しましたが、ここに出てくる le も今説明した le です。lêk は日本語の「個」などに対応する単語で、個数や人数などを数えるときに用いる単位です。avôi は「多い」という意味の形容詞なので、avôi ile lêk は「～個分の多さの」という意味になり、これで基数を表すことができるわけです。また、序数を表す ac' は acál ile cav の縮約形ですが、こちらは直訳で「～番だけ(最初から数えて)次の」という意味になるので、序数を表すことができるわけです。

4 日付と時刻の表現

日付の表現には序数を用います。例えば「7月15日」という日付を表すには、「7番目の月の15番目の日」と考えて taq ac'15 i ben ac'7 とします。日本語と違い、日→月→年の順番になることに注意してください。日と月の間や月と年の間には i を入れるのが正式ですが、この i に限っては省略されることがしばしばあります。

pariqes a ces te **taq ac'15 ben ac'7 vac ac'2018**.

▶ 彼は 2018 年 7 月 15 日 にいなくなった。

シャレイア語には、「日」や「年」を表す単語が 2 種類ずつあります。例えば、「年」に相当する単語には vac と latvác があります。日付を表現する際は

vác を使い、ile 句の中で単位として「1年」を表したい場合は latvác を用いるので、混同しないよう注意してください。

時刻を表現するには、tat ile の後に単位+数詞の塊を続けます。例えば、「23時」は tat ile tef 23 となります。「23時30分」のように分まで言いたい場合は、単位+数詞の形を2つ繋げて tat ile tef 23 meris 30 とします。このとき、時→分→秒の順で並べます。

savat déxis a loc dite **tat ile tef 23 meris 30**.

▶ あなたは 23時30分 までには寝た方が良いでしょう。

日付の表現には序数を用いましたが、時刻の表現では序数を使わず数詞をそのまま使います。時刻の表現では ac' を付けないように注意してください。

5 名詞型不定詞の数詞の用法

名詞型不定詞の数詞は、名詞として用いられてその数そのものを表します。

salot a **yus** e atûl emic ini **xel**.

▶ 3 は 5 より小さい。

新出単語

縮] al' ... avôl ile lêk
 動] rescal ... 鑑賞する
 名] seklac ... 映画
 助] loke ... ~に関して
 縮] ac' ... acál ila cav
 名] taqxáf ... 誕生日
 助] le ... ~の
 名] lêk ... 個
 名] cav ... 番
 名] tal ... 1回
 助] la ... ~で
 動] qidok ... 修理する
 名] tècaq ... 船
 名] kolettèc ... 港

名] rihic ... 虹
 動] cates ... 最初の
 名] hidsol ... 橋
 名] lôl ... 1m
 動] losod ... 年をとった
 名] latvác ... 1年
 名] mulôt ... 1cm
 動] lôx ... 永遠に
 動] pariq ... 消える
 名] tat
 名] tef ... 1時間
 名] meris ... 1分
 動] sav ... した方が良くする
 動] tûl ... 小さい

演習問題 6

- 次の部分否定を含む文を les を使わずに シャレイア語に訳しなさい。
 - 彼女はいつも眼鏡をかけているわけではない。
 - 私は二度とこの映画を見ない。
 - 全ての人がリンゴを好きなわけではない。
- 次の文を間接疑問節を用いて シャレイア語に訳しなさい。
 - 私はなぜ彼が怒っているのか知らない。
 - 彼は明日山に行くかどうか決めた。
- 次の数で表記される動詞型不定詞の数詞の語幹の読みを答えなさい。
 - 57
 - 1080000
 - ・142857
 - 3814279・1047602
- 次の文を基数や序数を用いて シャレイア語に訳しなさい。
 - 私は2匹の猫を飼っている。
 - 彼は今日5回流れ星を見た。
 - 私は昨日40回目に飛行機に乗った。
- 次の文の下線部の形容詞に ile 句を修飾させ、その形容詞の程度が指定された数値であることを説明する文を作りなさい。
 - salat a loces afik e alot. ← 120 cm
 - hitazes a ces e gildat adôz. ← 150 kg

6. 次の文を日本語に訳しなさい。

- (1) vomac licos odûg a ces e qiliv cife dusôdos a's e retat.
- (2) duleses e kin folanes a tel fe fayhil al'aqec, lo fevetes a tel e dus.
- (3) pa qokuzac a loc e yét vade pil ive kin rafat lac a loc o kin deqiges ca loc e'n lic?
- (4) vade fôcis e sâvak acâl te tat ile tef 15 meris 10, ditat zifimis a'c ca fêd dite tat ile taf 15.
- (5) selbutec ogicaz a zissâc e zissohiz meloses a la tal al'ayos e'n lanis a's ca kossax. bava, salot odukôk a selbut e acasat ica'n dibuloz a ces li zissohiz.

7. 次の文をシャレイア語に訳しなさい。

- (1) 彼は高価でない服を買おうとしない。
- (2) どうすれば息子に熱心に勉強させられるのか分からない。
- (3) 私には2月29日生まれの友達が2人いる。
- (4) この公園では、明日で108歳になるおばあさんが毎日散歩している。
- (5) 私がその大学に行くのは5回目になるが、どこにどの建物があるのか忘れてしまっている。

新出単語

名	loces … 棒
動	hitaz … 持ち上げる
名	gildat … 岩
動	dôz … 重い
名	dok … 1kg
名	fayhil … 孫娘

動	fevet … 連れて行く
動	qokuz … 隠す
動	fôc … 始める
名	sâvak … 授業
動	gicaz … 激しく
助	bava … ～だけれども

salat a desek afik e ahap emic ile yen 180 ini met aquk.

▶ この靴はあの靴より 180 円安い。

salat a ces e adôz emic ile vâl 1.4 ini tel.

▶ 彼の体重は私の 1.4 倍だ。

kilat vilisos a ces ovit ehiv ile cav ayos ive zâl.

▶ 彼は私たちの中で 3 番目に速く走ることができる。

keqilac a zâl e sod aqôl ilevo latvác 150.

▶ 私たちは築 150 年以上の家に住んでいる。

1 差異の数値による明示

第 23 課では優劣表現の作り方を学びました。しかし、2 つのものを比較してどちらがより甚だしいかを単に述べるだけではなく、その差が具体的にどのくらいなのかを述べたい場合もあるでしょう。そのような場合は、第 28 課でも出てきた *le* を用います。

le の使い方は第 28 課で説明した通りで、「*ile* + 単位 + 数詞」という形をとります。例として、以下の優劣表現を考えてみましょう。

salat a desek afik e ahap emic ini met aquk.

▶ この靴はあの靴より安い。

ile 句を *emic* に修飾させることで差異を数値で表現することができます。多くの場合で *emic* にはすでに比較対象を表す *ini* 句が修飾していますが、この場合は *ile* 句は *emic* の直後で *ini* 句の直前に入れるのが普通です。

salat a desek afik e ahap **emic ile yen 180** ini met aquk.

▶ この靴はあの靴より 180 円安い。

2 倍数

上で説明した *ile* 句による差異の表現において、単位を表す名詞の代わりに「倍」を意味する *vâl* を置くことで、差異を倍数で表すことができます。

salat a ces e adôz **emic ile vâl 1·4** ini tel.

▶ 彼の体重は私の 1.4 倍だ。

上の文の倍数を 1.4 の代わりに例えば 0.8 にすると、意味はそのまま「彼の体重は私の 0.8 倍」になります。倍数が 1 未満なので、実際に重い方は「彼」ではなく「私」になりますが、優劣構文の上では「彼」の方に程度が甚だしいことを表す mic が付きます。

倍数が 1 未満になっている別の例も挙げておきましょう。

salot a japan e avâc **emic ile vâl ·04** ini tanas.

▶ 日本は中国の 0.04 倍の広さだ。

3 順位

第 24 課で学んだ最上表現では、何かが特定の範囲の中で最も優れていることしか表せませんでした。しかし、le を用いることで 2 番目や 3 番目なども表現することができます。具体的には、「番目」などを意味する cav を用いて「ile cav + 数詞」という形を作り、これを ehiv に修飾させます。

以下の文を考えてみましょう。

kilat vilisos a ces ovit ehiv ive zâl.

▶ 彼は私たちの中で最も速く走ることができる。

例えば、最も速いのではなく 3 番目に速いことを表したいとすれば、ile cav ayos を ehiv に修飾させます。なお、ehiv には比較範囲を表す ive 句が修飾していることが多いですが、その場合は ile 句は ive 句の直前に入れるのが普通です。

kilat vilisos a ces ovit **ehiv ile cav ayos** ive zâl.

▶ 彼は私たちの中で 3 番目に速く走ることができる。

hiv ではなく doqhiv が用いられている場合に ile 句で順位を明示すると、「最も優れていない順に～番目」すなわち「下から～番目」を表すことができます。

citkulat a ces ca takâd avalât **edoqhiv ile cav aqec**.

▶ 彼は 下から 2 番目に有名なチームに所属している。

4 「以上」と「以下」

第28課において、le を用いて形容詞の程度を数値で説明する構文について学びました。例として、以下の文を考えてみましょう。

keqilac a zál e sod aqôl ile latvác 150.

▶ 私たちは築150年の家に住んでいる。

ここでは、家の古さが150年であることを述べていますが、文中で用いられている le の代わりに以下の表に示す助接詞を使うことで、「150年ちょうど」ではなく「150年以上」などを表現することができます。

単語	意味
levo	～以上
lehi	～超過
lede	～以下
letu	～未満

例えば、levo を用いると以下ようになります。

keqilac a zál e sod aqôl ilevo latvác 150.

▶ 私たちは築150年以上の家に住んでいる。

次に、「3人以上」や「3人未満」のように、基数について「以上」や「未満」などを表現したい場合を考えてみましょう。第28課で説明したように、基数を表現するには数詞の前に a' を付け、名詞に修飾させます。ここに le は出てこないのので、そのままでは上の表に挙げた助接詞を使うことはできませんが、a' の縮約前の形である avôl ile lêk には le が使われています。そこで、この略記前の形における le を上の表の助接詞に変えます。

ditat cákis a'c fe refet avôl iletu lêk ayos.

▶ 3人未満の友達と一緒に来てください。

序数の場合も同様に、ac' の縮約前の形 acál ile cav を用いて、ここに含まれている le を上の表の助接詞に変えます。

ilevo lêk ayos は「3個以上の」の意味なので3個を含みますが、ilehi lêk ayos は「3個超の」となり3個は含みません。このように、levo と lehi にはその数を含むか含まないかの違いがあります。しかし、数が大きくなると、その数を含むか含まないかがあまり重要ではなくなる場合があります。例えば、「5000人以上が来た」と言いたい場合、正確な人数を伝えたいという意図が

なければ、5000人ぴったりを含むかどうかはあまり重要ではありません。このような場合、levo を用いても lehi を用いても良いわけですが、levo の方を用いることが多いです。

cákes te saq ca kosrahit afik a zis avôl **ilevo** lêk 5000.

▶ 今日は 5000人以上の人がこの遊園地に来た。

lede と letu の場合も同様で、どちらを用いても意味がほとんど変わらないなら lede の方を使います。

新出単語

[名] desek … 靴
 [動] hap … 安い
 [名] yen … 1円
 [名] vâl … 1倍
 [名] japan … 日本
 [動] vâc … 広い
 [名] tanas … 中国

[動] citkul … 所属する
 [名] takâd … チーム
 [動] valát … 有名な
 [助] levo … ～以上の
 [助] lehi … ～超過の
 [助] lede … ～以下の
 [助] letu … ～未満の

sê, pa lesac a loc e pil?

▶ ねえ、何してるの？

hafe e kin yeleses a loc e sotishil.

▶ 孫の世話をしてくれてありがとう。

di'kozesis a'c, yo 'xastil, e'n dukécis okôk a'c e nodom.

▶ 絶対に嘘をつかないと、シャスティル、約束して。

1 間投詞

シャレイア語では、「こんにちは」や「さようなら」などの挨拶や「うわっ」などの掛け声のようなものは、「間投詞」と呼ばれる語彙的品詞に分類されます。これら間投詞という語彙的品詞に分類される単語は、文中では間投詞という文法的品詞として用いられます。語彙的品詞と文法的品詞の名前が同じですが、間投詞以外の単語が間投詞として使われることはないので、混乱の恐れはありません。

間投詞は、文中のあらゆる場所に置くことができます。この際、間投詞の前後に必ずタデックを置きます。ただし、間投詞が文頭にある場合はタデックはその直後のみに置き、間投詞が文末にある場合はタデックはその直前のみに置きます。

以下は、呼びかけを意味する *sê* を用いた例です。日本語では「ねえ」などに相当します。

sê, pa lesac a loc e pil?

▶ ねえ、何してるの？

pa pâmat a loc, **sê**, e kin bozetes a'c te tazît e tel?

▶ あなたが昨日私を殴ったのを、ねえ、忘れていたのですか？

間投詞は、それ単独で文を成すことができます。挨拶がこのような文の良い例です。

sîya.

▶ こんにちは。

2 主な間投詞

以下に、主な間投詞の一覧を示します。

間投詞	意味	間投詞	意味
sîya	こんにちは	hafe	ありがとう
pésa	おやすみなさい	kôde	なるほど
câvo	さようなら	sê	ねえ
dibe	ごめんなさい	tê	えっと

各間投詞を用いる場面は、横に付記した日本語を用いる場面とほぼ同じです。ただし、少し日本語の用法と異なるものがあるので、それについて補足しておきます。

sîya は人に挨拶するとき用いる間投詞で、時間に関わらず使うことができます。したがって、日本語の「おはようございます」と「こんにちは」と「こんばんは」のどれとしても使うことができます。仲が良い人が相手ならば、短く yâ と言うこともあります。

pésa は日本語の「おやすみなさい」に相当する単語ですが、まだ起きていようとしている人がこれから寝る人に向かって言う言葉です。これから寝る人は、代わりに「さようなら」に当たる câvo と言います。

tê は言い淀んだときに間を繋ぐために発する言葉です。日本語の「えー」や「えっと」や「あの一」などに相当します。繋ぐべき間が長いときは telê とも言います。

なお、上の表には載せませんでした。諸否疑問文に答えるときに使う ya と du も間投詞です。

3 助詞句をとる間投詞

一部の間投詞は、特定の助詞句をその直後に続けることで意味の補足を行うことができます。この場合、間投詞と助詞句の全体で1つの間投詞のように扱うことになります。

例えば、「ありがとう」を意味する hafe については、感謝している内容を kin 節にして e 句として hafe の直後に置くことができます。

hafe e kin yeleses a loc e sotishil.

▶ 孫の世話をしてくれてありがとう。

4 yo

日本語では、誰か人を呼びたいときに、その人の名前だけを述べれば呼びかけたことになります。しかしシャレイア語では、名前の前に助詞の *yo* を付ける必要があります。例えば、「シャスティル」という名前の人を呼びたいければ、*yo 'xastil* と言います。

yo 句は助詞句ですが、助詞句というよりは1つの間投詞のように用いられます。そのため、間投詞と同じく前後にタデックを置くのが普通です。

dì'kozesis a'c, yo 'xastil, e'n dukécís okôk a'c e nodom.

▶ 絶対に嘘をつかないと、シャスティル、約束して。

yo 句の中身は、人名だけでなく「先生」や「兄」などの人を指す一般名詞でも構いません。

yo nîl, pa dufeketat a loc omez?

▶ お兄ちゃん、まだ起きてないの？

5 間投詞として用いられる助詞句

yo 句以外の助詞句でも、定型表現としてそれ単体で間投詞のように用いられるものがあります。そのような助詞句の例を以下にいくつか挙げておきます。

表現	意味
<i>te lôk acál</i>	またね
<i>e pér asas</i>	良い夢を
<i>e taqxáf axaslef</i>	誕生日おめでとう
<i>yo loc</i>	すみません

te lôk acál は、直訳とすると「次の時間に」のようになり、また今度会うことを期待しつつ誰かと別れるときに使います。次に会う約束や機会がある場合は、*câvo* より *te lôk acál* の方が好まれます。

e pér asas は、これから寝ようとしている相手に言う言葉です。上で紹介した *pésa* は、実はこの表現を短くして1単語としたものです。

e taqxáf axaslef は、直訳では「素晴らしい誕生日を」となる表現で、相手の誕生日を祝う言葉です。*taqxáf* を別の記念日を表す単語に変えることで、その日を祝う表現にすることができます。例えば、「クリスマス」を意味する

taqsíq を用いて e taqsíq axaslef と言えば、「良いクリスマス」や「メリークリスマス」のような意味になります。

yo loc は、道端などで通りがかりの人に声をかけるときに用いる表現です。見知らぬ土地で人に道を聞きたいときや、インタビューで町の人に声をかけるときなどに使います。

ちなみに、第 26 課で出てきた相手への確認を表す pa e ayát という表現も、ここに挙げたような間投詞として用いられる助詞句だと考えられます。

新出単語

間 sê … ねえ

間 síya … こんにちは

間 pésa … おやすみなさい

間 cãvo … さようなら

間 díbe … ごめんなさい

間 hafe … ありがとう

間 kôde … なるほど

間 tê … えっと

間 yâ … やあ

間 telê … えっと

名 sotishil … 孫

動 kozes … 約束する

助 yo … ～よ

名 lôk … 時間

名 pér … 夢

動 sas … 良い

動 xaslef … 素晴らしい

名 taqsíq … クリスマス

kéces a ces e «nalsoles e nâd afik a tel.»

▶ 彼は「この木を植えたのは私だ。」と言った。

zavages a tel. «di'dufêcis a'c ca tel!»

▶ 私は叫んだ。「私に近づくな！」

zesqikas a ces la tal al'atis é al'aqec e xoq lîdac e a hinof.

▶ 彼女は1度か2度、お姉さんが読んでいる本を覗き込んだ。

1 直接話法と間接話法

kéc のように発言内容を kin 節句としてとる動詞は、kin 節の代わりに発された言葉をそのまま置くこともできます。このような場合、発言された文はラクトで囲みます。ラクトの中身は2文以上でも構いません。

kéces a ces e «nalsoles e nâd afik a tel.»

▶ 彼は「この木を植えたのは私だ。」と言った。

この文は、kin 節を用いた以下の文と同じ意味になります。

kéces a ces e kin nalsoles e nâd afik a ces.

▶ 彼はこの木を植えたのが彼だと言った。

最初の例のような発言内容をそのまま述べる方式を「直接話法」と呼び、次の例のような kin 節を用いる方式を「間接話法」と呼びます。

直接話法は、発言の内容だけでなく思考の内容も表すことができます。

reves a ces e «pa delivos vade pil a sakil?»

▶ 彼は「なぜりんごは落ちるのだろうか?」と思った。

直接話法ではそのときに発言された内容がそのまま使われるので、直接話法における tel は発言の発話者を表しますが、間接話法における tel はその文を述べた人を表します。したがって、直接話法からラクトを取り去って kin を前に付けば間接話法になるわけではないので、書き換えの際には注意してください。実際、最初の例では、直接話法におけるラクト内の tel が、間接話法では ces に置き換わっています。

2 時制と時間表現に関する注意点

直接話法と間接話法で *tel* の意味が変わることを述べましたが、同じような理由で、直接話法における時制や時間表現は発言した時間基準になります。しかし、第 14 課で学んだ通り、*kin* 節内の時制や時間表現も主節の動詞の時間基準になるので、多くの場合で言い換えは必要なくなります。

例を 1 つ挙げておきましょう。

kéces a tel e **«câses a tel e yetih avalát te tazît.»**.

▶ 「有名なアイドルに昨日会った。」と私は言った。

kéces a tel e kin **«câses a tel e yetih avalát te tazît.»**.

▶ 有名なアイドルに昨日会ったと私は言った。

1 つ目の文では直接話法が使われているので、ラクトットの中身は発言そのものです。したがって、*câses* の過去時制は発言時点より過去であることを意味し、*tazît* は発言日の前日を指します。一方、2 つ目の文では間接話法が使われています。*kin* 節の中の時制や時間表現は、主節である *kéces* が成立した時間を基準とした意味になるわけですが、この時間とはまさに発言した時間のことなので、*kin* 節の中での時間の基準は直接話法のとときと変わりません。そのため、*câses* は過去時制のままで良く、*tazît* もそのまま用いることができます。英語では *the day before* などと言い換える必要がありますが、シャレイア語ではその必要はありません。

3 句読点の使い方

直接話法においてラクトットで囲まれる内容は文なので、ラクトット内でない場合と同様に、最後にデックなどが必要です。したがって、これまでの例のように、ラクトットで囲まれた部分が文末に置かれた場合、ラクトット内の文の終わりを示すデックと全体の文の終わりを示すデックが連続する形になります。ただし、ラクトット内が数単語だけの 1 文の場合は、ラクトット内のデックを省略することがあります。

sitifes a ces e **«te lôk acál»**.

▶ 彼は「またね」と囁いた。

kéces a tel e **«sîya»**, *dà semiset a ces*.

▶ 私は「こんにちは」と言ったが、彼は黙っていた。

ラクトの内部がパデックやバデックで終わっている場合は、それを省略することはしません。

4 文から独立した発話部

直接話法を含む文において、ラクトで囲まれた部分を助詞ごとその文から取り除き、ラクトで囲まれた部分だけをその文の直後に独立して置くことができます。

例えば、以下の文を考えてみましょう。

zavages a tel e «di'dufêcis a'c ca tel!».

▶ 私は「私に近づくな!」と叫んだ。

発話部を含む e 句を文から取り除き、文の後に改めて発話部を置くと、以下のようになります。

zavages a tel. «di'dufêcis a'c ca tel!»

▶ 私は叫んだ。「私に近づくな!」

なお、この例のようにラクトで囲まれた部分が文から独立して置かれている場合、ラクトの中身が短くても文末のデックなどを省略することはしません。

5 叙述の現在時制

直接話法や間接話法は物語の記述でよく出てくるものですが、シャレイア語での物語の書き方には1つ特殊な慣習があるので、それについてここで触れておきます。

日本語では、「おばさんは川へ洗濯に行きました」のように、物語の記述には過去時制を用いるのが普通です。しかしシャレイア語では、過去時制ではなく現在時制を用いるのが一般的です。物語を過去に起こった事実として述べるのではなく、その場でまさに物語の内容が起こっているかのように話すのだと考えてください。このように使われる現在時制は、「叙述の現在時制」と呼ばれます。

zesqikas a ces la tal al'atis é al'aqec e xoq lîdac e a hinof.

▶ 彼女は1度か2度、お姉さんが読んでいる本を覗き込んだ。

この文は、『不思議の国のアリス』の一節をシャレイア語に訳したものです。主節の動詞である **zesqikas** は現在時制で用いられていますが、これが叙述の現在時制です。

叙述の現在時制が使われているとき、過去時制は物語が進行中の時間よりさらに前の時間を表すことになります。例えば、回想などがこれに当たります。日本語ではどちらも過去時制を用いることが多いので、物語の途中なのか回想なのかが分かりづらくなる場合がありますが、シャレイア語なら時制を見るだけで一目瞭然です。

第5課で現在時制と無相は同時に用いられないことを学びましたが、叙述の現在時制が用いられている場合は、主節でも現在時制無相が用いられることがあります。これは、現在時制が表す時間が物語の進行に伴って動くため、時間軸上の幅のある時間を表すようになるためだと考えてください。

 新出単語

動] nalsol … 植える

名] nâd … 木

動] deliv … 落ちる

名] yetih … アイドル

動] sitif … 呟く

動] zesqik … 覗く

ca yéf i tel, nicasés a tel e fokeq.

▶ 私の妻だ、私が鍵を渡したのは。

qolvabes a ces zi sod i tel e yelicnelas, axodol.

▶ 彼は私の家からネックレスを持ち去ったが、それは高価なものだ。

pa qetat a zel dusokat e a ces.

▶ 彼が知らないことなどであろうか。

a hitál!

▶ 鳥だ!

1 強調

助詞句は基本的に動詞の後に並べられますが、助詞句を文頭に移動させ、直後にタデックを置くことで、その助詞句を強調させることができます。第10課で、文末に置いた助詞句はその文の言いたいことを表しており強調されることを学びましたが、この構文を用いることで、それよりもさらに強く強調することができます。

ca yéf i tel, nicasés a tel e fokeq.

▶ 私の妻だ、私が鍵を渡したのは。

この例文では、ca句を文頭に移動させることで、鍵を渡した相手が妻であることを特別強調しています。

動詞修飾の副詞も同様に文頭に移動させることで強調することができます。また、文頭で強調される助詞句は2個以上でも構いませんし、助詞句と副詞を同時に強調することもできます。ただし、特に強調したいもの1つだけを文頭に移動させることが多いです。

ofev, ditat qikis a'c e fecaq ica qâz.

▶ 早く、父親への手紙を書いてください。

te sot a zissohiz, dôkak e zeqil ivo sokulsác.

▶ 今学生が、教室のパソコンを破壊した。

2 挿入

特定の語句を修飾する語句は、その前後にタデックを置くことで、被修飾語句の補足説明をしているというニュアンスに変わります。この構文を「挿入構文」と呼びます。ここで、特定の語句を修飾する語句とは、例えば、動詞に係る助詞句や副詞、および名詞に係る形容詞や限定節などです。なお、挿入する語句が文末にある場合は、タデックは前だけに置きます。

具体例を挙げて説明します。

qolvabes a ces zi sod i tel e yelicnelas, **axodol**.

▶ 彼は私の家からネックレスを持ち去ったが、それは高価なものだ。

この例文では、yelicnelas を修飾する axodol の前にタデックを打つことで、axodol の部分が挿入構文になっています。したがって、この文で表現したい内容は axodol を除いた「彼が私の家からネックレスを持ち去った」という部分であり、「ネックレスが高価である」という情報はあくまで補足であるというニュアンスになります。

挿入構文の場合に限り、副詞を助詞句と助詞句の間に置くことができます。この場合でも、1つの助詞句の中に割り込んで置くことはできません。

vomac catsatoz a tel, **olof**, li dales vo naflat afik.

▶ 私は、ときどきなのだが、犬をこの公園で散歩させる。

形容詞が挿入される場合は、挿入構文でない場合とで意味が大きく変わることがあるので注意してください。

qetat vo hif izi dèt a malek **amay** al'aqec.

▶ 机の上に2個の甘い飴がある。

qetat vo hif izi dèt a malek, **amay**, al'aqec.

▶ 机の上に2個の飴があるが、それらは甘い。

最初の文は挿入構文を用いていないものです。この場合、malek amay il'aqec で「2個の甘い飴」という意味の名詞の塊になっており、文全体はそれが机の上にあることを述べています。したがって、甘いもの以外の飴が机の上にあるかもしれません。一方、2つ目の文は挿入構文を用いているので、「甘い」を意味する amay は「2個の飴」を補足説明しているにすぎません。すなわち、この文が主に意味する内容は机の上に2個の飴があることなので、それらの飴以外に飴はないことになります。

固有名詞および fit や ces などの指示語のように、その語句だけで何を指しているかが1つに定まるものに対して、さらに何らかの修飾語句で説明を加えたいときは、常に挿入構文を用います。すでに1つに決まるものに対して、さらに修飾語句で意味を限定する必要はないので、必然的にその修飾語句は補足説明になるためだと考えてください。

xolacac a ces vo raxas, **salot a e solkut avâc ehiv.**

▶ 彼は最も広い国であるロシアで暮らしている。

この例にある raxas は「ロシア」という意味の単語ですが、ロシアは世界に1つしかありません。したがって、それを何らかの語句で修飾したい場合は、その語句は挿入構文になります。実際、上の例では salot 以下が挿入構文になっています。

3 反語

第9課では、通常の文の前に pa を置くことで諾否疑問文を作ることができると学びました。このとき、諾否疑問文であれば文末の記号をパデックに変えますが、デックのままにすると反語のニュアンスを出すことができます。

pa qetat a zel dusokat e a ces.

▶ 彼が知らないことなどだろうか。

この文の文末がパデックであれば、「彼が知らないことはありますか」という疑問文になります。文末をデックで終わらせることで、反語的にその疑問文の答えは「いいえ」であること、すなわち「彼が知らないことはない」ということを意味するようになります。

疑問詞を含む疑問文も反語にすることができます。

pa kilat lesos a pas e cal.

▶ 誰がそんなことをすることができますか。

この文は、「誰がそれをすることができますか」という疑問文が反語表現になっており、「誰もそれをすることはできない」という意味になっています。

4 遊離助詞句

外で鳥を見つけて「鳥だ」と言う場合など、口語では名詞だけを単独で述べたいときがあるでしょう。シャレイア語では、名詞は必ず助詞を伴う必要が

あるので、このような場合でも助詞が必要になります。この場合では a を用いるのが普通です。

a hitál!

▶ 鳥だ!

このような動詞を伴わない単独の助詞句は「遊離助詞句」と呼ばれます。第9課では疑問詞疑問文には助詞句単独で答えると学びましたが、これも遊離助詞句の一種です。さらに、第30課で出てきた間投詞のように用いられる助詞句も、動詞を伴わずに単独で用いられるので、遊離助詞句の一種になります。

綺麗な花を見かけて「綺麗だなあ」という場合など、形容詞を単独で述べたい場合も遊離助詞句が使えます。このような場合に用いる助詞句は、a ではなく e になります。

e ayerif.

▶ 綺麗だなあ。

このタイプの遊離助詞句に限り、e の前に salat の縮約形である s' が付けられることがあります。s' を付けると、「～だなあ」という詠嘆の意味が少し強まります。

s'e ayerif.

▶ 綺麗だなあ。

新出単語

動] nicas … 渡す
 名] fokeq … 鍵
 名] zissohiz … 学生
 動] dók … 破壊する
 名] sokulsác … 教室
 名] fecaq … 手紙
 動] qolvab … 持ち去る

名] yelichelas … ネックレス
 動] catsat … 散歩する
 名] hif … 上
 名] dèt … 机
 名] malek … 餡
 名] raxas … ロシア
 縮] s' … salat

演習問題 7

1. 次の比較表現を含む文に適切な語句を挿入することで、その差異や順位が指定された数値であることを説明する文を作りなさい。
 - (1) salat a soxsot aquk e adâd emic ini met i tel. ← 2.5 cm
 - (2) sôdes a ces e tomek avôl emic ini tel. ← 3 倍
 - (3) hisezes a zâl e hinad ahîq ehiv ive met ivo japan. ← 14 番目
2. 次の文を *levo*, *lehi*, *lede*, *letu* のいずれかを用いてシャレイア語に訳しなさい。
 - (1) この眼鏡は 5000 円以下だ。
 - (2) 23 kg を超えるものを持って来ないでください。
 - (3) 彼には 100 人以上の友達がいる。
3. 次の文を間投詞を用いてシャレイア語に訳しなさい。
 - (1) 私は、えっと、野菜が好きではありません。
 - (2) あの本を捨ててしまっでごめんなさい。
4. 次の文中に直接話法が含まれていれば間接話法に書き換え、間接話法が含まれていれば直接話法に書き換えなさい。
 - (1) tufoses a tel e «debat e tel.».
 - (2) kéces a ces e «ricames a tel vo risis te tazît.».
 - (3) cazes a ces ca tel e kin zedat câsis a ces e tel te tacâl.
5. 次の文中の下線部を文頭に移動させ、それを強調する文を作りなさい。
 - (1) kûves otudçat a fax i tel ca sokul.
 - (2) pa bavales a paş e likok i tel?

6. 次の文を日本語に訳しなさい。

- (1) xôyes a ces e sokul otîv iletu meris axal.
- (2) yo loc, pa sokat a loc e'n qetat vo pâd a kolothil?
- (3) zavages a ces e «tevodes e nât ivo nasfek a 'kelvis, a dutell», dà dukosatat a tel e cal.
- (4) a kin lizac olov a ces e rát aqonef iloke'n xaslihes a's qi pil, dîtikat ovel ebam e tel.
- (5) di'kécis a'c e «te lôk acál» lo di'dulis e «câvo». ri lis, qifit câsos ovop a tel e loc. pa e ayát?

7. 次の文をシャレイア語に訳しなさい。

- (1) 私の母は私の父より4歳年上だ。
- (2) ここで売られている腕時計は私の腕時計より10倍以上高い。
- (3) 私は、私の携帯電話をなくした彼に「ごめんなさい」と言ってほしい。
- (4) 彼のような優しい人が怒っているのを想像することなどできようか。
- (5) ねえ、流れ星だよ! 初めてなんだ、流れ星を見るのは。

新出単語

名	soxsot	… 辞書
動	dâd	… 厚い
動	tufos	… 呟く
名	risis	… 川
動	tudcat	… 予期せず
動	baval	… 割る

名	kolothil	… 空港
動	tevod	… 折る
動	kosat	… 信じる
動	liz	… 語る
動	xaslih	… 大成功する
動	dîtik	… イライラさせる

演習問題解答

演習問題 1

1.

- (1) licac
- (2) aqôl
- (3) obâl
- (4) terez
- (5) evoc

2.

- (1) 形容詞
- (2) 過去時制継続相自動詞
- (3) 副詞
- (4) 未来時制経過相他動詞
- (5) 副詞

3.

- (1) vilisac a tel.
- (2) zédices odalaz a ces. / zédices a ces odalaz.
- (3) déxes a tel etut.
- (4) fegis a ces e zeqil.
- (5) séqes a tel e qikov axodol afik.
- (6) catac a hinof i tel.
- (7) xolacac a qasot vo teqiv aqon ebam.

4.

- (1) 私は運動している。
- (2) 女性が公園で叫んでいる。
- (3) 彼は家を昨日売った。
- (4) 私は赤い腕時計をここに必ず持つてくるだろう。
- (5) 私は友達を椅子に座らせた。
- (6) 私は息子に眠るよう真剣に頼んだ。
- (7) 私の妹は少し甘いリンゴをこの店で買った。

5.

- (1) kâkak a monaf. / kâkes a monaf.
- (2) sôdac a ces e lesit.
- (3) déqat a tel te sot.
- (4) séqes a tel e letyem asaret ca ces.

- (5) lanis a qasot i tel ca naflat te tacál.
- (6) sâfat ovel ebam a tel e loqis.
- (7) kômez a ces li yaf e hâfeloq.

演習問題 2

1.

- (1) edubam
- (2) dutolècis
- (3) aduhafas
- (4) dulef

2.

- (1) yepelac a dus.
- (2) qetat a dat vo sokul afik.
- (3) salat a refet adak i tel e axelket.

3.

- (1) pa lanes a loc ca pâd?
- (2) pa selbutac a ces ca pas te sot?
- (3) pa sâfat a loc e loqiv apéf?

4.

- (1) vo naflat.
- (2) te lon i saq.
- (3) e sod avaf.

5.

- (1) sôdes e sakil afik.
- (2) déqites e tel a qaled.

6.

- (1) 私には姉がいない。
- (2) 彼女は彼氏ではない人に青い帽子をあげた。
- (3) 私は去年誰にもお金を貸さなかった。
- (4) あなたはあの古い洋服を捨てましたか？
- (5) あなたはどんな携帯電話を持っていますか？
- (6) なぜあなただけが彼に叱られているのですか？

- (7) 彼は今とても疲れている。

7.

- (1) salat a soqal afik e alevac.
(2) dupaqofat a tel e sokiq.
(3) pa qopates a loc e xoq i tel?
(4) pa liteqac a pas ca sod i tel te sot?
(5) pa sokes a ces e yét acik qi pil?
(6) kômez li tel a ces e solak.
(7) pa dodat e dus vade pil?

演習問題 3

1.

- (1) fesalat a tel e sakil é lesit.
(2) salat a xoq afik e aqôl à asokos.
(3) beqomes a ces zi tel e kisol, so fegis a ces e sod.
(4) déxet a ces, te zêfes a tel ca kosben.

2.

- (1) pa sâfat a loc e dales á monaf?
(2) pa qetat a loc te sot vo sod á kossax?
(3) pa sohizac a ces, lá pa tayelac a ces e sokul?

3.

- (1) sokat a ces e kin folanes ovip a tel.
(2) sâfat a tel e kin ricamos a tel vo riy.

4.

- (1) rafat yepelis a tel.
(2) kilat qikos a ces e tolék asaret ebam.
(3) dozat lakac a loc vo fêd qi qilxaléh.

5.

- (1) vomac teros otêl a tel e cèrzaf.
(2) vomac dufetekos a refet e tel zite tazîthil.

6.

- (1) あの人はあなたの姉ですか、それとも母ですか、それとも彼女ですか?
(2) 私の弟はお菓子を食べながら本を読んでいた。
(3) 私はあの男を必ず見つけようと思っている。
(4) 彼は私に流れ星を見たと言った。しかし、それは嘘だった。

- (5) もし私が空を飛ぶことだけでもできたら、私はあなたに会いに何度もアメリカに行くでしょう。

7.

- (1) kômez a tel li hay acik e hâfeloq ahafas o afehal.
(2) rafat lanis a tel ca riy fe refet.
(3) zazes e ces a kin edif liqetas a tel e ces.
(4) bozetes a tel e ces. vade, vomec déqitos otêl a ces e tel.
(5) ri ducazes ca tel a ces e rát acik, duqetat a tel te sot vo fêd.

演習問題 4

1.

- (1) ditat sohizis a'c.
(2) ditat dufovalis a'c zi sokul afik.
(3) ditat teris a zál te tacál e celvir.

2.

- (1) te fetekes a ces e tel, qetet a'l vo kolot.
(2) buqotet a ces e dales, dà mafetes a's e cit.
(3) dibulat a tel e'n medeles a'l e qiliv.
(4) di'yelesis a'c e sotis.

3.

- (1) sokesat a tel e dev, dà ducikekat a'l e met.
(2) kútat a tel e loqis azaf, lo zedat fegis a ces e met abig.
(3) lanes a tel ca kosdes, dà les a ces ca sod.
(4) vade qorases a ces ca amerikas, rafat lis a tel evoc.

4.

- (1) salat e refet i tel a zis hitat a vo qôd.
(2) pa salat e pet a vafos sâfat e a loc?
(3) zêfak a zál ca zîd xâfes vo e ces.
(4) qetat a hitál dusokat e kofet i a tel.

5.

- (1) 私が現れるまでそこにいてください。

- (2) 私はまだ眼鏡を見つけていないので、また眼鏡を買おうと思っている。
- (3) 彼があなたの指輪を盗んだというのは本当だ。なぜそんなことをしたのだろう？
- (4) 私が先週泳いだ海はとても美しい。
- (5) 彼が今歌っている歌の題名が思い出せない。もし知っていたら教えて。

6.

- (1) di'foqonis a'c e'n qorasis a'c te tacál.
- (2) dusâfat a tel e solak azaf afik. ditat cafosis a'c ca tel e met abig aquk.
- (3) rafat a fax i tel e'n qivlatis a'l e loqis, dà duzedat lis.
- (4) bûdezat e tel a refet salat a hinof i e adusafey.
- (5) te lídec a ces e xoq vo vocik, kûves ca cêd a monaf milcitat e a's.

演習問題 5

1.

- (1) pa salat e pas a fakel ite tazîť?
- (2) feges a tel e likok iso teros a'l e cêr.

2.

- (1) sâfat a tel e lic ie lasav.
- (2) bâges e tel a belset ia qasot.

3.

- (1) sokat a tel e rát ike'n fexasas e nîl.
- (2) salat a celvir afik e asaret iti rédac a tel.
- (3) sôdes a tel e retat asîtet ifeli cilít.
- (4) rafat qorasis a tel fe zis akelzef itace ces.

4.

- (1) salat a qaled i tel e asafey emic ini tel.
- (2) teres a tel e korac amay evêl ini micés.
- (3) salat a ces e asiref ehiv ive refet i tel.

5.

- (1) ricames a tel ovit emic ini kilat los a ces.

- (2) salat a ces e azisqom emic ini let te zik.

6.

- (1) 私は私の家から近いカフェにいた女性を公園で再び見かけた。
- (2) 私たちは輝く星でいっぱいの夜空に覆われていた。
- (3) 彼は私に電話しなかった。彼はそうするという約束を忘れているのだろうか？
- (4) 私たちはアメリカに住んでいたときほど幸せではない。
- (5) 私は他の誰よりも熱心に働いたので、今は何もしようと思わないほどに疲れている。

7.

- (1) qetat a kedxovas avól vo fecil ica kolot afik.
- (2) semisat a ces feli dufedakat a's e'n qòcasac e's a tel.
- (3) dozat tayelis a tel e sokulxoq afik otív evêl ini qifat las.
- (4) pa salat e pet a celvir axodol ehiv ive met kûtat e a loc?
- (5) te kéces a tel ca ces e'n vahixes a hinof i tel, dodes e's feli les a hinof i ces.

演習問題 6

1.

- (1) kômot a ces e levlis oduvák.
- (2) licis a tel e seklac afik oduvop.
- (3) sâfat a zis aduves e sakil.

2.

- (1) dusokat a tel e'n bâgat e ces vade pil.
- (2) decatak a ces e'n lanis á dulis a's ca hinad te tacál.

3.

- (1) xaletsez
- (2) tisilkaqotik
- (3) dafbacetcidilgetas-jeszizetotik
- (4) yosilkaqettisotik-pivasqecilsezetvon-dafbacilziqas-lamcidilotik

4.

- (1) milcítac a tel e monaf al'aqec.
- (2) vomes licos a ces e xiflohis te saq la tal al'axal.
- (3) lekutes a tel e hilvit te tazît la tal ac'apivet.

5.

- (1) salat a loces afik e alot ile mulôt 120.
- (2) hitazes a ces e gildat adôz ile dok 150.

6.

- (1) 彼がお菓子を食わずにテレビを見るということは決してない。
- (2) 私は2人の孫娘と一緒に出かけたわけではなく、私は誰も連れて行かなかった。
- (3) あなたが真実を隠しているのはあなたがそうしたいからですか、それともそう命じられたからですか？
- (4) 次の授業は15時10分に始まるので、15時までここに帰ってきてください。
- (5) 学校に来るのに3度遅れた生徒を先生が激しく叱っていた。叱ることが必ずしも彼が生徒を反省させるのに効果的というわけではないのに。

7.

- (1) duzedat fegis a ces e solak aduxodol.
- (2) dusokat a tel e kin qifit deqas a'l qi pil ca qasot e'n sohizis ozacàt a ces.
- (3) kavat a tel e refet al'aqec xâfes e te taq ac'29 ben ac'2.
- (4) vomac catsatos vo naflat afik te taq atov a fîled nisis a ca alosod ile latvác 108 te tacál.
- (5) lanis a tel ca kosdes acik la tal ac'axal, dà pâmat a'l e'n qetat a kedet apek vo pâd.

演習問題 7

1.

- (1) salat a soxsot aquc e adâd emic ile mulôt 2·5 ini met i tel.

- (2) sôdes a ces e tomek avôl emic ile vâl ayos ini tel.
- (3) hisezes a zál e hinad ahiq ehiv ile cav 14 ive met ivo japan.

2.

- (1) salat a levlis afik e axodol ilede yen 5000.
- (2) dítat dunifetis a'c e zat adôz ilehi dok 23.
- (3) kavat a ces e refet avôl ilevo lêk 100.

3.

- (1) dusâfat a tel, tê, e naved.
- (2) díbe e kin qonoces a tel e xoq aquc.

4.

- (1) tufoses a tel e kin debat e tel.
- (2) kéces a ces e kin ricames a's vo risis te tazît.
- (3) cazes a ces ca tel e «zedat câsis a tel e loc te tacál.»

5.

- (1) otudcat, kûves a fax i tel ca sokul.
- (2) a pas, pa bavales e likok i tel?

6.

- (1) 彼は部屋を5分未満で片付けた。
- (2) すみません、空港がどこにあるか知っていますか？
- (3) 彼は「庭の花を折ったのはケルヴィスだ、僕じゃない!」と叫んだが、私はそれを信じていない。
- (4) 彼がどのように大成功したかについてのつまらない話をずっと語っていることだ、私をとてもしらさせているのは。
- (5) 「またね」と言って、「さようなら」とは言わないで。そうすれば、またあなたに会えるでしょ？

7.

- (1) salat a fax i tel e alosod emic ile latvác apiv ini qâz i tel.
- (2) salat e axodol emic ilevo vâl atiset ini sokiq i tel a met qoletac e vo fêd.
- (3) rafat a tel e'n kécis e «díbe» a ces, paqofes a e sôlaq i tel.

(4) pa qifat pafisas a tel e'n bâgit e zis
asafey itace ces.

(5) sê, a xiflohis! la tal acates, licac a tel
e met.

新出単語一覽

- [縮] 's … ces
 [縮] s' … salat
 [動] sas … 良い
 [名] sakil … リンゴ
 [動] safey … 優しい
 [動] sav … した方が良くする
 [名] saq … 今日
 [動] sal … である
 [動] saret … おいしい
 [動] sâf … 好む
 [名] sâvak … 授業
 [名] sâlak … 葉
 [動] sez … 7
 [名] sekliac … 映画
 [動] selbut … 叱る
 [名] serin … 湖
 [動] semis … 黙る
 [問] sê … ねえ
 [動] séq … あげる
 [動] sitay … 挨拶する
 [動] sitif … 呟く
 [動] sivel … 詳しい
 [動] siref … おとなしい
 [問] síya … こんにちは
 [動] sítet … 酸っぱい
 [助] so … ～するために
 [名] sot … 今
 [名] sotis … 子供
 [名] sotishil … 孫
 [名] sod … 家
 [名] sodcat … 企画
 [動] sok … 知る
 [動] sokes … 必要な
 [名] sokiq … 腕時計
 [動] sokos … 価値のある
 [名] sokul … 部屋
 [名] sokulsác … 教室
 [名] sokulxoq … 図書室
 [名] socad … 事件
 [名] soqal … ボール
 [動] sox … 考える
 [名] soxsot … 辞書
 [名] soxal … 参考書
 [名] solkut … 国
 [名] solak … 洋服
 [動] sohiz … 勉強する
 [動] sôd … 食べる
 [名] sòlaq … 携帯電話
 [動] zaz … 驚かせる
 [名] zat … もの
 [動] zaf … 赤い
 [動] zavag … 叫ぶ
 [動] zacàt … 熱心に
 [動] zamek … 焼く
 [動] zâg … 熱い
 [名] zál … 私たち
 [動] zesqik … 覗く
 [動] zed … しようと思う
 [動] zekeq … クールな
 [名] zef … 赤
 [名] zecel … 問題
 [名] zeqil … 机
 [動] zehav … 乗り越える
 [動] zêf … 着く
 [動] zêr … 強い
 [動] zêhis … 作り上げる
 [動] zédic … 運動する
 [動] zécak … 勇敢な
 [助] zi … ～から
 [名] zis … 人
 [名] zissác … 教師
 [名] zissohiz … 学生
 [動] zisqom … 消極的な
 [助] zite … ～から
 [動] zifim … 帰る
 [動] ziq … 0.7
 [動] ziltis … からかう
 [動] zít … 前の
 [名] zíd … 場所
 [名] zîk … 昔

縮	t … cit	名	tonaslon … 夕食
助	tazi … ～にとって	名	tomek … 肉
名	tazît … 昨日	副	tut … だけ
名	tazîthil … 一昨日	動	tudkol … 急に
名	tat	動	tudcat … 予期せず
名	takâd … チーム	動	tufil … 珍しい
名	tacál … 明日	動	tufos … 呟く
助	tace … ～のような	動	tulaf … 空の
名	taq … 日	動	tûl … 小さい
名	taqsîq … クリスマス	名	dat … 何も～しない
名	taqxáf … 誕生日	動	dak … どんな～も～しない
名	taqit … 壁	動	daf … 0.1
名	taqòd … 鳥	動	dalaz … 元気な
名	tal … 1回	名	dales … 犬
名	talem … タオル	動	dâd … 厚い
名	tanas … 中国	連	dà … しかし
動	tayel … 掃除する	名	deset … ベッド
助	te … ～に	名	desek … 靴
名	tef … 1時間	名	dezet … 椅子
動	tevod … 折る	名	dekél … ホテル
動	tepit … 貼り付ける	名	dev … ペン
名	teqiv … 町	動	deb … 疲れさせる
名	tel … 私	動	decat … 決める
間	telê … えっと	動	deq … させる
名	telis … ご飯	動	deqig … 命じる
動	ter … 飲む	動	deliv … 落ちる
間	tê … えっと	動	denit … 下る
動	têl … ときどき	動	déq … 座る
名	téd … 扉	動	déqit … 馬鹿にする
名	tècaq … 船	動	déx … 寝る
助	ti … ～するほど	副	dès … より～でない
動	tis … 1	名	dèt … 机
動	tikos … 決める	縮	di' … ditat
動	tigum … 苦しませる	動	dit
名	tific … 子供	副	dif … さえ
名	tiqat … 男の子	間	dibe … ごめんなさい
名	tirmal … ジュース	動	dibul … 反省する
名	tiris … 赤ちゃん	動	dîtik … イライラさせる
副	tim … 少し	動	doz … しなればならなくする
動	tiv … 素早く	動	dod … 悲しませる
名	tîlirsîpviv … 四つ葉のクローバー	名	dok … 1kg
名	tosol … 帽子	動	dovek … 踏む
動	tov … それぞれの	副	doqhiv … 最も～ない
名	tolék … 料理	名	dol … どんなことも～しない
動	tolèc … 転がる	名	doldaz … ゴウ
名	tonasxav … 昼食	動	dôz … 重い

動 dôk … 破壊する
間 du … いいえ
名 dus … 誰も～しない
名 dud … 悲しみ
動 dum … 全く～しない
動 dûg … 決して～しない
動 kav … いる, ある
動 kaq … 8
動 kâk … 現れる
助 ke … ～という
動 kesel … 水色の
動 kezel … 上手な
名 keteq … 写真
名 kedxovas … 神社
名 kedet … 建物
動 keqil … 住む
動 kelzef … 頼もしい
動 kelit … 安心させる
動 kéc … 言う
名 kèc … コーヒー
名 kisol … お金
動 kig … 切る
動 kil … できるようになる
名 kossax … 学校
名 kosdes … 大学
名 kosben … 病院
名 kosrahit … 遊園地
動 kosat … 信じる
動 kosiz … 丁寧に
動 kozes … 約束する
名 kozis … 約束
動 kotik … 見つける
名 kofcaf … 題名
名 kofet … 名前
動 kocaq … 存在する
名 kolettèc … 港
名 kolot … 駅
名 kolothil … 空港
名 korac … 酒
間 kôde … なるほど
動 kôk … 必ず
動 kôm … 着る
名 kutaf … 口
動 kuf … 手に入れる
動 kulak … 鍵のかかった
動 kût … 所持する

動 kûv … 入る
名 kùd … 奥
動 get … 0.8
動 gisiv … 刺す
動 gicaz … 激しく
名 gildat … 岩
動 gilit … 尖った
名 ginet … 針
名 gulilsoz … 頭痛
名 fakrêy … 彼女
名 fakel … 女性
名 fax … 母親
名 fay … 娘
名 fayhil … 孫娘
助 fe … ～と一緒に
動 fesal … 欲する
名 fesotqik … 同僚
動 fetek … 連絡する
動 fedak … 気づく
動 fedàt … 知り合う
動 feket … 起きる
動 feg … 買う
動 fev … すぐに
動 fevet … 連れて行く
名 fecaq … 手紙
名 fecil … 周辺
動 fexas … 結婚する
動 felqot … 交換する
動 felaz … 一緒に
助 feli … まるで～のように
動 ferac … 手伝う
動 fehal … かわいらしい
動 fêz … するように思わせる
名 fêd … ここ
動 fêc … 近い
動 fév … 貸す
名 fit … これ
動 fik … この
名 filed … おばあさん
名 fosnal … 村
名 fokeq … 鍵
動 foval … 出る
動 foqon … 諦める
動 folan … 出かける
動 fôv … 開ける
動 fôc … 始める

動 fus … 0.9
助 vade … ～なので
名 vadeŋ … 理由
動 vaf … 大きい
名 vafos … 動物
名 valgot … 熊
動 valcas … 眺める
動 valát … 有名な
動 vahix … 死ぬ
動 vâc … 広い
名 vâl … 1倍
動 vák … 常に
名 vác … 年
動 ves … 全ての
動 vel
名 velex … 色
副 vêc … すぎる
副 vêt … 同じくらい
動 vit … 速く
動 vituf … 単純な
動 vip … もう
動 vilis … 走る
動 vític … 見かける
助 vo … ～で
名 voston … レストラン
動 vosfom … 膨大な
名 vosras … カフェ
名 vosis … 店
動 votiq … いっぱいの
動 vop … 再び
副 voc … も
名 vocik … テラス
名 voláq … バス
動 von … 9
動 vom … 繰り返す
動 vôi … たくさんの
機 pa
名 pas … 誰
動 pafis … 想像する
動 pafik … 思い出す
動 pac … 尋ねる
動 paqof … なくす
動 palev … 探す
動 pariq … 消える
名 pâd … どこ
動 pâm … 忘れる

動 párel … 謎の
名 pet … 何
動 pek … どの
動 pehor … 上の空にする
間 pésa … おやすみなさい
動 péf … どのような
名 pér … 夢
動 piv … 4
名 pil … どんなこと
動 pît … 怖がらせる
動 poqos … 眺める
名 bag … 青
助 bava … ～だけれども
動 baval … 割る
動 bac … 0.4
副 bam … とても
動 bâg … 怒らせる
動 bâl … 突然
動 beqom … 盗む
動 belset … いたずらする
名 ben … 月
動 big … 青い
動 bozet … 殴る
動 buqot … 嫌う
動 bûd … 悪い
動 bûdez … 妬む
縮 'c … loc
助 ca … ～に, ～へ
動 casat … 効果的な
動 caz … 伝える
動 cazec … 真剣に
動 cat … 歩く
動 catsat … 散歩する
助 cate … ～まで
動 cates … 最初の
名 cakul … 靴
動 cafos … 見せる
名 cav … 番
動 cac … 新しい
名 cal … そのこと
動 caliq … 出発する
動 câs … 会う
間 câvo … さようなら
動 cák … 来る
動 cál … 次の
名 ces … 彼, 彼女

名 celvir … ワイン
名 cêd … そこ
名 cêr … お茶
名 cêrzaf … 紅茶
名 cit … それ
動 citkul … 所属する
動 cid … 0.2
動 cik … その
動 cikek … 携帯する
助 cife … ～しながら
動 cipas … 頼む
名 ciqid … 週
名 cilît … レモン
名 qasot … 息子
名 qazrêy … 彼氏
名 qazek … 男
名 qaled … 弟
名 qâz … 父親
名 qâzhil … 祖父
動 qet … いる, ある
動 qetan … 動く
動 qec … 2
動 qerit … 聴く
助 qi … ～で
動 qidok … 修理する
動 qik … 作る
動 qiket … 働く
名 qikov … パソコン
動 qif … できるようにする
動 qivlat … 操縦する
名 qilxaléh … シャレイア語
名 qiliv … テレビ
名 qilox … 言語
名 qinat … 絵
動 qinil … 運ぶ
動 qil … 使う
名 qos … あの人
動 qokuz … 隠す
動 qopat … 隠す
動 qolvab … 持ち去る
動 qolet … 売る
動 qoras … 旅行する
動 qon … 遠い
動 qonef … つまらない
動 qonec … 捨てる
名 qôd … あそこ

動 qôc … 他の
動 qôi … 古い
動 qòcas … 呼ぶ
動 quk … あの
動 xaslef … 素晴らしい
動 xaslih … 大成功する
動 xasak … 成功させる
名 xasol … 魂
動 xal … 5
動 xalket … かつこいい
動 xây … 幸せにする
動 xáf … 産む
動 xedfet … 静かな
名 xiflohis … 流れ星
動 xodol … 高価な
名 xoq … 本
動 xolac … 暮らす
動 xôy … 片付ける
動 xòc … 賢い
名 japan … 日本
動 jes … 0.5
動 judôi … 汚い
縮 'l … tel
動 l
助 la … ～で
名 lasav … アニメ
名 latvác … 1年
動 lak … 話す
名 lakad … 文字
名 lacat … 小説
名 laxqov … 人形
名 laxol … 人間
動 lan … 行く
名 lanqos … 老人
動 lam … 0.6
連 lá … または
助 le … ～の
動 les … する
名 lesit … ミカン
名 letyem … チョコレート
助 letu … ～未満の
助 lede … ～以下の
動 lekut … 乗る
名 lef … 知人
名 levlis … 眼鏡
動 levac … オレンジ色の

助 levo … ～以上の
助 lehi … ～超過の
名 lèk … 個
連 lé … または
助 li … ～を, ～に
名 liqid … フォーク
動 liz … 語る
動 liteq … 通過する
動 lides … 判断する
動 likxel … 輝く
名 likis … 線
名 likok … コップ
動 lic … 見る
動 lican … 応答する
動 liqet … 電話する
動 lid … 読む
名 liker … ピアノ
動 lik … 固有の
連 lo … そして
動 losod … 年をとった
動 lot … 長い
助 loke … ～に関して
動 lof … よく
名 lofyet … リボン
動 lov … ずっと
名 loc … あなた
名 loce … 棒
名 loqis … 車
名 loqiv … 電車
名 lon … 夜
動 lohis … 飛ぶ
名 lôr … 1m
名 lôk … 時間
名 lôcet … テープ
動 lôq … 貸す
動 lôx … 永遠に
名 rakal … ゲーム
動 raf … 望む
動 rafles … 会話する
名 raxas … ロシア
動 rahas … 楽しませる
動 rahit … 遊ぶ
名 rát … 話
動 rescal … 鑑賞する
動 rez … 笑う
名 retat … お菓子

名 refet … 友達
動 rev … 思う
名 reláf … 曲
動 réd … 泣く
助 ri … もし～
名 ris … 誰でも
動 risfev … 演奏する
名 risis … 川
動 ric … 6
動 ricam … 泳ぐ
名 rix … 水
名 riy … 海
名 rihic … 虹
縮 'n … kin
名 nasfek … 庭
名 naflat … 公園
動 nav … 黄色い
名 naved … 野菜
動 nalsol … 植える
名 nâd … 木
名 nât … 花
名 nellot … キリン
名 nelas … 首
名 nemok … 鼻
動 nis … 変わる
動 nistecaf … 幸運な
動 niscadey … 感動的な
名 nitez … 坂
動 nifet … 持って来る
動 nicas … 渡す
動 niciq … 動く
動 nîp … 去る
名 nîl … 兄
名 nodom … 嘘
動 nof … 0
名 matef … パン
動 mafet … 触る
名 macak … ケーキ
名 malek … 館
動 marit … 洗う
動 may … 甘い
名 márec … 桃
動 mez … まだ
名 met … それ
動 medel … 壊す
動 meber … 眠くする

動 melos … 遅れる
名 meris … 1分
動 mêl … ゆっくりと
副 mic … より
名 micés … イチゴ
動 milcit … 飼う
名 monaf … 猫
動 mul … 0.0
名 mulôt … 1 cm
間 ya … はい
名 yaf … 妹
動 yalif … 人気のある
間 yâ … やあ
動 yâl … 問題ない
動 yát … 本当の
名 yetih … アイドル
動 yepel … 歌う
名 yepil … 歌
動 yeles … 世話をする
名 yelicsiloz … 指輪
名 yelicnelas … ネックレス
動 yerif … 美しい
名 yen … 1円
名 yét … 真実
名 yéf … 妻
助 yo … ～よ
動 yos … 3
動 hafas … ピンクの
間 hafe … ありがとう
動 hap … 安い
名 haqpet … お化け
動 har … 気分良くさせる

動 hanot … 放り投げる
名 hay … 女の子
名 hâl … スカート
名 hâfeloq … ワンピース
動 hâr … 笑う
動 hisez … 登る
動 hit … 立つ
動 hitaz … 持ち上げる
名 hitál … 鳥
名 hidsol … 橋
動 hikut … 覆う
名 hif … 上
副 hiv … 最も
名 hivas … 空
動 hiq … 高い
名 hilvit … 飛行機
動 hilef … 大好きになる
名 hinad … 山
名 hinof … 姉
名 híxlon … 夜空
動 hut … 0.3
助 a … ～が, ～は
縮 ac' … acál ila cav
縮 al' … avôi ile lèk
名 amerikas … アメリカ
連 á … または
連 à … しかし
助 e … ～を
連 é … または
助 i … ～の
連 o … と
連 ò … かつ

入門 シャレイア語

2018年11月27日 第1版発行
未定 第2版発行

著者

Ziphil Shaleiras
ziphil.shaleiras@gmail.com
<http://ziphil.com>

© 2021 Ziphil Shaleiras